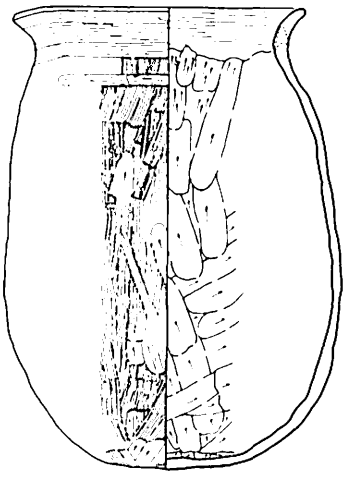
熊本大学埋蔵文化財調査報告書第７集

# 熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅶ

## ― 黒髪南地区工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査報告書 ―



2010

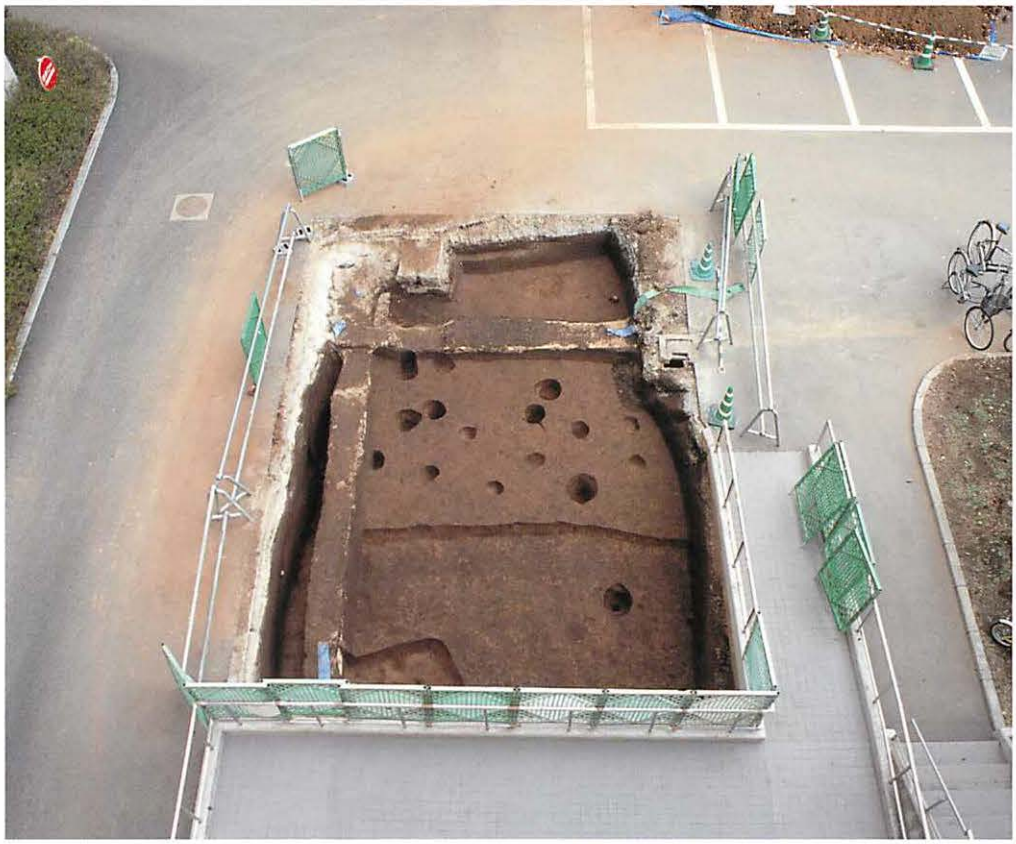
熊本大学埋蔵文化財調査室

# 熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅶ

— 黒髪南地区工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う
発掘調査報告書 —

2010

熊本大学埋蔵文化財調査室



1. 0513理⑥調査地点１面全景（西より）

2. 0513工①調査地点発掘調査風景（西より）

# 序　　文

2005年は本学における再開発がスタートしてほぼ11年目となる。この間、数多くの地区において校舎建設に伴い大規模な発掘調査や数多くの立会調査を実施してきた。校舎の改築とライフラインの再整備は大学の直面する喫緊の課題であるが、構内にある埋蔵文化財の配慮を欠いてはならない。とくに今回PFI事業による校舎改修や設備整備を行った黒髪南地区は、大宰府へ繋がる古代宮道の通過する重要な拠点にあたり、古代豪族建部公の居住地や古代駅制の駅家の「蚕養」駅の推定地として注目されている。本地区では、これまで埋蔵文化財調査室が行った既往の調査で、これに関連する道路跡や建物址がすでに発見されており、これらに出仕した下級官吏層の住居と思われる竪穴住居の址も多数検出されている。

今回実施した発掘調査や立会調査の規模は決して大きいとは言えないが、各調査において、古代を中心とした遺構群や遺物群が検出され、本地域の特性がさらに浮彫にされたといえる。この調査成果は今後古代官衙の建物群の配置やその周辺景観を探る上で貴重な基礎情報となるであろう。

本書は本事業に伴って３年間にわたって実施した調査の成果を広く公開し、一般市民の方に埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうとともに、学術研究資料としての利用を図るものである。

本学の再開発は継続中であるが、今後も文化財の保護と普及啓蒙に努力していきたい。この間、調査にご協力を惜しまれなかった熊本市教育委員会、熊本県教育庁および周辺市町村の文化財ご担当各位に感謝申し上げます。

平成22年３月31日

熊本大学埋蔵文化財調査委員会

委員長　　伊藤　重剛

# 例　　言

1．本報告書は、平成17～19年に熊本大学黒髪南地区で実施されたPFI事業：黒髪南地区工学部他校舎改修施設整備等事業によって熊本大学黒髪南地区敷地内において行われた工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査室が2005～2007年度に実施した発掘調査に関する報告書である。

2．発掘調査の成果は年度ごとに整理し、報告する。このPFI事業に関連する熊本大学埋蔵文化財調査室の調査番号は以下のとおりである。

　2005年度：5013, 2006年度：0611・0612, 2007年度：0703・0715

発掘調査地点は、この調査番号に建物を示す工学部の「工」と理学部の「理」を付与し、細かな工事個所ごとに枝番号をその後に付して標記している。

3．以上の調査を実施した2005～2007年度の埋蔵文化財調査室の組織と調査体制は以下のとおりである。

2005年度　室　　長：甲元眞之（文学部教授）（７月まで）・木下尚子（文学部教授）（10月以降）

調　査　員：小畑弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）・檀　佳克（技術補佐員）

事務補佐員：前田知聖

2006年度　室　　長：木下尚子（文学部教授）

調　査　員：小畑弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）・檀　佳克（技術補佐員）

事務補佐員：中川木綿子

2007年度　室　　長：木下尚子（文学部教授）

調　査　員：小畑弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）・江頭俊介（技術補佐員）

事務補佐員：中川木綿子

4．本文は、小畑弘己、大坪志子、檀　佳克、江頭俊介が執筆した。

5．本書に使用した遺構実測図に関しては、上記調査員以外に、調査に参加した熊本大学考古学研究室学生、埋蔵文化財サポートによるものである。

6．本書に使用した遺物実測図は、上記調査員の他、熊本大学考古学研究室学生、長谷智子、山嵜早苗が作図した。

7．本書に使用した図版の製図は上記調査員のほか、増井弘子、鬼塚美枝が行った。

8．遺構実測及び製図には手描による記録とともに遺跡調査汎用システム（カタタ Ver. 3 －アーケオテクノ社）、アイシン精機株式会社の遺跡実測支援システム「遺構くん」及び製図システム「トレース３Ｄくん」を使用した。

9．本書に使用した現場写真は上記調査員が、遺物写真は小山正子、末吉美記、溜渕俊子がこれを撮影した。

10．本書で使用した遺物観察表は、上記調査員のほか、江口　路、鬼塚、首藤優子、溜渕、長谷、山嵜が作成した。

11．本書に掲載した出土遺物および記録類は、すべて熊本大学埋蔵文化財調査室が保管している。

12．本書の編集は小畑、大坪が行った。

# 本　文　目　次

1．発掘調査の経緯と調査経過
（1）発掘調査の経緯 …… 1
（2）調査経過 …… 1
2．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513工①調査地点）
（1）調査の目的と経過 …… 5
（2）調査区の基本層序 …… 5
（3）検出遺構 …… 5
（4）出土遺物 …… 8
（5）まとめ …… 8
3．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513工③調査地点）
（1）調査の目的と経過 …… 9
（2）調査区の基本層序 …… 11
（3）検出遺構 …… 11
（4）出土遺物 …… 11
（5）まとめ …… 12
4．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513工⑱調査地点）
（1）調査の目的と経過 …… 13
（2）調査区の基本層序 …… 13
（3）検出遺構 …… 13
（4）出土遺物 …… 13
（5）まとめ …… 14
5．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513工⑲調査地点）
（1）調査の目的と経過 …… 15
（2）調査区の基本層序 …… 15
（3）検出遺構 …… 15
（4）出土遺物 …… 15
（5）まとめ …… 16
6．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513理①・⑤調査地点）
（1）調査の目的と経過 …… 17
（2）調査区の基本層序 …… 19
（3）検出遺構 …… 19
（4）出土遺物 …… 19
（5）まとめ …… 22
7．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513理⑥調査地点）
（1）調査の目的と経過 …… 24
（2）調査区の基本層序 …… 24
（3）検出遺構 …… 25
（4）出土遺物 …… 27

（５）まとめ ……28
８．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513理⑩調査地点）
（１）調査の目的と経過 ……29
（２）調査区の基本層序 ……29
（３）検出遺構 ……32
（４）出土遺物 ……35
（５）まとめ ……35
９．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0612理②調査地点）
（１）調査の目的と経過 ……39
（２）調査区の基本層序 ……39
（３）検出遺構 ……39
（４）出土遺物 ……39
（５）まとめ ……40
10．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0612理④調査地点）
（１）調査の目的と経過 ……41
（２）調査区の基本層序 ……41
（３）検出遺構 ……41
（４）出土遺物 ……46
（５）まとめ ……46
11．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0703工⑦調査地点）
（１）調査の目的と経過 ……50
（２）調査区の基本層序 ……50
（３）検出遺構 ……50
（４）出土遺物 ……53
（５）まとめ ……53

## 挿　図　目　次

図１　黒髪町遺跡群の位置と周辺遺跡の分布図（１/25000）……２
図２　2005年度の調査地点配置図（１/2000）……３
図３　0513工①調査地点遺構実測図（１/100・１/50）……６
図４　0513工①調査地点出土遺物実測図（１／４）……７
図５　0513工③調査地点１区・３区遺構配置実測図・３号溝土層断面実測図・２号竪穴住居址土層断面実測図（１/200・１/50）……10
図６　0513工③調査地点出土遺物実測図（１／４）……10
図７　0513工⑱・⑲調査地点遺構配置実測図・土層柱状図（１/50）……14
図８　0513理①調査地点遺構配置実測図・調査区北壁土層断面実測図・１・２号竪穴住居址実測図（１/200・１/50）……18
図９　３号竪穴住居址実測図（１/50）……20
図10　0513理①調査地点出土遺物実測図１（１／４）……21
図11　0513理①調査地点出土遺物実測図２（１／２・１／４）……22

図12　0513理⑥調査地点遺構配置実測図（1/100）……25
図13　0513理⑥調査地点調査区壁土層断面実測図（1/50）……26
図14　0513理⑥調査地点1号掘立柱建物址実測図（1/50）……26
図15　0513理⑥調査地点出土遺物実測図（1/2・1/4）……28
図16　0513理⑩調査地点遺構配置実測図（1/200）……30
図17　0513理⑩調査地点調査区壁土層断面実測図（1/50）……31
図18　1（3）・9・6号竪穴住居址実測図（1/50）……33
図19　10・11・17・30号竪穴住居址実測図・2号溝土層断面実測図（1/50）……34
図20　0513理⑩調査地点出土遺物実測図（1/2・1/4）……36
図21　2006年度の調査地点配置図（1/2000）……38
図22　0612理②調査地点遺構配置実測図・土層柱状図（1/200）……40
図23　0612理④調査地点遺構配置実測図（1/300）……42
図24　19・69・70号溝・77号竪穴住居址土層断面図・43号土坑実測図（1/50・1/10）……44
図25　0612理④調査地点出土遺物実測図（1/4）……45
図26　2007年度の調査地点配置図（1/2000）……49
図27　0703工⑦調査地点遺構配置実測図1（1/150）……51
図28　0703工⑦調査地点遺構配置実測図2（1/150）……52
図29　2号竪穴住居址および周辺の遺物出土状況図……53
図30　0703工⑦調査地点出土遺物実測図（1/4）……54

## 巻頭図版目次

1．0513理⑥調査地点1面全景（西より）
2．0513工①調査地点発掘調査風景（西より）

## 図版目次

図版1　0513工①調査地点……55
写真1　調査区中央部（西より）
写真2　調査区全景（南より）
写真3　調査区全景（北東より）
写真4　調査区全景（西より）
写真5　1・2号竪穴住居址（西より）
写真6　1・2号竪穴住居址（北より）
写真7　2号竪穴住居址（南より）
写真8　23号竪穴住居址（北東より）
図版2　0513工①調査地点……56
写真9　1号竪穴住居址竈（南より）
写真10　1号竪穴住居址竈堀上げ状況（西より）
写真11　2号竪穴住居址竈（南より）
写真12　23号竪穴住居址竈部分（北より）
写真13　発掘調査風景（西より）
図版3　0513工①調査地点出土遺物……57
図版4　0513工③調査地点・出土遺物……58
写真14　0513工③1区間全景（東より）
写真15　2号竪穴住居址掘削状況（北より）
写真16　3・4号溝完掘状況（南より）
写真17　3・5号溝土層断面（北より）
写真18　0513工③2区間全景（北西より）
写真19　0513工③3区間全景（東より）
図版5　0513工⑱・⑲調査地点……59
写真20　0513工⑱作業風景（北より）

写真21　外灯基礎②地点掘削状況（西より）
写真22　0513工⑲作業風景（南より）
写真23　外灯基礎掘削状況（南より）
図版６　0513理①・⑤調査地点……60
写真24　掘削前風景（北より）
写真25　調査区南部包含層検出状況（南より）
写真26　一次掘削風景（南より）
写真27　調査区北端小屋撤去完了状況（0513理⑤調査地点・南より）
写真28　0513理①調査地点遺構検出状況（東より）
図版７　0513理①・⑤調査地点……61
写真29　１号竪穴住居址検出状況と調査区土層（北より）
写真30　１号竪穴住居址（南より）
写真31　１号竪穴住居址竈完掘状況（南より）
写真32　３号竪穴住居址竈（南より）
写真33　３号竪穴住居址竈土器出土状況（南より）
図版８　0513理①調査地点出土遺物１……62
図版９　0513理①調査地点出土遺物２……63
図版10　0513理⑥調査地点……64
写真34　調査区１面全景（西より）
写真35　15・16号竪穴住居址掘削状況（北より）
写真36　調査区２面21号溝完掘状況（北より）
写真37　調査区南壁土層断面（北より）
写真38　調査区北壁土層断面（東より）
図版11　0513理⑥調査地点出土遺物……65
図版12　0513理⑩調査地点……66
写真39　調査区南半全景（北より）
写真40　Ⅰ区西土層断面（北東より）
図版13　0513理⑩調査地点……67
写真41　１号竪穴住居址竈検出状況（西より）
写真42　１号竪穴住居址竈土層断面（西より）
写真43　６号竪穴住居址焼土断面（北より）
写真44　６号竪穴住居址竈付近遺物出土状況（南より）
写真45　６号竪穴住居址完掘状況（南より）
写真46　10号竪穴住居址床検出状況（北より）
写真47　17号竪穴住居址完掘状況（北より）
写真48　30号竪穴住居址完掘状況（西より）
図版14　0513理⑩調査地点……68
写真49　２号溝完掘状況（南より）
写真50　２号溝土層断面（北東より）
写真51　23号溝完掘状況（南より）
写真52　Ⅰ区南部完掘状況（西より）
写真53　Ⅱ区完掘状況（北より）
写真54　Ⅲ区全景（東より）
写真55　Ⅳ区完掘状況（東より）
図版15　0513理⑩調査地点出土遺物……69
図版16　0612理②調査地点……70
写真56　調査区全景（南より）
写真57　６号溝掘削状況（西より）
写真58　６号溝土層断面（西より）
写真59　調査風景（南西より）
写真60　調査区北半掘削状況（南より）
図版17　0612理④調査地点……71
写真61　43号遺構骨出土状況（南より）
写真62　30号溝（南より）
写真63　21号竪穴住居址（北より）
写真64　24号竪穴住居址（東より）
写真65　20号竪穴住居址（南より）
写真66　１・２区全景（西より）
写真67　４区全景（北より）
写真68　４区西部全景（東より）
図版18　0612理④調査地点……72
写真69　４区東隅全景（北西より）
写真70　43号土坑掘り下げ（南より）
写真71　43号土坑礫裏に付着した銅銭
写真72　３区全景（南東より）
写真73　５区全景（西より）
写真74　69号竪穴住居址（北より）
写真75　70号溝（北より）

写真76　77号竪穴住居址（東より）
図版19　0612理④調査地点出土遺物１……73
図版20　0612理④調査地点出土遺物２……74
図版21　0703工⑦調査地点……75
写真77　１号竪穴住居址竈出土土器（北より）
写真78　同上部除去後（北より）
写真79　３区掘削状況（西より）
写真80　２号遺構出土小型壺（北より）
写真81　１号竪穴住居址・２号遺構検出状況（西より）
図版22　0703工⑦調査地点出土遺物……76

# 表　目　次

表１　黒髪南地区工学部他校舎改修施設整備等工事に伴う埋蔵文化財調査一覧……１
表２　0513工①調査地点出土遺物一覧表……８
表３　0513工③調査地点出土遺物一覧表……12
表４　0513理①調査地点出土遺物一覧表……23
表５　0513理⑥調査地点出土遺物一覧表……28
表６　0513理⑩調査地点出土遺物一覧表……37
表７　0612理④調査地点出土遺物一覧表……47
表８　0703工⑦調査地点出土遺物一覧表……54

# 1．発掘調査の経緯と調査経過

## （1）発掘調査の経緯

第20回埋蔵文化財調査委員会（平成16年10月７日（水）開催）において、施設部より平成17年度施設費要求事業のうち、PFI（Private Finance Initiative：公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、運営能力及び技術的能力を活用して行う事業）として（本荘）発生医学研究センターおよび（黒髪南）工学部他校舎改修の２件が財務省へ予算要求されたとの報告があった。このうち、当該年度の埋蔵文化財の発掘調査が見込まれるものとして、第21回埋蔵文化財調査委員会（平成17年４月28日（木）開催）」において、（黒髪）情報ネットワーク館本体工事、（医病）基幹・環境整備（山崎記念館）、（黒髪南）工学部他校舎改修（PFI 事業）が施設部より提示された。

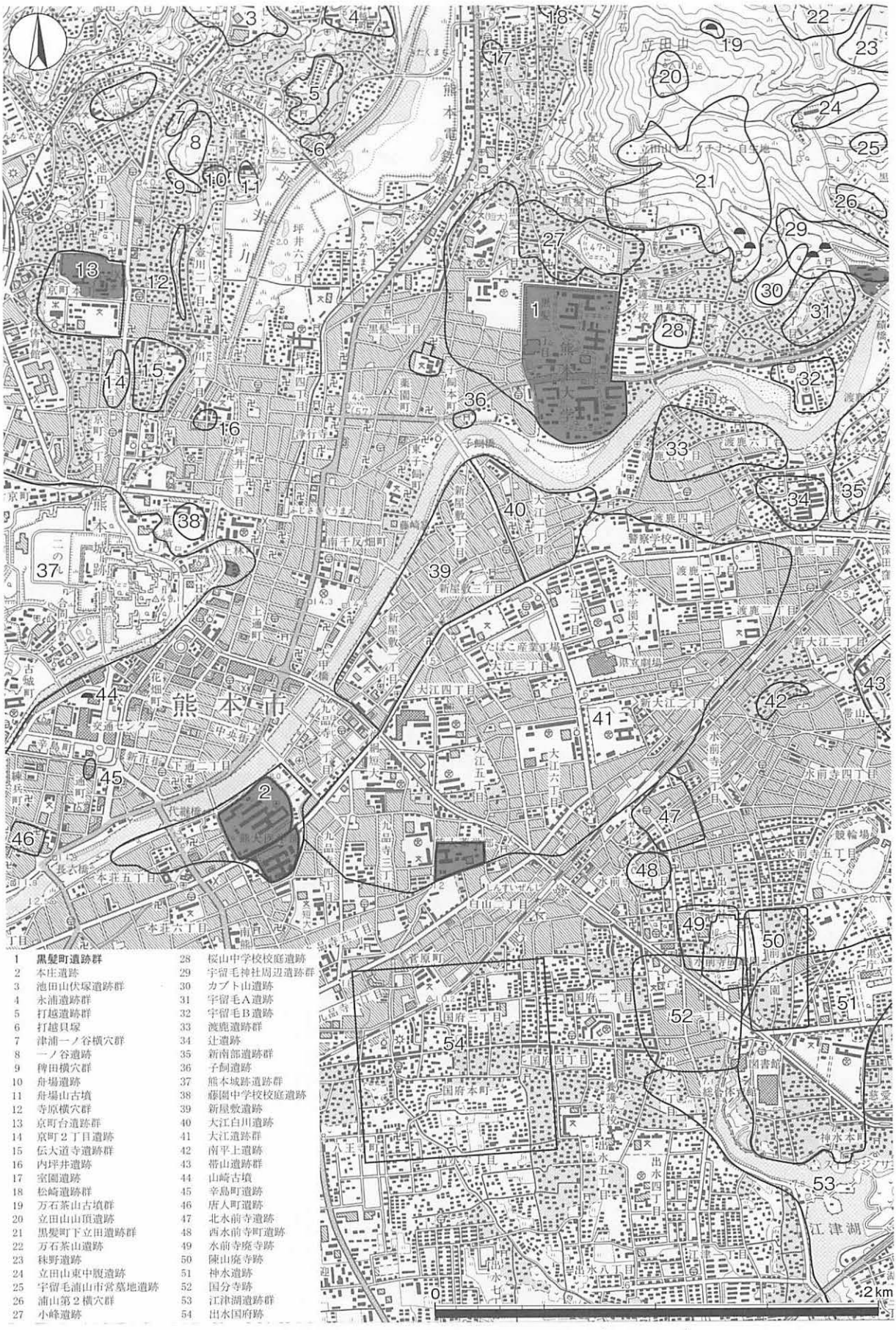
これに関する埋蔵文化財調査委員会の決議を受け、埋蔵文化財調査室では平成17～20年度事業として、建設業者と協議しながら、工区内の発掘調査および立ち合い調査を実施することとした。

## （2）調査経過

調査は表１にあるとおり、工事の進捗に合わせ、３年間に63回の立会調査を行い、遺構の存在が予想される地点においては、当初から発掘調査とした。2005年度の調査は、工学部１号館・同２号館、工学部資料館、工学部実験棟、理学部１・２号館とその周辺を中心に、立会調査32件（調査総面積3164㎡）、立会調査から発掘調査へ切り替わったもの２件（調査総面積112㎡）、発掘調査５件（調査総面積411㎡）であった。2006年度の調査は、工学部１号館と理学部１号館およびその周辺を中心として、立会調査12件（調査総面積557㎡）、立会調査から発掘調査へ切り替わったもの２件（調査総面積30㎡）、発掘調査２件（調査総面積162㎡）であった。2007年度の調査は、本部と工学部１号館の間、理学部１号館、同２号館、同３号館およびその周辺で、立会調査13件（調査総面積3019㎡）、立会調査から発掘調査へ切り替わったもの１件（調査総面積275㎡）であった。なお、遺跡の立地や概要に関しては、既刊報告書を参照されたい。

**表１　黒髪南地区工学部他校舎改修施設設備等工事に伴う埋蔵文化財調査一覧**

| 調査年度 | 事業名番号 | 調査方式 | 調査番号 | 対象学部 | 枝番号 | 調査期間 | 面積（㎡） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2005 | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 4 | 2005/8/2 - 8/3 | 9.7 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 理学部 | 2 | 2005/8/2 - 25 | 198.75 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 6 | 2005/8/5 - 10 | 17.8 | |
| | 2 | 発掘 | 0513 | 工学部 | 1 | 2005/8/8 - 18 | 80.88 | 本書所収 |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 13 | 2005/8/19 - 29 | 259 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 12 | 2005/8/23 - 29 | 17.2 | |
| | 1 | 立会 | 0513 | 工学部 | 7 | 2005/8/25 | 14.7 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 8 | 2005/8/25 | 86.1 | |
| | 1 | 立会 | 0513 | 理学部 | 3 | 2005/8/25 | 65 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 11 | 2005/8/29 - 30 | 24.6 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 10 | 2005/8/30 - 9/1 | 20.4 | |
| | 2 | 発掘 | 0513 | 理学部 | 1・5 | 2005/9/1 - 9/14 | 67.6 | 本書所収 |
| | 1 | 立会 | 0513 | 理学部 | 5 | 2005/9/4 - 5 | 48.75 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 9 | 2005/9/12 - 27 | 43.9 | |
| | 5 | 立会 | 0513 | 工学部 | 14 | 2005/9/15 | 0.79 | |
| | 1 | 立会 | 0513 | 工学部 | 15 | 2005/9/15 | 40.5 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 2 | 2005/9/16 - 10/2 | 97.34 | |
| | 2 | 発掘 | 0513 | 工学部 | 3 | 2005/10/11 - 11/1 | 150 | 本書所収 |
| | 2 | 発掘 | 0513 | 理学部 | 6 | 2005/11/28 - 12/2 | 24 | 本書所収 |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 16 | 2005/11/29<br>2005/12/15 | 48 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 17 | 2005/12/4 | 117.4 | |
| | 2 | 立会→発掘切替 | 0513 | 工学部 | 18 | 2005/12/7 | 87 | 本書所収 |




| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | **黒髪町遺跡群** | 28 | 桜山中学校校庭遺跡 |
| 2 | 本庄遺跡 | 29 | 宇留毛神社周辺遺跡群 |
| 3 | 池田山伏塚遺跡群 | 30 | カブト山遺跡 |
| 4 | 永浦遺跡群 | 31 | 宇留毛A遺跡 |
| 5 | 打越遺跡群 | 32 | 宇留毛B遺跡 |
| 6 | 打越貝塚 | 33 | 渡鹿遺跡群 |
| 7 | 津浦一ノ谷横穴群 | 34 | 辻遺跡 |
| 8 | 一ノ谷遺跡 | 35 | 新南部遺跡群 |
| 9 | 稗田横穴群 | 36 | 子飼遺跡 |
| 10 | 舟場遺跡 | 37 | 熊本城跡遺跡群 |
| 11 | 舟場山古墳 | 38 | 藤園中学校校庭遺跡 |
| 12 | 寺原横穴群 | 39 | 新屋敷遺跡 |
| 13 | 京町台遺跡群 | 40 | 大江白川遺跡 |
| 14 | 京町２丁目遺跡 | 41 | 大江遺跡群 |
| 15 | 伝大道寺遺跡群 | 42 | 南平上遺跡 |
| 16 | 内坪井遺跡 | 43 | 帯山遺跡群 |
| 17 | 室園遺跡 | 44 | 山崎古墳 |
| 18 | 松崎遺跡群 | 45 | 辛島町遺跡 |
| 19 | 万石茶山古墳群 | 46 | 唐人町遺跡 |
| 20 | 立田山山頂遺跡 | 47 | 北水前寺遺跡 |
| 21 | 黒髪町下立田遺跡群 | 48 | 西水前寺町遺跡 |
| 22 | 万石茶山遺跡 | 49 | 水前寺廃寺跡 |
| 23 | 秣野遺跡 | 50 | 陳山廃寺跡 |
| 24 | 立田山東中腹遺跡 | 51 | 神水遺跡 |
| 25 | 宇留毛浦山市営墓地遺跡 | 52 | 国分寺跡 |
| 26 | 浦山第２横穴群 | 53 | 江津湖遺跡群 |
| 27 | 小峰遺跡 | 54 | 出水国府跡 |

図１　黒髪町遺跡群の位置と周辺遺跡の分布図（１／25000）

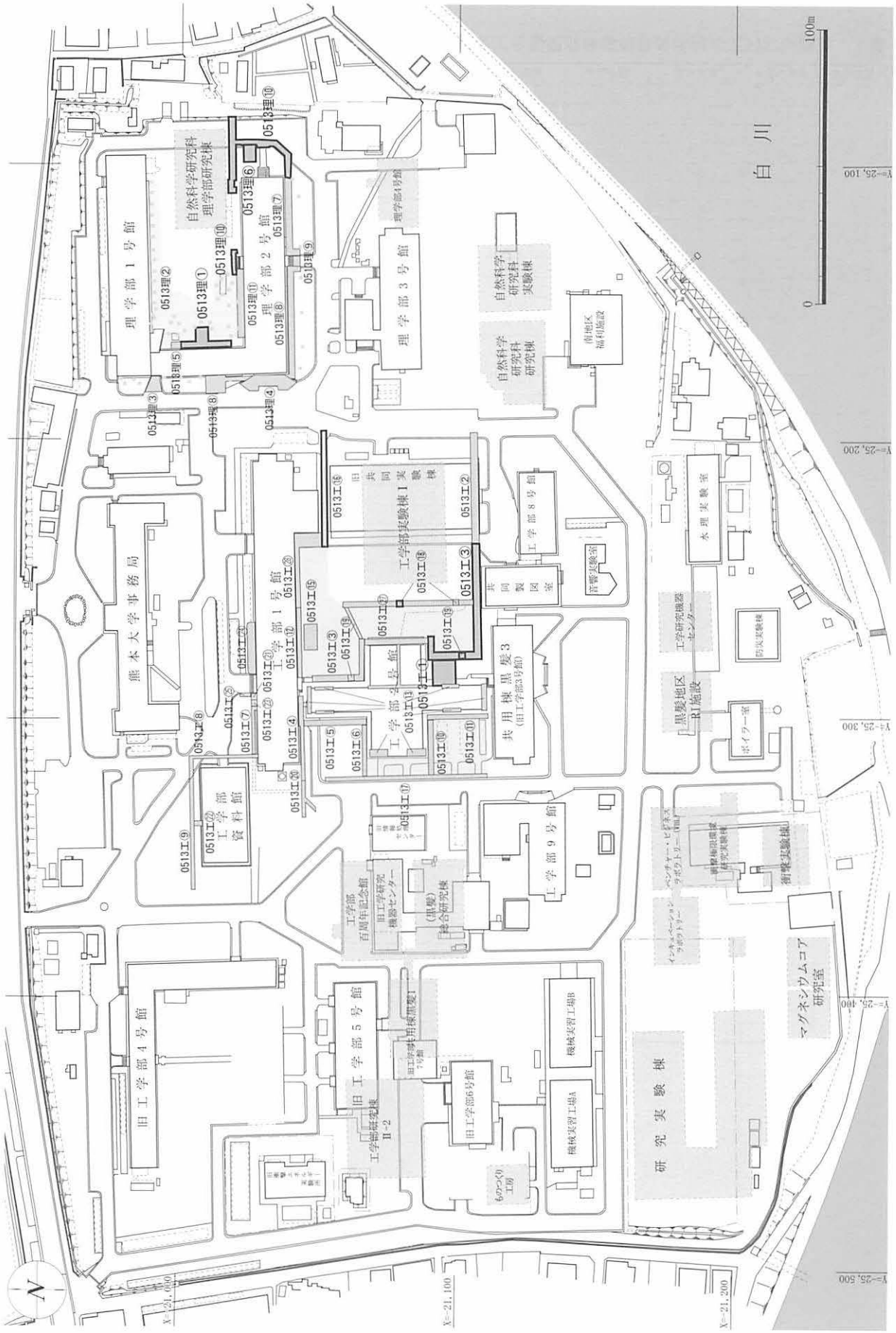



図2　2005年度の調査地点配置図（1/2000）

## 表１　黒髪南地区工学部他校舎改修施設設備等工事に伴う埋蔵文化財調査一覧（つづき）

| 調査年度 | 事業名番号 | 調査方式 | 調査番号 | 対象学部 | 枝番号 | 調　査　期　間 | 面積（㎡） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2005 | 2 | 立会→発掘切替 | 0513 | 工学部 | 19 | 2005/12/9 | 25 | 本書所収 |
| | 2・5 | 立会 | 0513 | 工学部 | 20 | 2005/12/12 | 30 | |
| | 1 | 立会 | 0513 | 工学部 | 21 | 2005/12/13 | 0.5 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 22 | 2005/12/13 | 3 | |
| | 1 | 立会 | 0513 | 工学部 | 23 | 2005/12/13 | 87.5 | |
| | 2・7 | 立会 | 0513 | 工学部 | 24 | 2005/12/13 | 18 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 理学部 | 7 | 2005/12/14 | 86.6 | |
| | 1・2 | 立会 | 0513 | 理学部 | 8 | 2005/12/15 | 286.5 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 理学部 | 9 | 2005/12/26 | 10 | |
| | 7 | 発掘 | 0513 | 工学部 | 10 | 2006/1/4 － 1/19 | 89 | 本書所収 |
| | 2 | 立会 | 0513 | 理学部 | 11 | 2006/1/5 | 70 | |
| | 7 | 立会 | 0513 | 工学部 | 25 | 2006/1/17 | 1 | |
| | 7 | 立会 | 0513 | 工学部 | 26 | 2006/1/20 | 708 | |
| | 7 | 立会 | 0513 | 工学部 | 27 | 2006/1/23 | 45.4 | |
| | 2 | 立会 | 0513 | 工学部 | 28 | 2006/1/24 | 12 | |
| | 1 | 立会 | 0513 | 工学部 | 29 | 2006/1/26 | 40 | |
| | 3 | 立会 | 0513 | 工学部 | 30 | 2006/1/30 | 656.1 | |
| 2006 | 1 | 立会 | 0611 | 工学部 | 1 | 2006/5/11 | 32 | |
| | 2 | 立会 | 0611 | 工学部 | 2 | 2006/5/22<br>2006/5/25 | 129 | |
| | 6 | 立会→発掘切替 | 0612 | 理学部 | 2 | 2006/5/22 － 24 | 30 | 本書所収 |
| | 2 | 立会 | 0612 | 理学部 | 1 | 2006/5/22 | 1.1 | |
| | 1 | 立会 | 0612 | 理学部 | 3 | 2006/6/27、7/7 | 21.98 | |
| | 3 | 立会 | 0611 | 工学部 | 3 | 2006/8/24 － 25 | 20.7 | |
| | 2 | 立会 | 0611 | 工学部 | 4 | 2006/8/31 － 9/1 | 64.1 | |
| | 10 | 立会 | 0611 | 工学部 | 5 | 2006/9/1 | 49.64 | |
| | 10 | 立会 | 0611 | 工学部 | 6 | 2006/9/12 | 140 | |
| | 10 | 立会 | 0611 | 工学部 | 7 | 2006/9/14 | 32.96 | |
| | 10 | 立会 | 0611 | 工学部 | 8 | 2006/9/20 － 21 | 55.1 | |
| | 2 | 立会 | 0611 | 工学部 | 9 | 2006/10/2 | 10.5 | |
| | 6 | 立会→発掘切替 | 0612 | 理学部 | 4 | 2006/12/15 | 162.7 | 本書所収 |
| | 6 | 発掘 | 0612 | 理学部 | 4 | 2006/12/18 ～ 19 | 同上 | 本書所収 |
| | 6 | 立会 | 0612 | 理学部 | 4 | 2006/12/20 ～ 21 | 同上 | 本書所収 |
| | 6 | 発掘 | 0612 | 理学部 | 4 | 2006/12/22・25・27・28、<br>2007/1/4・5・9 | 同上 | 本書所収 |
| 2007 | 6 | 立会 | 0703 | 理学部 | 1 | 2007/4/16、2007/4/20 | 61 | |
| | 13 | 立会 | 0703 | 理学部 | 2 | 2007/6/19、21、27 | 469.2 | |
| | 13 | 立会 | 0703 | 理学部 | 3 | 2007/6/25 | 31.4 | |
| | 6・14 | 立会 | 0703 | 理学部 | 4 | 2007/7/3 | 36 | |
| | 6 | 立会 | 0703 | 理学部 | 5 | 2007/7/9-10 | 58.75 | |
| | 13 | 立会 | 0703 | 理学部 | 6-1 | 2007/7/17 | 1576.6 | |
| | 13 | 立会 | 0703 | 理学部 | 6-2 | 2007/7/19 | 300.08 | |
| | 6・16 | 立会→発掘切替 | 0703 | 工学部 | 7 | 2007/6/25 ～ 27、2007/10/2 | 275.5 | 本書所収 |
| | 19 | 立会 | 0715 | 工学部 | | 2007/8/23 | 2.09 | |
| | 6・18 | 立会 | 0703 | 理学部 | 8-1 | 2007/12/10・17 ～ 18、2008/1/16 ～ 17 | 148.75 | |
| | 20 | 立会 | 0703 | 理学部 | 9 | 2008/1/16 － 17 | 94.5 | |
| | 6・18 | 立会 | 0703 | 理学部 | 8-2 | 2008/1/23 | 89 | |
| | 10 | 立会 | 0703 | 理学部 | 10 | 2008/1/25 | 2.04 | |
| | 6・18 | 立会 | 0703 | 理学部 | 8-3 | 2008/1/29 － 30 | 96.7 | |
| | 18 | 立会 | 0703 | 理学部 | 8-4 | 2008/2/1、4 | 53.02 | |

## 2．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査
## （0513工①調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a．調査地と調査経緯

本件は、平成17年から３年間にわたり実施された工学部他校舎改修施設整備事業の一つであり、工学部２号館の改修に伴う調査である。調査地点は、黒髪南地区のほぼ中央部にあたり、周辺では、東側で工学部実験棟Ｉ、西側では総合研究棟で発掘調査が実施されている。建物改修に伴う調査は、基礎部分への配管工事が主で、すでに破壊を受けている部分がほとんどであった。しかし、本調査地点はエレベータ増設に伴い、未破壊と思われる部分を掘削するため、事前に発掘調査を予定していた。表土と攪乱層を除去すると、旧建物の基礎部分で破壊されている部分がおよそ半分であったが、その他の部分は、削平は受けているものの、遺構が検出された。

#### b．調査の経過

2005年８月８日　掘削開始。その後調査を開始し、遺構面を検出。
2005年８月９日　柱穴・竪穴住居址等を検出・掘り始める。
2005年８月17日　竪穴住居址などの１/20平面図実測。
2005年８月18日　写真撮影、実測完了。調査終了。

#### c．調査の組織

調　査　員：小畑弘己
事 務 担当：前田知聖
発掘作業員：岡田イツ代・押方富江・小田須磨子・川越キヤウ子・白石美智子・田上次敏・田上利子・早田咲百合・福田久美子・前田日出男・森田登
整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・泗水直子・首藤・優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗

### （2）調査区の基本層序

本調査地点は周囲がすべて旧建物の基礎設置のための掘削で攪乱されており、基本土層を確認できなかった。わずかに北東部分で土層を観察したが、この部分は、本地点の東側に隣接する5013工③地点の基本層序とほぼ同じで、現代表土層（厚さ20cm）、近世耕作土（厚さ50cm）の下に黒褐色土（厚さ10～15cmほど）があり、この部分が古代の遺物包含層および遺構検出面である（図５参照）。

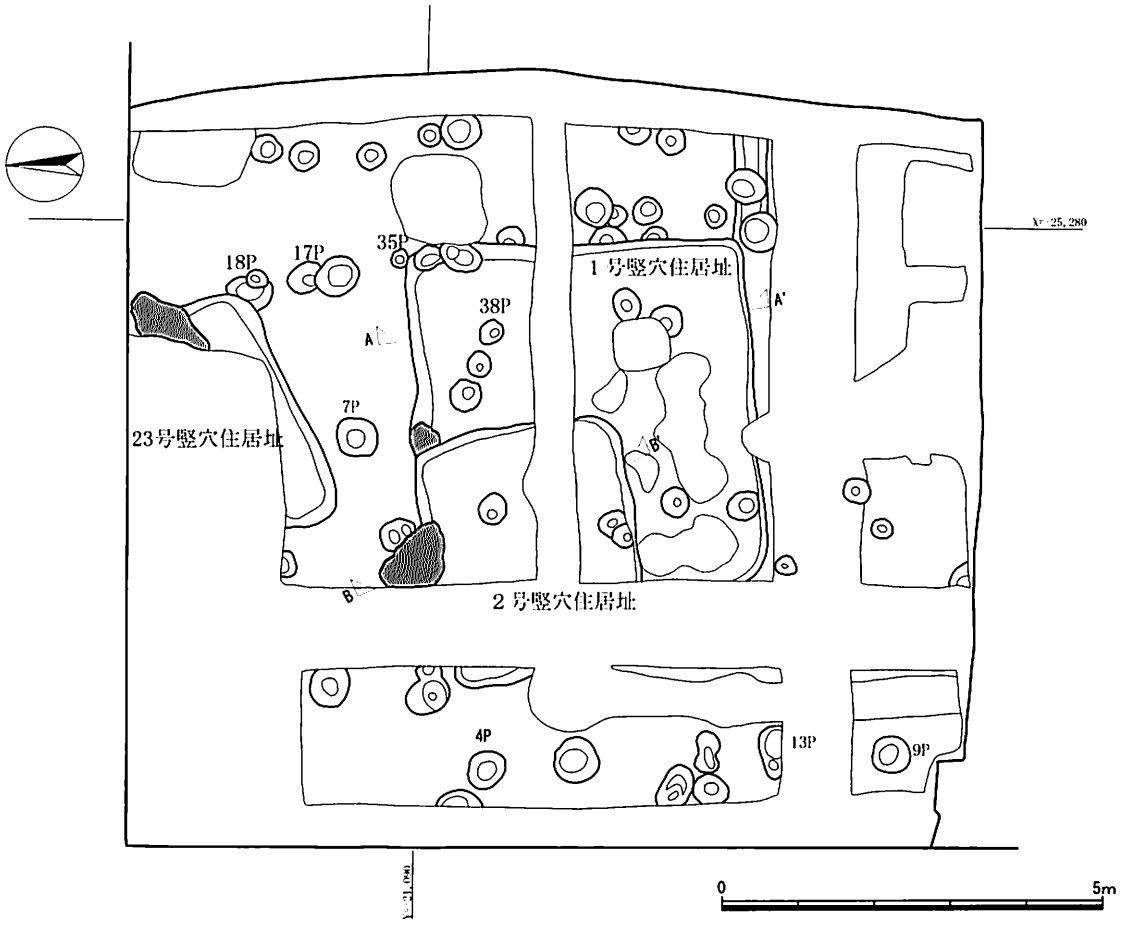
### （3）検出遺構

本調査区では、古代の竪穴住居址３基と古代を中心とした柱穴40個あまりを検出した。削平を受けているため、遺物の出土量は少なく、総量でパンコンテナ１箱である。

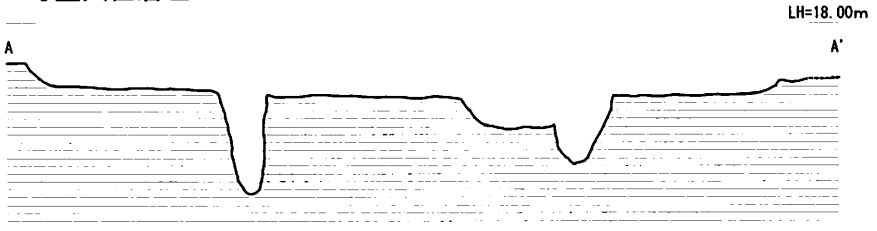
**＜竪穴住居址＞（図３）**

**１号竪穴住居址**

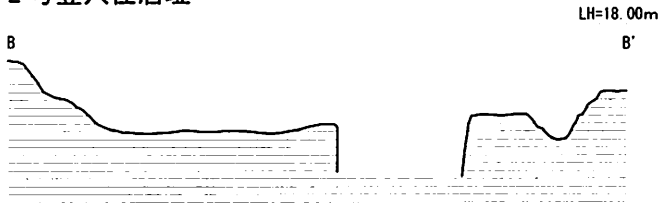
調査区の中央部で検出した4.5×4.5mの正方形の竪穴住居址である。竈は北辺中央に設けられている。竈の半分と北西角を２号竪穴住居址によって破壊されている。削平が著しく、住居の壁の立ち上



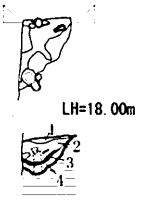

1号竪穴住居址




2号竪穴住居址

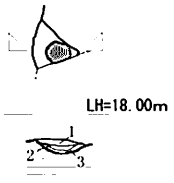



23号竪穴住居址竈



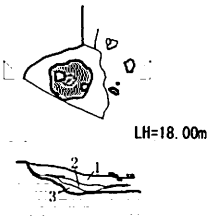

1層：暗赤褐色土(Hue10R3/2)
2層：灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
3層：赤褐色土(Hue2.5YR4/6)
4層：暗赤褐色土(Hue5YR3/2)

1号竪穴住居址竈




1層：灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
2層：赤褐色土(Hue2.5YR4/6)
3層：暗赤褐色土(Hue5YR3/2)

2号竪穴住居址竈




1層：灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
2層：赤褐色土(Hue2.5YR4/6)
3層：暗赤褐色土(Hue5YR3/2)




図3　0513工①調査地点遺構実測図（1／100・1／50）

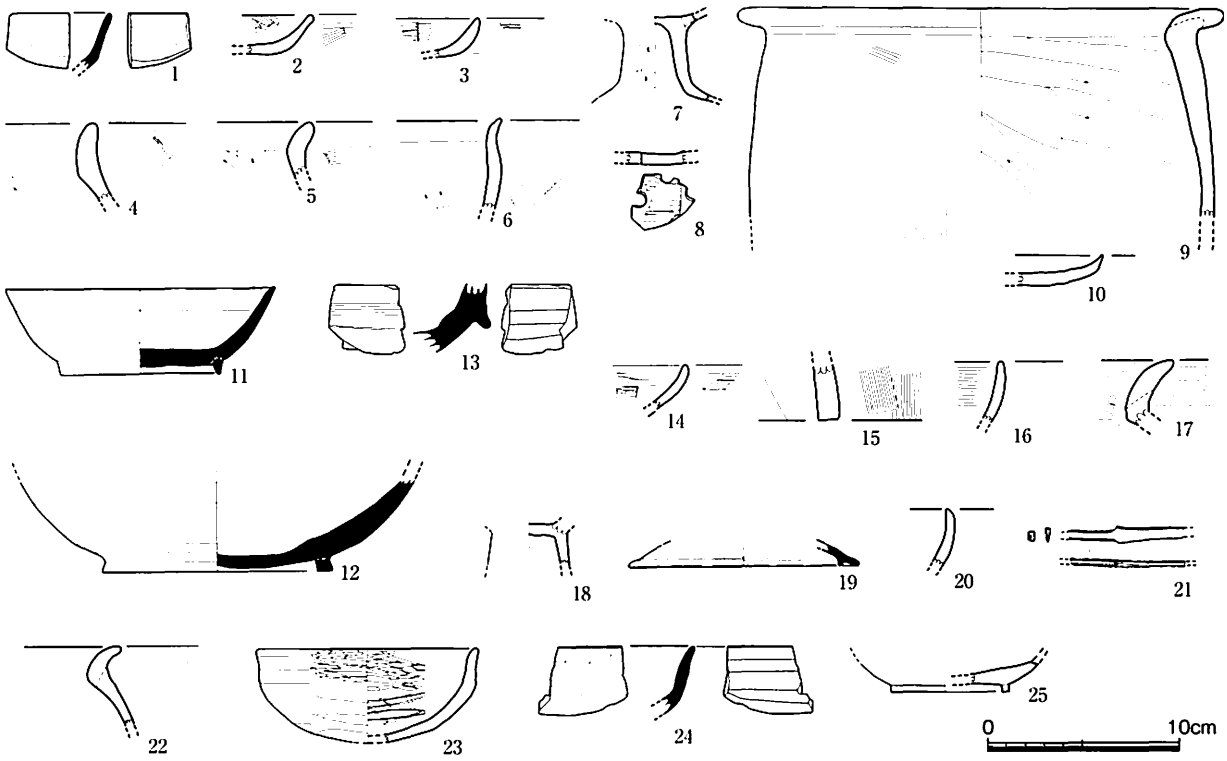



**図４　0513工①調査地点出土遺物実測図（１／４）**

がりは５～10cmほどであり、竈も焚口部の赤変部と粘土の一部を確認したに過ぎない。主柱穴は４個であり、掘方は直径約30cm、深さ50～70cmである。柱間は約2.5mである。遺物としては須恵器および土師器の坏、高坏、甑などの小片が検出されている。時期は７世紀末から８世紀初頭ではないかと考えられる。

**＜２号住居址＞**

１号住居址の北西部に重なって検出した１辺が２mあまりの方形を呈する小型の竪穴住居址である。北辺の西よりに灰黄褐色の土層が確認でき、その下部から暗赤褐色の焼土が確認できた。この部分が竈の跡と思われる。柱穴は検出していない。深さは50cmほどと、他の住居址に比べるとかなり深い。床面近くから土師器の甕、皿の破片が出土しており、１号竪穴住居址に近い年代が想定できる。

**＜23号住居址＞**

調査区の北部で確認した竪穴住居である。旧建物の基礎によって大部分を破壊されており、竈の一部および南辺とわずかな床面を確認したにすぎない。規模は不明であるが、完全に残っている南辺の長さは３mほどである。竈は東辺に設けられている。竈には砂岩製の支柱が埋設されていた。遺物が小片のため時期は確定できないが、１号竪穴住居址や２号竪穴住居址とは方向が異なっており、時期的にやや新しい可能性がある。

**＜柱穴群＞**

竪穴住居址に重なるように、多数のピットが列をなすように並んでいる。とくに18号や17号、35号とその南側に列をなす群、さらには１号竪穴住居址および２号竪穴住居址と重なり南北に列をなすピット群は、建物址の柱穴と思われる。方位は北より西側に６度ほどずれている。明確な柱穴同志の組み合わせは復元できなかった。

**表２　0513工①調査地点出土遺物一覧表**

| 図 | 番号 | | 種類(器種) | 法量 (cm) | 残存量 | 特　徴 | 色　調 | 出土遺構 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 1 | 須恵器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 7.5Y 3 / 2<br>外：Hue N 4 / 0 | 1号竪穴住居址東側ベルト | 外面に自然釉有り |
| | 2 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：磨き<br>外：磨き，ヘラ削り | 内：Hue 2.5YR 6 / 6<br>外：Hue 2.5YR 6 / 6 | 1号竪穴住居址住南側 | 丹塗磨研 |
| | 3 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：磨き<br>外：磨き | 内：Hue 2.5YR 5 / 8<br>外：Hue 2.5YR 5 / 8 | 1号竪穴住居址南半上部覆土 | 丹塗磨研 |
| | 4 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | | 内：ヘラ削り，磨き<br>外：ハケ目，ナデ | 内：Hue 10YR 6 / 3<br>外：Hue 10YR 6 / 3 | 1号竪穴住居址南側掘り方 | 内外面スス付着有り |
| | 5 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り，ナデ<br>外：磨き，ナデ | 内：Hue 5YR 5 / 2<br>外：Hue 7.5YR 6 / 4 | 1号竪穴住居址南半上部覆土 | 内面にススス付着有り |
| | 6 | 土師器 | 小型甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り，ナデ<br>外：ハケ目，ナデ | 内：Hue 7.5YR 4 / 2<br>外：Hue 7.5YR 6 / 4 | 38号ピット | |
| | 7 | 土師器 | 高坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 脚部１/３ | 内：ナデ<br>外：ヘラ削り，底部磨き | 内：Hue 10YR 4 / 2<br>外：Hue 10YR 7 / 4 | 1号竪穴住居址南半上部覆土 | |
| | 8 | 土師器 | 甑 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部破片 | 内：削り<br>外：ハケ目 | 内：Hue 7.5YR 7 / 4<br>外：Hue 7.5YR 7 / 4 | 1号竪穴住居址南半上部覆土 | 穿孔３ヶ所有り |
| | 9 | 土師器 | 甕 | 口径25.6<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ナデ，ハケ目 | 内：Hue 10YR 8 / 4<br>外：Hue 10YR 8 / 4 | 2号竪穴住居址 | スス付着有り |
| | 10 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部片 | 内：磨き<br>外：磨き | 内：Hue 2.5YR 6 / 6<br>外：Hue 2.5YR 6 / 6 | 2号竪穴住居址南側床上 | 丹塗磨研 |
| | 11 | 須恵器 | 碗 | 口径14.0<br>底径8.2<br>器高4.5 | 底部１/２ | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 10YR 7 / 1<br>外：Hue 10YR 7 / 1 | 17号ピット | 外面に自然釉有り |
| | 12 | 須恵器 | 壺 | 口径<br>底径12<br>器高 | 底部片 | 内：回転ヘラ削り後不定方向ナデ<br>外：回転ヘラ削り後回転ナデ | 内：Hue 5Y 6 / 1<br>外：Hue 5Y 6 / 1<br>Hue 2.5Y 5 / 1 | 18号ピット | |
| | 13 | 須恵器 | 壺 | 口径<br>底径<br>器高 | 破片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 2.5Y 5 / 2<br>外：Hue 7.5Y 4 / 1 | 35号ピット | 外面に自然釉有り |
| | 14 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：磨き<br>外：磨き | 内：Hue 2.5YR 5 / 6<br>外：Hue 2.5YR 5 / 6 | 7号ピット | 丹塗磨研 |
| | 15 | 土師器 | 甑 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部破片 | 内：ナデ，ヘラ削り<br>外：ハケ目 | 内：Hue 2.5YR 6 / 8<br>外：Hue 5YR 7 / 6 | 7号ピット | |
| | 16 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：磨き<br>外：削り，磨き | 内：Hue 7.5YR 7 / 6<br>外：Hue 7.5YR 7 / 6 | 4号ピット | 内外面磨き |
| | 17 | 土師器 | 壺 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ハケ目，ヘラ削り<br>外：ハケ目 | 内：Hue 7.5YR 8 / 4<br>外：Hue 7.5YR 8 / 4 | 13号ピット | 口縁にスス付着有り |
| | 18 | 土師器 | 高坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 脚部片 | 内：ヘラ削り<br>外：底部，脚表面磨き | 内：Hue 5YR 6 / 4<br>外：Hue 10R 6 / 6 | 13号ピット | 丹塗り |
| | 19 | 須恵器 | 蓋 | 口径12.1<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue N 5 / 0<br>外：Hue 5PB 5 / 1 | 9号ピット | |
| | 20 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：磨き<br>外：磨き，ナデ | 内：Hue 2.5YR 6 / 6<br>外：Hue 2.5YR 6 / 6 | 基礎北側包含層 | 丹塗磨研 |
| | 21 | 鉄器 | 刀子 | 長さ6.6<br>幅0.6 | | | | 包含層 | 先端・基部欠損 |
| | 22 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り，ナデ<br>外：磨き，ナデ | 内：Hue 5YR 5 / 4<br>外：Hue 5YR 4 / 6 | 西側包含層 | 内面スス付着有り<br>外面丹塗り |
| | 23 | 土師器 | 坏 | 口径11.3<br>底径<br>器高 | １/２ | 内：ヘラ削り，ヘラ磨き，回転ナデ，磨き<br>外：ヘラ磨き，削り | 内：Hue 2.5YR 5 / 6<br>外：Hue 2.5YR 5 / 6 | 南東部包含層 | 丹塗り研磨土器 |
| | 24 | 須恵器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 2.5Y 4 / 1<br>外：Hue 5Y 6 / 1 | 攪乱 | 外面に自然釉有り |
| | 25 | 磁器 | 碗 | 口径<br>底径6.8<br>器高 | 底部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 5Y 8 / 3<br>外：Hue 5Y 8 / 3 | 攪乱 | |

### （４）出土遺物（図４）

１～８は１号竪穴住居址関連の遺物である。６の土師器の小型甕は主柱穴の一つ38ピットから検出された。その他の遺物は覆土から検出されたもので、１は須恵器の坏、２と３は土師器の坏、４・５は土師器の小型甕、７は同高坏脚部、８は甑の底部である。９・10は２号竪穴住居址の床面から検出された、土師器の甕と同皿である。ピットからは７世紀末から８世紀代を中心とした土師器や須恵器の各種器が検出されている。また包含層からは刀子と思われる鉄器（21）が出土した。

### （５）まとめ

本調査地点では、後代の耕作や建物建設による削平を受けながらも、７世紀末から８世紀代の竪穴住居址や掘立柱建物址の柱穴と思われるピット群を検出することができた。大学構内は明治・大正期の建物址による攪乱を受けてはいるものの、残存する部分では古代蚕養駅関連の遺構群が良好に残存している。本調査地点の成果は不十分ではあるもののそれを証明する証拠の一つとして加えられる。

## 3．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513工③調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a．調査地と調査経緯

本工事は、平成17年から3年間にわたり実施された工学部他校舎改修施設整備等事業の一つである。排水管を敷設する工事であり、工事立会の指導を受け、立会調査を実施した。0513工②調査地点の西側延長部分であり、0513工②調査地点で遺構が確認されたため、本調査区でも遺構の検出が予想された。本調査区においても、包含層・遺構が確認された箇所について、発掘調査に切り替えて調査を実施した。

掘削は、ある程度の区間を掘削し、配管工事を行ってから、次の区間を掘削する方法で進められた。まず0513工②調査区の続きから行い、西へ約22.5mと掘削を行った（工学部号館北側の東西ルート・1区間）。撹乱が深刻で、遺構面（地山）まで掘削が及んでいたが、溝やピットが確認できたため、本調査に切り替えた。また、途中、調査区北壁沿いにレンガとコンクリートの旧建物基礎が検出されたため、申請の範囲内で南側へ掘削範囲を拡幅・変更した。2区間は1区間から6mの間で同様に遺構が確認されたが、以西は地下水槽の脇に位置し、水槽建設時の掘方内であり遺構・遺物の検出はなかった。工学部2号館の東側の南北ルートでは1m程度で掘削を進めたが、掘削深度までは現代埋土内であり、遺構・遺物の検出はなかった。南北ルート北端から東へ折れる東西ルート（3区間）では、遺構・遺物が確認されたため、本調査に切り替えた。

#### b．調査の経過

2005年10月11日　0513工②調査地点の西端から掘削開始（1区間）。遺構面・竪穴住居址・溝等確認。調査開始。

2005年10月12日　竪穴住居址・溝ピット等の掘削・写真・測量。1区間終了。

2005年10月17日　西側へ続きを掘削（2区間）、包含層を確認。

2005年10月18日　作業員を投入し、調査開始。ピットの掘削・写真・測量を行い、2区完調査終了。

2005年11月1日　工学部2号館南側掘削。遺構を確認したため、調査を実施。ピットの掘削・写真・実測。3区間終了。

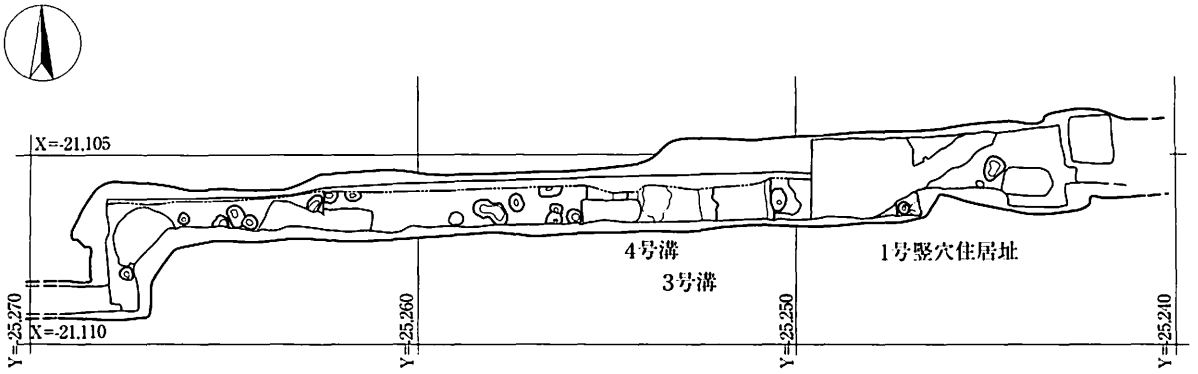
#### c．調査の組織

調　査　員：大坪志子

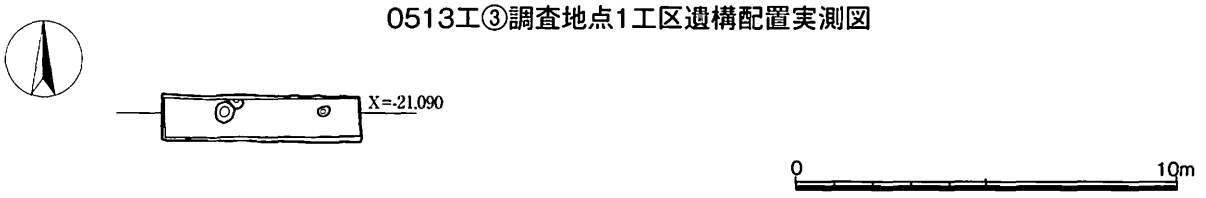
事務担当：前田知聖

発掘作業員：小細工洋子・早田咲百合・前田和子・松井昭子・森川征子・森川護・森田登

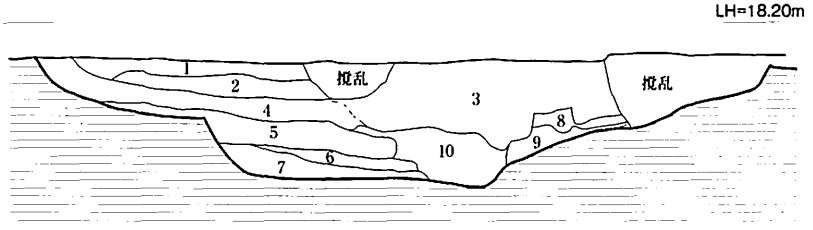
整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・泗水直子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗




0513工③調査地点1工区遺構配置実測図



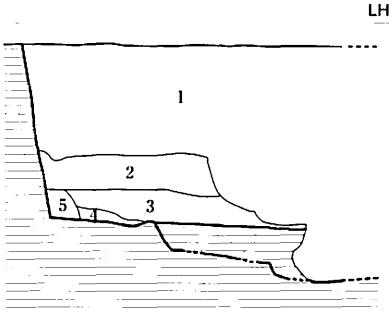

0513工③調査地点3工区遺構配置実測図




3号溝

1層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
2層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
砂岩ブロック(Hue2.5Y5/4)を含む
3層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
4層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
5層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
6層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
7層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
8層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
9層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
10層：黒褐色土(Hue10YR2/2～2/3)

2号竪穴住居土層断面実測図（調査区南壁）




1層：暗褐色土(Hue10YR3/3)
2層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
3層：黒褐色土(Hue10YR2/3)・暗褐色土(Hue10YR3/4)混土
4層：黒褐色土(Hue10YR2/3)・暗褐色土(Hue10YR3/4)混土
5層：黒褐色土(Hue10YR2/3)

**図5　0513工③調査地点1区・3区遺構配置実測図・3号溝土層断面実測図・2号竪穴住居址土層断面実測図（1/200・1/50）**

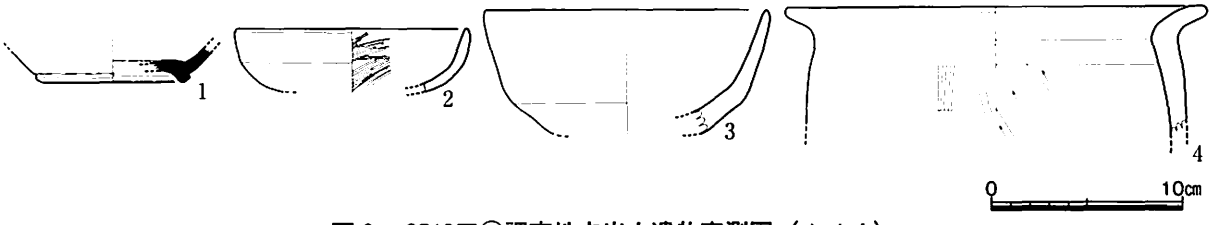



**図6　0513工③調査地点出土遺物実測図（1/4）**

### （2）調査区の基本層序

今回の調査地点は、白川左岸の標高18～19mの地点にあたる。本工事で掘削した個所は撹乱が多く、遺構面（地山）まで削平が及んでおり、調査区において土層を確認できる箇所はほとんどなかった。唯一、工学部３号館北側の一部で包含層の遺存を確認できた（図５）。１層は現代埋土で、コンクリートや砂利が混入する（Hue10YR ３／３）。その下、地表下0. 7mで近世耕作土と思われる黒褐色（Hue10YR ２／２）の２層が検出された（厚さ20cm）。土質は古代遺物包含層に似るが、オレンジ色の粒子が混入する。３・４層は遺構面（地山）の土が若干混入する黒褐色土（Hue10YR ２／２～２／３）である。３・４層下の遺構面は硬化面になっており、Ⅳ層とⅥ層の境も硬化しており、３・４層は竪穴住居址の埋土である。５層は混入物のないきれいな黒褐色土（Hue10YR ２／３）で古代の遺物包含層である。通常見られる包含層よりは、遺構面（地山）の影響の影響で、本来の色より明るい。Ⅱ層は本来の包含層にオレンジ色の粒子が混入した土と思われる。おそらく、２・５層は本来一つの包含層で、近世に２層の深さまで耕作されたためと考えられる。

### （3）検出遺構

本調査区では、近現代の工事による削平・破壊が著しかった。検出された遺構は、竪穴住居址の一部と、溝２条、ピットが20個程度である。時期はいずれも古代（７～８世紀）と思われる。

**＜古代の遺構＞**

**＜竪穴住居址＞**

**２号竪穴住居址（図５）**

掘削を南側へ拡幅したことにより、調査区南壁できた角に1.3×0.7mの三角形に残っていた。北側は近現代の工事のため、破壊されていた。硬化面が遺存していたため、竪穴住居址と判断できた。この竪穴住居址の南側の調査区壁で基本層序が確認できた。土層の観察から、この竪穴住居址は少なくとも0. 2m程度の深さで、西へ2.5mの幅があったことがわかる。遺物はない。

**＜溝＞**

**３・４号溝（図５）**

本調査区の東から約10mの地点で、幅約4.8m、深さ約２mの大きな溝が検出された。方向は南北を向く。周辺の遺構面まで削平が及んでいるため、本来はもう少し幅・深さともに大きかった可能性がある。掘り下げた結果、西側の立ち上がりは緩やかな弧を描いており、明確な肩を持って一段深くなる。東側は撹乱のためか、段もなくなだらかに底まで続く。西側で検出した段のレベルで、埋土に固い面があったため、この段までの深さを３号溝とし、一段深い部分を４号溝とした。このような、幅広の溝の底に、細い溝が一段深く走る形態の溝は、大学附属病院地区の本庄遺跡（0509調査地点）で確認されている。

＜その他の遺構＞

ピットが20個程度検出された。いずれも、掘立柱建物になるような配列等は見られない。

### （4）出土遺物

**古代の遺物（図６：１～４）**

遺構に伴うものはほとんどなく、包含層からの出土である。いずれも砕片で、土師器片・須恵器片が数点である。１は須恵器碗、Ⅱは土師器の碗、３土師器は碗、４は土師器甕である。時期は８世紀中葉～後半と思われる。

### （5）まとめ

本調査区では、長挟な掘削範囲のなかで、溝と竪穴住居址の一部、ピットを検出した。隣接する0513①調査区において、竪穴住居址３基とピット群が検出されていることも考慮すると、工学部研究棟Ｉ・工学部２号館・工学部３号館に囲まれた敷地については、削平や破壊を受けていなければ遺構が残されていると考えられる。1994年、工学部研究棟Ｉを新営する際に実施した9412調査地点において確認された集落が、工学部２号館付近までは、広がっていることが確認できた。一方で、レンガ造りの建物基礎が検出されるなど、周辺には昭和40年代以前の建物による撹乱が他の立会調査の調査区において数か所確認された。この一帯は遺跡と撹乱が混在する状況であり、今後の再開発等で試掘等を行う際には、慎重な見極めが求められる。

**表３　0513工③調査地点出土遺物一覧表**

| 図 | 番号 | 遺物 | 種類(器種) | 法量（cm） | 残存量 | 特　徴 | 色　調 | 出土遺構 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 1 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径7.9<br>器高 | 底部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ，ヘラ削り | 内：Hue 2.5YR 6 / 2<br>外：Hue 2.5YR 6 / | ３号溝 | |
| | 2 | 土師器 | 碗 | 口径12.2<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：磨き，横ナデ<br>外：横ナデ，ヘラ削り | 内：Hue 2.5YR 4 / 8<br>外：Hue 5YR 7 / 4 | 包含層 | 丹塗り<br>内外面に一部スス・コゲ有り |
| | 3 | 土師器 | 碗 | 口径15<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 8 / 6<br>外：Hue 5YR 7 / 6 | 包含層 | |
| | 4 | 土師器 | 甕 | 口径21.8<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ，ヘラ削り<br>外：回転ナデ，ハケ目 | 内：Hue 10YR 5 / 3<br>外：Hue 10YR 8 / 4 | 包含層 | 内面スス付着有り<br>外面コゲ付着有り |

## 4．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査
## （0513工⑱調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a．調査地と調査経緯

本工事は、平成17年から３年間にわたり実施された工学部他校舎改修施設整備等事業の一つである。工学部研究棟Ｉ西側に電気配線を行い、外灯を３基設置する工事である。工事立会の指導を受け、立会調査を実施した。包含層・遺構が確認された箇所について、発掘調査に切り替えて調査を実施した。

#### b．調査の経過

2005年12月７日　工学部研究棟Ｉ南西（①地点）掘削。遺構は確認されず。研究棟Ｉのスロープ西側（②地点）掘削。包含層を確認、掘削。ピット検出、記録。研究棟Ｉ北西（③地点）掘削。埋土内。調査終了。

#### c．調査の組織

調　査　員：大坪志子
事 務 担 当：前田知聖
整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・泗水直子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗

### （2）調査区の基本層序

今回の調査地点は、工学部研究棟Ｉの西側に位置し、共同製図室から北へ一直線に配線を行い、建物の南西・西・北西の３箇所に外灯を設置した。３箇所のなかで、②地点で包含層および遺構面が確認された。②地点の東壁で確認した層序は、Ｉ層が近現代の埋土（黒褐色土10YR ３／３）であり、地表下1.1mで包含層（黒褐色土　10Ｙ Ｒ ２／２）を検出した。地表下1.36～1.4mで遺構面（地山）を検出した（図７）。

### （3）検出遺構

本調査区は、１m四方の狭い範囲の掘削であった。検出された遺構はピットのみである（図７）。

**＜古代の遺構＞**

ピットが１個検出された。0.6×04m深さは0.4m程度で、調査区の南壁で半分ほどが検出された。出土遺物はない。

### （4）出土遺物

遺構に伴うものはほとんどなく、包含層からの出土である。いずれも砕片で、土師器片・須恵器片が数点である。

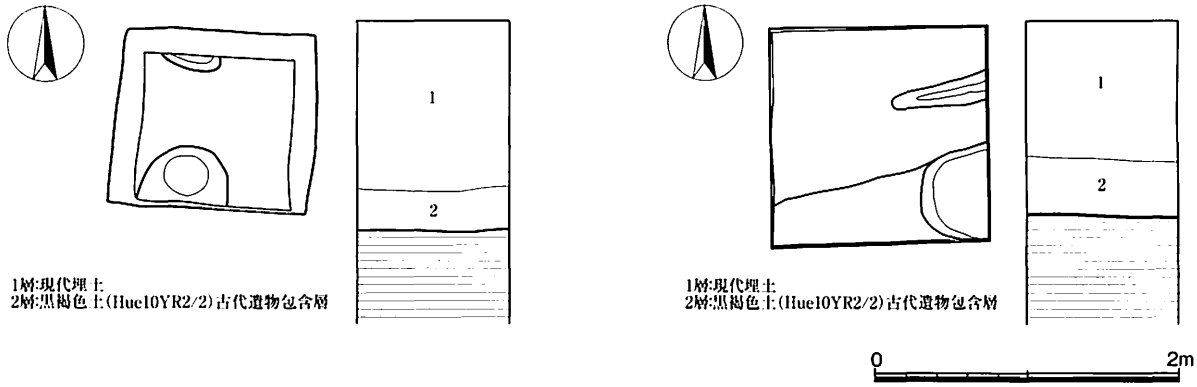



**図7　0513工⑱・⑲調査地点遺構配置実測図・土層柱状図　(1 /50)**

### (5) まとめ

本調査区では、ピットと数点の遺物を検出した。本地点の南側に位置する①地点では北壁に沿って旧建物の基礎が検出されるなど、周辺には昔の建物の基礎等が埋設されたままの状態と考えられる。本調査区周辺において4本の樹木の植栽を行った際（0210Ⅲ区調査地点）には、建物基礎が検出され場所変更が生じた箇所と、包含層・遺構面が確認された箇所があり、狭い範囲内でも遺跡の有無を判断するのは難しい地点である。本調査の結果は、0513工③地点の調査結果とも合わせ、周辺一帯での工事計画については、設計段階において旧建物群の配置の精査を行っておく必要があること、また試掘等も密に行う必要があることを提起したといえる。

## 5．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513工⑲調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a．調査地と調査経緯

本工事は、平成17年から３年間にわたり実施された工学部他校舎改修施設整備等事業の一つである。工学部２号館西側に外灯を２基設置する工事である。工事立会の指導を受け、立会調査を実施した。包含層・遺構が確認された箇所について、発掘調査に切り替えて調査を実施した。

#### b．調査の経過

2005年12月９日　工学部２号館新築トイレ南東地点（①地点）掘削、包含層・遺構確認。調査、記録。工学部２号館北西中庭地点（②地点）掘削。包含層・遺構ともに無し。調査終了。

#### c．調査の組織

調　査　員：大坪志子
事 務 担 当：前田知聖
整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・泗水直子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗

### （2）調査区の基本層序

今回の調査地点は、工学部２号館東側に新設されたトイレ（0513工①調査地点）の東南に位置する。0513工③工事の南北ルート上の脇にある。0513工③は１ｍ程度の深さで掘削したが、埋土内であり、包含層や遺構を検出することはなかった。本調査地点は、撹乱が浅かったことと掘削が基礎のため深く、遺構面まで達したことで、遺構を確認することができた。本調査地点では、地表下0.9ｍまでは現代埋土であり、0.9ｍで包含層である黒褐色土（10YR ２／２）に達する。この土層を確認した東壁では、遺構内であり、遺構面の遺存している箇所は地表下1.2ｍの深さであった。しかし、この遺構面は直上まで現代埋土であり削平された可能性がある（図７）。

### （3）検出遺構

本調査区は、1.4ｍ四方の狭い範囲の掘削であった。調査区の北半分は削平されており、溝状の窪みが一条確認された。南半分では、東南隅にピットが一つ検出された。

**＜古代の遺構＞（図７）**

ピットが１個検出された。0.46×0.35ｍで深さは0.2ｍ程度である。調査区の東壁下で半分ほどが検出された。出土遺物はない。

溝状の窪みは、東壁下から西へ0.4ｍの長さで先細りしながら伸びている。深さは0.3ｍである。

### （4）出土遺物

遺構に伴うものはほとんどなく、包含層からの出土である。いずれも砕片で、土師器片・須恵器片が数点である。

（5）まとめ

本調査区では、ピットと溝状の遺構を検出した。本調査区の４壁の土層を観察すると、ほとんどが現代埋土であり、調査区内にはヒューム管や蛇腹が通るなど近現代の工事による破壊が深刻であった。しかしながら、東側を走る0513工③地点より若干深く下げることで、遺構を確認できたことは、撹乱の深さによっては遺構が残存している可能性を示唆した。周辺地域での遺構の残存については、撹乱の散在状況と深さから慎重に検討する必要があるといえる。

## 6．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査
## （0513理①・⑤調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a. 調査地と調査経緯

本件は理学部１号館の改修工事に伴う、理学部１・２号館中庭部分の雨水排水管取替工事および階段スロープ建設に伴う調査である。

2005年８月20日に施設部・工事業者より埋蔵文化財調査室へ、理学部１号館に沿った雨水管設置工事に関する工事立会の依頼があり、協議を行った。当該地は発掘調査が必要となる可能性が高いと思われたため、事業者と調査期間を含めて日程を協議し、2005年９月１日から掘削を実施した。

工事で必要となる掘削範囲は、理学部１号館に沿って幅2.5m、深さ１mの範囲であったが、掘削予定箇所に隣接するスロープ設置箇所の掘削も併せて行いたいとの申し出が８月30日にあった。

９月１日に雨水配管設置箇所に関して一次掘削を行った結果、掘削区の大半が理学部１号館建設時の撹乱を受けていた為、調査予定期間中にスロープ設置箇所も含めて一次掘削を実施した。

その結果、スロープ設置工事による掘削が遺跡の遺構面より下位まで及ぶことが判明し、発掘調査が必要な旨を工事業者に伝え、発掘調査を実施した。

一次掘削の結果、調査区西側の建物に沿って約２mの範囲は撹乱を受けており、建物建設に伴って遺跡は残存していなかったが、調査区中央のスロープ設置箇所では包含層下位が良好に残存しており、古代に属する竪穴住居跡３軒を検出した。発掘調査面積は67.6㎡である。

#### b．調査の経過

| | |
|---|---|
| 2005年９月１日 | 工事立会で掘削区南端から掘削開始。掘削区の大半が建物建設に伴う撹乱で、遺跡残存は調査区東壁から幅30cm程。また、本工事の掘削が古代の遺構面に至ることを確認。既設排水管を生かしたままの掘削であり難航した。 |
| 2005年９月２日 | 昨日に引き続き一次掘削を実施。スロープ設置箇所では遺跡が良好に残存している。包含層最上面からは須恵器甕の破片が多く出土した。午後より作業員２名と共に掘削開始。 |
| 2005年９月５日 | 雨天のため調査中止。調査区北側に隣接する小屋撤去に伴う立会調査を実施（0513理⑤地点）。基礎は浅く、基礎撤去に伴う遺跡への影響はなかった。 |
| 2005年９月６日 | 台風接近のため調査中止。 |
| 2005年９月７日 | 本日より作業員５名体制で調査を行う。包含層掘削を行うが、植物の根が多く難航する。遺構面まで達しかけるところで調査終了。 |
| 2005年９月８日 | ２軒の竪穴住居址を検出。１号住居が２号住居を切ることを確認。さらにもう１軒住居址があり、竈が調査区内で２カ所あることを確認。本日業者と協議を行い、雨天順延の影響もあり、調査完了を13日まで延期した。 |
| 2005年９月９日 | 竈を残して遺構の掘削が完了し、調査区全体を清掃し、調査区の写真撮影を実施。午後より住居址床面下位と竈部分の調査にかかる。 |
| 2005年９月12日 | 竈部分および住居址床面の掘削が完了。１号住居の竈の調査が完了する。 |
| 2005年９月13日 | 調査区全体の平面図作成の後、３号住居址の竈の調査を残して調査完了。竈の調査・作図を行う。 |

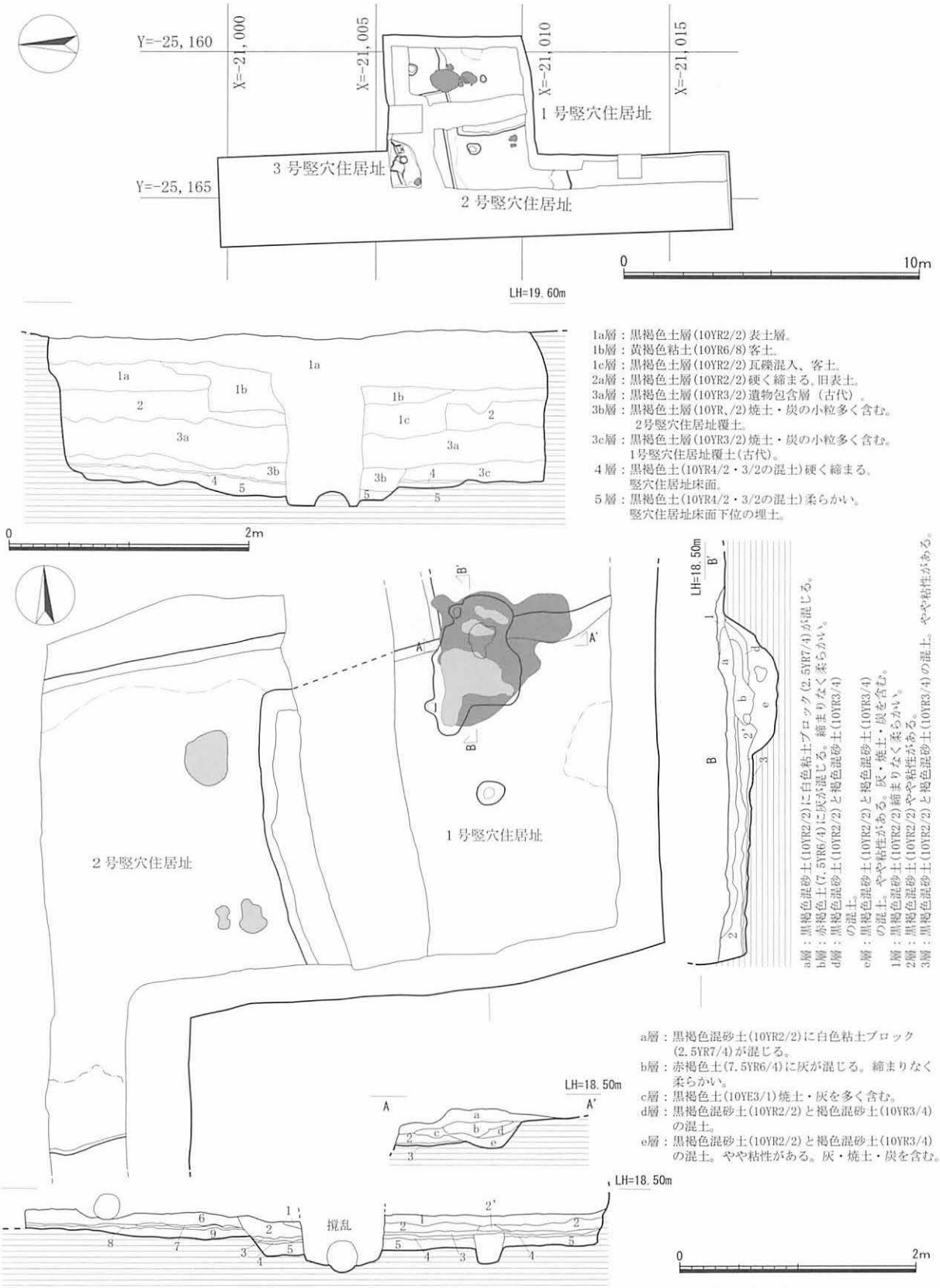



図８　0513理①調査地点遺構配置実測図・調査区北壁土層断面実測図・１・２号竪穴住居址実測図
（１/200・１/50）

2005年９月14日　図面作成を行い、午前で調査完了。その後、埋戻しを実施。

**ｃ．調査の組織**

調　査　員：檀　佳克

事 務 担 当：前田知聖

発掘作業員：今村明美・岡田イツ代・河野義勝・小細工洋子・溜渕俊子・松本和徳

**（２）調査区の基本層序（図８）**

調査区土層は大きく５層に分層した。うちⅠ・Ⅱ層が撹乱層であり、Ⅰ層は理学部建物建設に伴う客土、Ⅱ層はそれ以前の旧表土層と判断した。Ⅲ層が古代の遺物包含層で、縄文時代の遺物も含まれる。Ⅳ層上面が遺構検出面で、Ⅳ層以下は無遺物である。Ⅴ層は黄褐色のローム層である。

**（３）検出遺構**

調査区中央部分で、古代の竪穴住居址３軒、ピット１基を検出した。竪穴住居址は撹乱を受けている箇所が多く、また後世の植物等の影響もあり検出は困難であったが、住居址の平面形や竈の位置等から３軒と判断した。竪穴住居跡の新旧関係は土層観察から、古い順に３号住→２号住→１号住である。以下にその概要を記す。

**１号竪穴住居址（図８）**

調査区東側で検出された竪穴住居址である。住居址の南側・東側は調査区外に延びるため住居址の平面規模は不明である。北側に竈が付く。調査区内ではほぼ全面で床面は硬化していた。柱穴は精査したが、検出できなかった。

**２号竪穴住居址（図９）**

１号住居址の西側で検出した竪穴住居址であり、東側は１号竪穴住居址に切られ、西側は撹乱により破壊を受けていた。竪穴住居址の規模は南北方向残存部から3．6m四方であったと思われる。竈は検出できなかったが、撹乱を受けている西側に存在していた可能性がある。また、移動式竈が出土しており、移動式竈を利用していた可能性もある。柱穴は精査したが検出できなかった。

**３号竪穴住居址（図９）**

２号竪穴住居址の北側で検出した竪穴住居址である。撹乱及び１号・２号竪穴住居址に切られて残存箇所は少ない。床面は残存箇所全面で硬化している状況を確認した。住居址北側に竈が付く。竈周辺も撹乱が著しかったが、竈では土師器の甕が立った状態で出土し、その周辺からは甑や坏が出土した。柱穴は精査したが現出できなかった。

**（４）出土遺物（図10・11）**

遺物は土器が整理コンテナ約３箱分出土した。図化不能なもののうち、整理コンテナ１箱分は古代の須恵器甕片であり、調査区南側の古代遺物包含層中より出土したが、出土状況からは原位置ではないものと思われる。また、包含層及び竪穴住居址覆土より、土師器・須恵器の胴部片・縄文土器片が整理コンテナ１箱分出土している。それ以外の、図化可能であった20点（整理コンテナ１箱分）を図示した。以下、遺物の概要を示す。詳細は表４を参照されたい。

**１号住居址出土遺物**

１号住居址では、図化可能な遺物の出土はなかった。

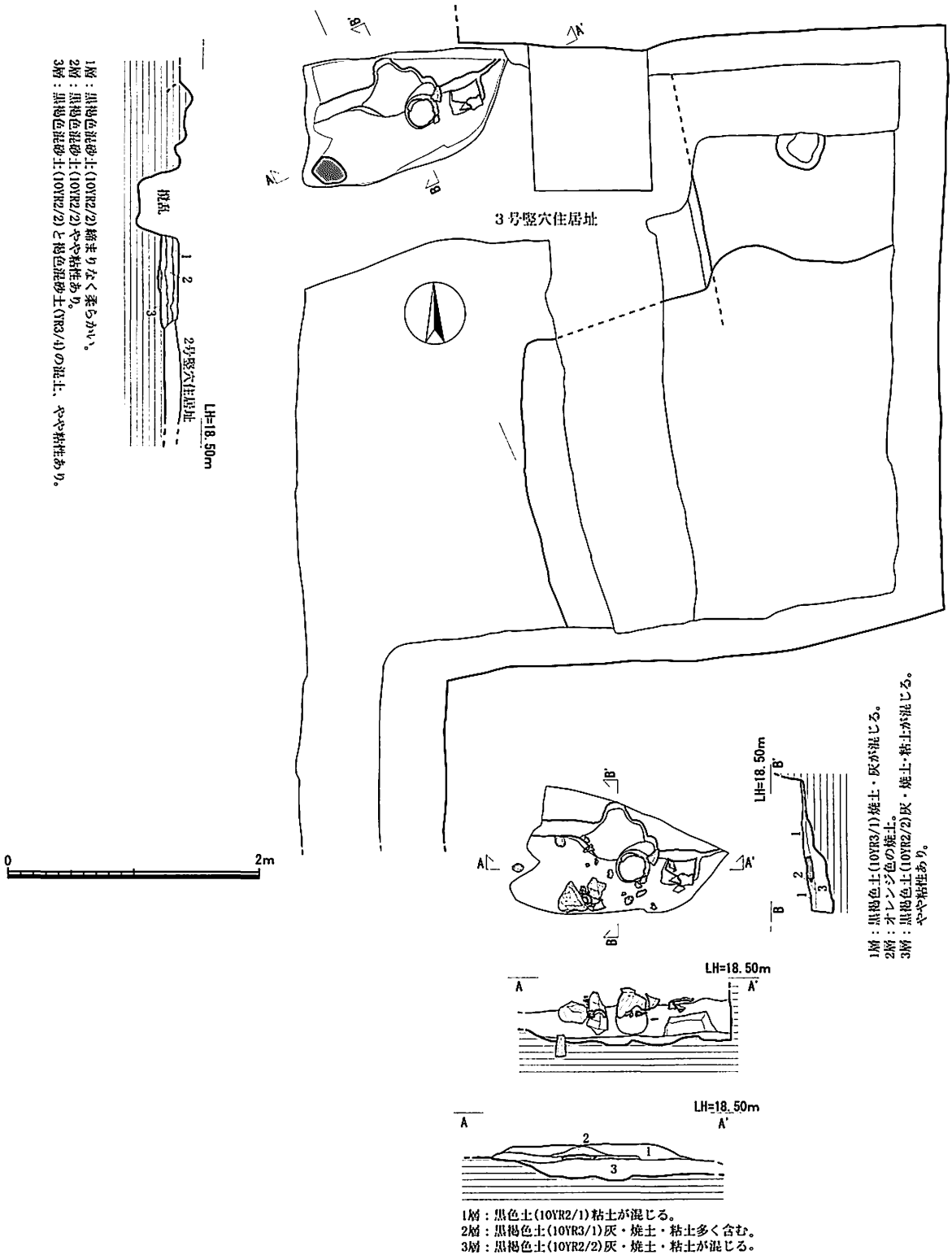



図9　3号竪穴住居址実測図（1 /50）

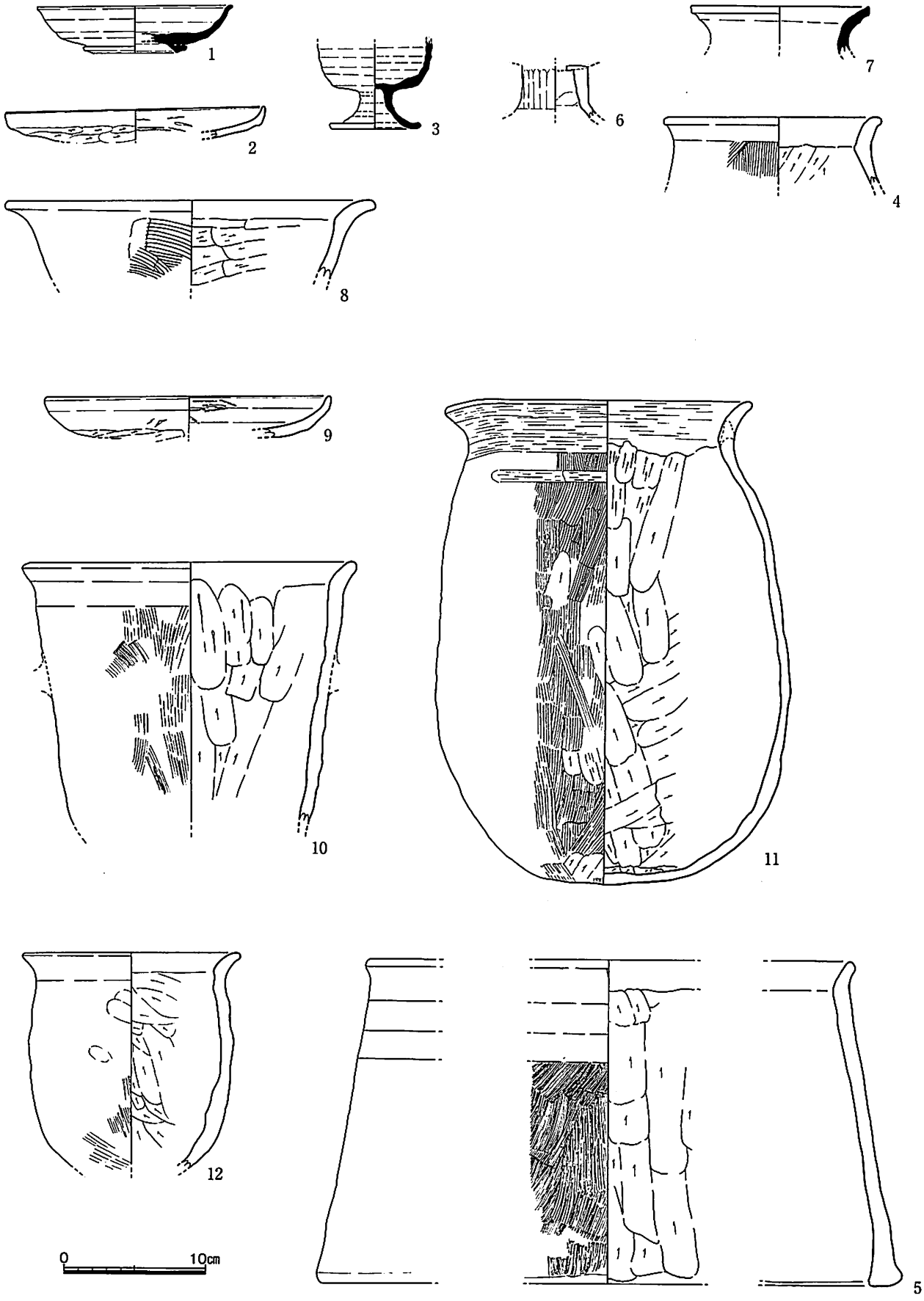



図10　0513理①調査地点出土遺物実測図１（１／４）

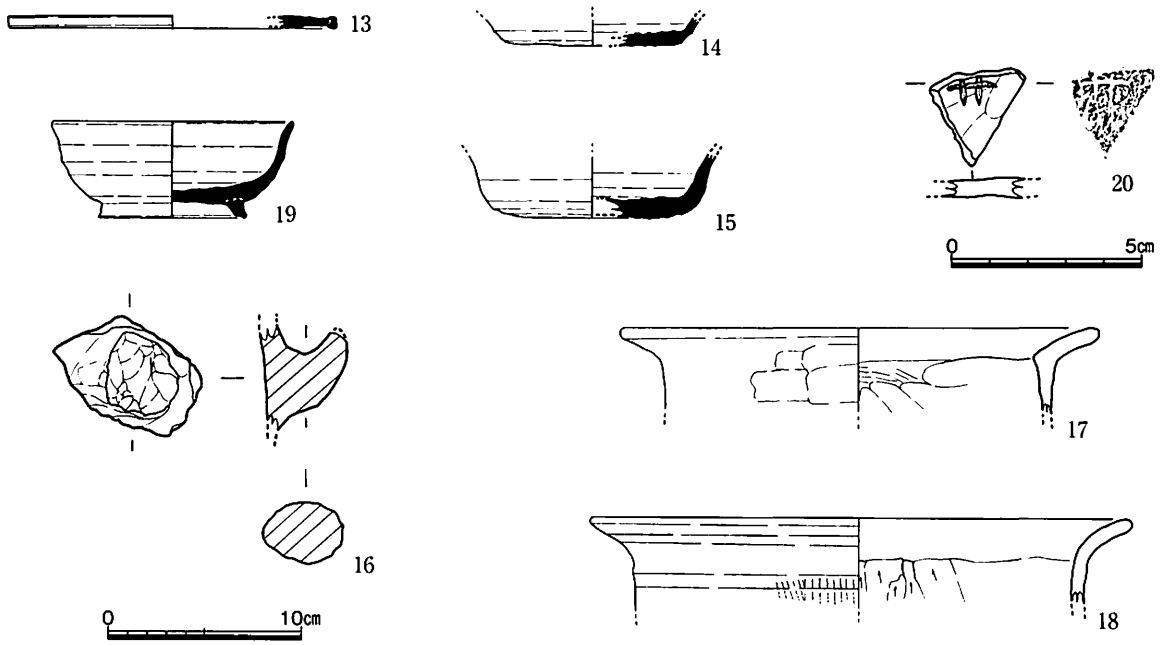



図11　0513理①調査地点出土遺物実測図２（１／２・１／４）

**２号住居址出土遺物（図10：１～８）**

１は須恵器の碗で、外面に黒色の自然釉が付着している。２は土師器皿で、底部は手持ちヘラケズリである。３は須恵器高坏で、外面と坏部内面に黒色～深緑色の自然釉が付着している。４は甕であるが、外面のみでなく、内面と破片の断面に煤が付着しており、破損後に火にかかる状況があったものと思われる。７は外面に煤が付着している。５は土師器の移動式竈である。２号住居址では竈が検出できなかったので、この移動式竈を使用していた可能性もある。一部破片のみであり、焚口などの構造は不明である。

**３号住居址出土遺物（図10：９～12）**

土師器の坏（９）・甑（10）・甕（11・12）が出土した。図化した遺物は全て竈から出土した。９は内外面赤彩、底部は手持ちヘラケズリ調整である。10は甑であり、内面の一部にコゲが付着している。11は竈内より正位置で出土した土師器甕である。12は小型の土師器甕である。

**包含層出土遺物（図11：13～20）**

図化可能であった８点を図示した。14は外面と底部が赤く焼けており、焼成時には伏せて焼かれた可能性が高い。20は土師器の坏又は碗の底部と思われる破片で、刻書が認められた。文字の可能性があるが、残存部位から何の文字であるかは特定できない。17は外面に赤彩が認められる。

## （５）まとめ

今回の調査では、古代の竪穴住居址３軒を検出した。竪穴住居址の時期は出土土器より８世紀代であると思われる。既往の調査で理学部自然科学研究棟建設に伴う発掘調査でも古代の竪穴住居址および溝が検出されており、本調査により理学部１号館周辺でもその古代集落跡が残存することが確認できた。本調査地周辺の掘削では今後も注意を要する。

## 表4　0513理①調査地点出土遺物一覧表

| 図 | 番号 | 遺物 | 種類(器種) | 法量 (cm) | 残存量 | 特　徴 | 色　調 | 出土遺構 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 1 | 須恵器 | 碗 | 口径13.4<br>底径<br>器高 | 1 / 5 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 5Y 5 / 2<br>外：Hue 7.5YR 6 / 4 | 2号竪穴住居址 | 外面に黒色自然釉付着 |
| | 2 | 土師器 | 坏 | 口径18.2<br>底径<br>器高 | 1 / 6 | 内：ナデ後ナデ<br>外：ナデ後磨き | 内：緑灰色<br>外：Hue N 7 / 0 | 2号竪穴住居址 | 内外面赤彩あり |
| | 3 | 須恵器 | 高坏 | 口径<br>底径6.2<br>器高 | 1 / 5 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 2.5Y 7 / 1<br>外：Hue 7.5Y 6 / 1 | 2号竪穴住居址 | |
| | 4 | 土師器 | 甕 | 口径14.0<br>底径<br>器高 | 1 / 3 | 内：ナデ，削り<br>外：ハケ後ナデ | 内：Hue 2.5YR 5 / 6<br>外：Hue 2.5YR 5 / 6 | 2号竪穴住居址 | |
| | 5 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高23.2 | 1 / 5 | 内：ヨコナデ，削り<br>外：ハケ後ヨコナデ | 内：Hue 5B 5 / 1<br>外：Hue N 6 / 1 | 2号竪穴住居址 | |
| | 6 | 土師器 | 高坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 1 / 2 | 内：面取り調整後ナデ<br>外：ヨコナデ | 内：Hue 5YR 6 / 6<br>外：Hue 5YR 6 / 6 | 2号竪穴住居址南覆土 | |
| | 7 | 須恵器 | 壺 | 口径12.5<br>底径<br>器高 | 小片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 5B 5 / 1<br>外：Hue 5B 5 / 1 | 2号竪穴住居址南覆土 | |
| | 8 | 土師器 | 甕 | 口径25.6<br>底径<br>器高 | 1 / 5 | 内：ナデ後削り<br>外：ハケ，ナデ | 内：Hue 5YR 7 / 6<br>外：Hue 5YR 6 / 6 | 2号竪穴住居址北覆土 | |
| | 9 | 土師器 | 坏 | 口径19.9<br>底径<br>器高 | 1 / 4 | 内：回転ナデ後磨き<br>外：回転ナデ後磨き | 内：Hue 10R 4 / 6<br>外：Hue 10R 4 / 6 | 3号竪穴住居址 | 内外面丹塗り，底部手持ちヘラ削り |
| | 10 | 土師器 | 甑 | 口径22.7<br>底径<br>器高 | 1 / 6 | 内：削り<br>外：ハケ後ナデ | 内：Hue 5YR 5 / 4<br>外：Hue 5YR 6 / 6 | 3号竪穴住居址竈 | 内面コゲ付着 |
| | 11 | 土師器 | 甕 | 口径21.5<br>底径<br>器高34.7 | 完形 | 内：ナデ，削り<br>外：ハケ後ナデ | 内：Hue 5YR 6 / 6<br>外：Hue 5YR 6 / 6 | 3号竪穴住居址竈 | |
| | 12 | 土師器 | 甕 | 口径14.8<br>底径<br>器高 | 1 / 3 | 内：削り<br>外：ハケ後ナデ | 内：Hue 5YR 6 / 6<br>外：Hue 5YR 7 / 6 | 3号竪穴住居址竈 | 内外面煤付着 |
| 11 | 13 | 須恵器 | 蓋 | 口径16.7<br>底径<br>器高 | 1 / 5 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 7.5Y 6 / 1<br>外：Hue 7.5Y 6 / 1 | Ⅲ層 | |
| | 14 | 須恵器 | 坏 | 口径<br>底径9.2<br>器高 | 1 / 4 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 5Y 7 / 2<br>外：Hue 5Y 7 / 1 | Ⅲ層 | 底部回転ヘラ切り |
| | 15 | 須恵器 | 坏 | 口径9.3<br>底径<br>器高 | 1 / 4 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue eN 3 / 1<br>外：Hue 5B 5 / 1 | Ⅲ層 | 底部回転ヘラ切り後ナデ |
| | 16 | 土師器 | 甑 | 口径<br>底径<br>器高 | 小片 | 内：ナデ<br>外：削り | 内：Hue 5YR 7 / 6<br>外：Hue 2.5YR 5 / 6 | Ⅲ層 | |
| | 17 | 土師器 | 甕 | 口径24.6<br>底径<br>器高 | 1 / 6 | 内：ナデ，削り<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 6 / 4<br>外：Hue 7.5YR 6 / 4 | Ⅲ層 | 外面煤付着，赤彩あり |
| | 18 | 土師器 | 甕 | 口径28.0<br>底径<br>器高 | 小片 | 内：ナデ，削り<br>外：ナデ後ヨコナデ | 内：Hue 5YR 7 / 6<br>外：Hue 5YR 6 / 6 | Ⅲ層 | 底部にカキ目あり |
| | 19 | 須恵器 | 碗 | 口径12.4<br>底径<br>器高5.0 | 3 / 4 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 10YR 6 / 3<br>外：Hue 2.5YR 5 / 6 | 表土層 | |
| | 20 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径19<br>器高 | 小片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 7 / 6<br>外：Hue 5YR 6 / 6 | 表土層 | 刻書あり |

## 7．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513理⑥調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a．調査地と調査経緯

本工事は、平成17年から３年間にわたり実施された工学部他校舎改修施設整備等事業の一つである。理学部１・２号館の南側校舎の東に検水槽を埋設する工事であり、工事立会の指導を受けた。本調査区の北には、1998年度に調査を実施した結果20軒以上の竪穴住居址と溝等が検出された集落址（9810調査地点）があり、本調査地点でも遺構が検出される可能性が高いと思われた。調査期間の調整を行うために試掘を行った結果、古代の遺物包含層が確認されたため、立会調査ではなく当初より本調査を行う体制を整え、実施することとなった。

#### b．調査の経過

2005年11月28日　一次掘削
2005年11月29日　作業員を投入し、発掘調査開始。包含層掘削。
2005年11月30日　竪穴住居址・溝・ピット等の掘削・写真・測量。
2005年12月１日　全体写真撮影。
2005年12月２日　第Ⅱ面掘削。溝ピット等の掘削・写真・測量。調査集了。

#### c．調査の組織

調　査　員：大坪志子・檀　佳克
事 務 担 当：前田知聖
発掘作業員：今村明美・河野義勝・田上次敏・田上利子・早田咲百合・松井昭子・森川征子・森田　登
整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・泗水直子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗

### （2）調査区の基本層序

今回の調査地点が位置する熊本大学黒髪南地区は、白川左岸の標高18～19mの地点にあたる。工学部２号館東側出口付近を、8.6×6.0mの範囲で掘削した。調査区内には、北壁沿いと、東壁沿いにガス管が埋設されていた。8.6×6.0mの範囲で調査を行ったが、実際にはこれらのガス管で囲まれた範囲内で検水槽を設置することとなった。調査区北壁（図13）では、１層が現代埋土（Hue 10YR ２／３　黒褐色）である。２層（Hue 10YR ２／２～２／３　黒褐色・粘性あり）・３層（Hue 10YR ２／２　黒褐色）は溝状の掘りこみである。これは、9810調査地点の南東隅をかすめるように東西方向に走る、３号溝の延長上に位置する。２・３層はこの３号溝の埋土であると考えられる。今回の調査区内で遺構自体は確認できなかった。４層（Hue 10YR ２／２　黒褐色）は古代の遺物包含層の土であるが、遺構面（地山）の土が斑状に混入する。５層は古代の遺物包含層である（Hue10YR ２／２　黒褐色）。６層（Hue 10YR ２／２　黒褐色）・７層（Hue 10YR ２／２～２／３　黒褐色）は、遺構（柱穴）の埋土で、この柱穴は１号掘立柱建物を構成する一つであろう。６層は５層と同じく混入物・粘性のないきれいな土であり、５層より若干赤味を帯びる。７層は６層が遺構面（地山）の影響を受けた土で

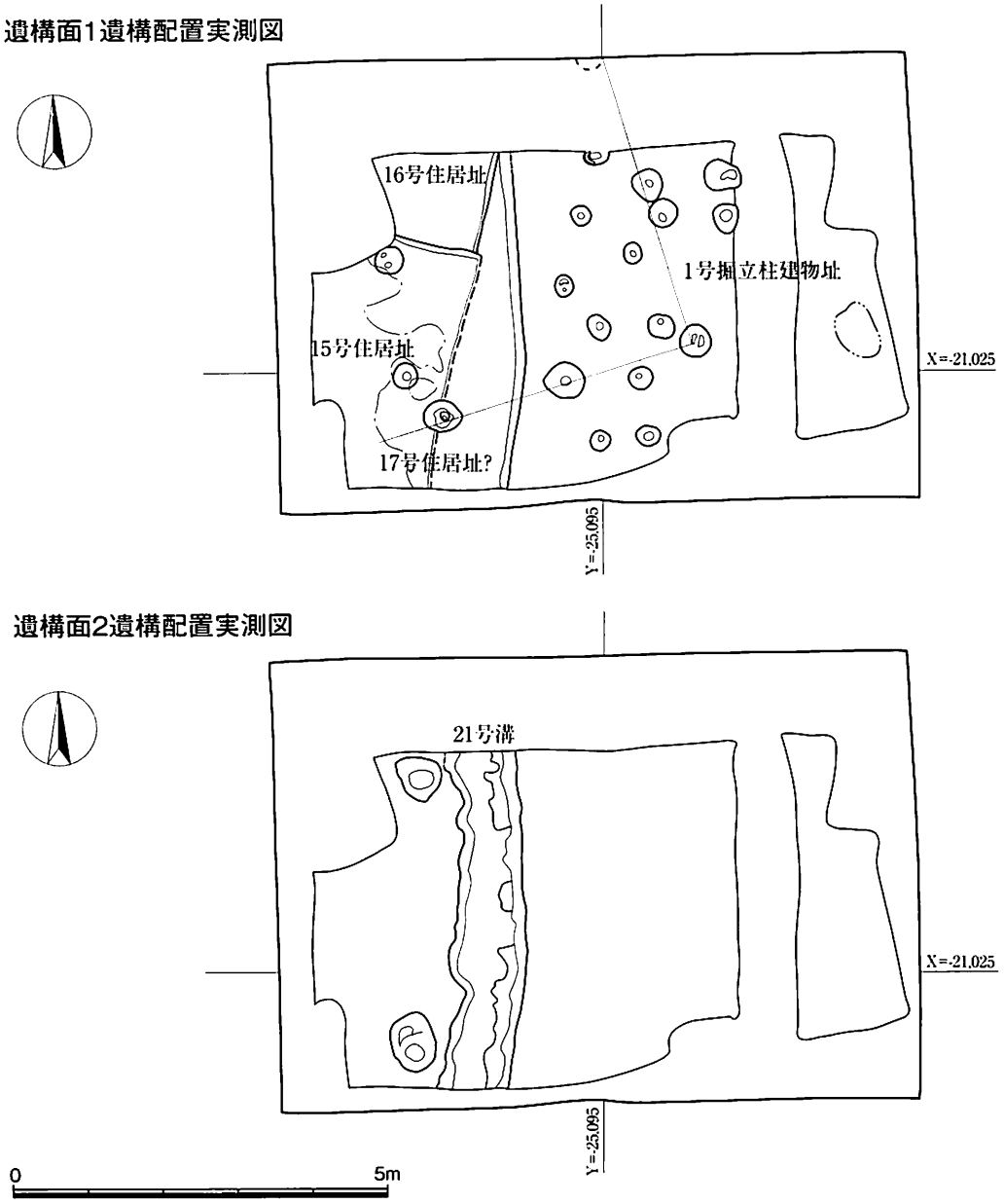


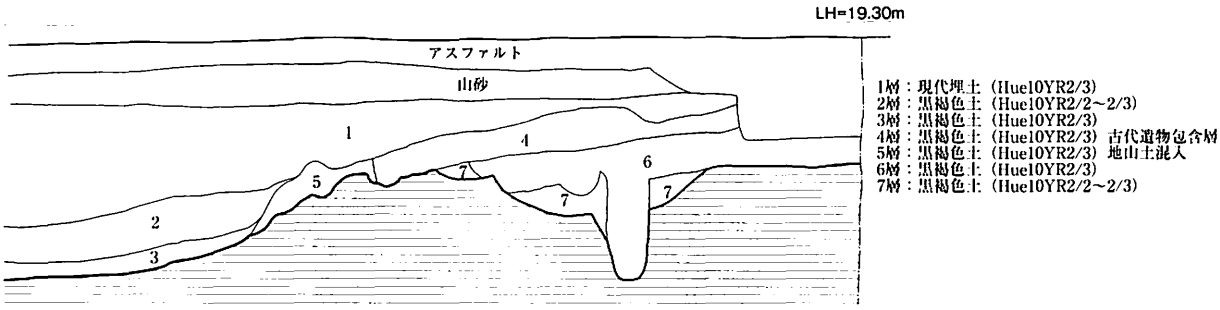

**図12　0513理⑥調査地点遺構配置実測図（1 /100）**

ある。南壁（図13）では、1～3層が現代埋土であり、4層からが古代以前の土層である。5・10層ともに4層の土にが地山の土が混入する土、あるいは影響を受けた中間的な土であることから、同じ層である可能性がある。6・8層は竪穴住居址の埋土であり、9層上面が浅い溝状の遺構の埋土である。

### （3）検出遺構

本調査区では、近現代の工事による削平・破壊はほとんどなかった。しかし、9810調査地点のように、遺構が密集して検出される状況でもなかった。検出した遺構は、竪穴住居址2？基、掘立柱建物址1棟、溝状遺構1条、ピットである。いずれも古代の遺構と思われる。

北壁




南壁

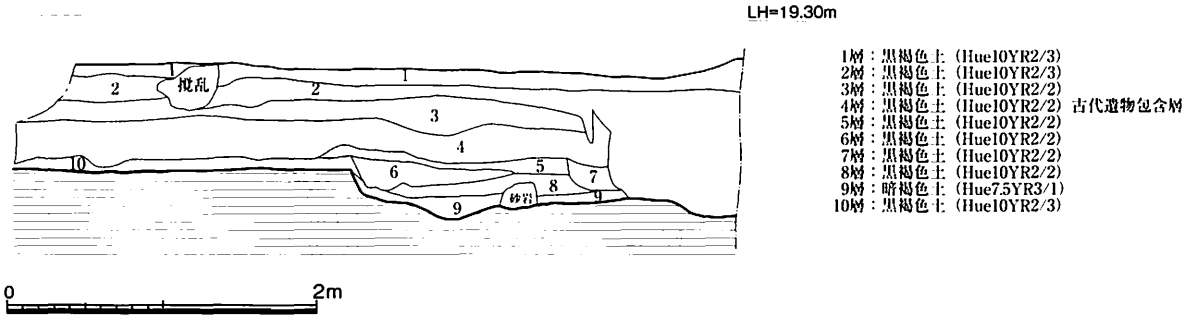



図13　0513理⑥調査地点調査区壁土層断面実測図（1 /50）

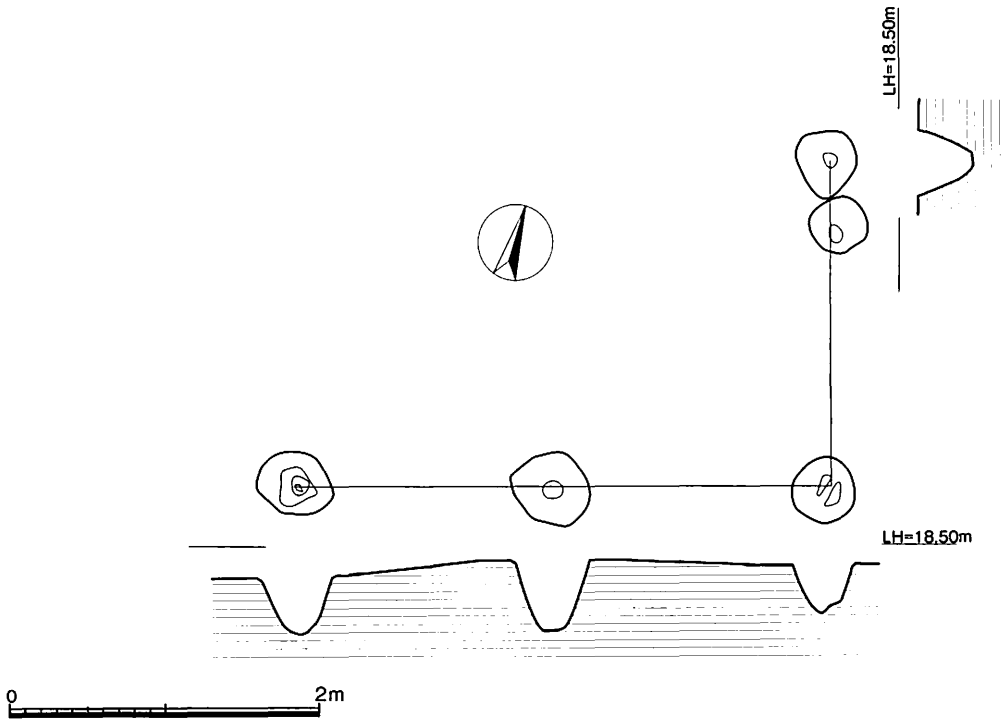



図14　0513理⑥調査地点1号掘立柱建物址実測図（1 /50）

**＜竪穴住居址＞（図12）**

**15号竪穴住居址・17号竪穴住居址（？）（図12）**

調査区西側で検出された。西側・南側は撹乱により破壊され、また調査区外になる。現況は縦3.4m、横2.2mである。当初は17号竪穴住居址（？）までの範囲を一つの遺構（溝）と考えて掘り下げを行ったが数センチで硬化面が検出され竪穴住居址と判明した。そこで、再検討を行い15号・16号竪穴住居址に分け、15号竪穴住居址を掘削した（この時点では17号竪穴住居址までを含む）。15号竪穴住居址を掘削すると、東側で床面のレベルや硬さが異なることから17号竪穴住居址（？）を分離した。しかし、この床の質やレベルの違いは、下位にある21号溝の影響が強いと思われ、17号竪穴住居址までが一つの竪穴住居址と考えられる。

**16号竪穴住居址（図12）**

３方向を撹乱と15号竪穴住居址により切られており、一部が残るのみである。現況は縦1.4m、横1.65mである。15号竪穴住居址と分離後、掘削した結果、15号竪穴住居址と同様に床のレベルや硬さが異なることから東側を17号竪穴住居址として分離した。しかし、15号竪穴住居址同様、17号竪穴住居址までが範囲である可能性もある。

**＜溝＞**

**21号溝（図12）**

15～17号竪穴住居址を完掘したのち、その下に軟らかくやや黒い土が残っていたため、掘削したところ、溝状の遺構となった。長さ4.5m、幅１m、深さ数センチである。南壁土層では、９層が埋土に相当すると思われる。15・17号竪穴住居址によって削平されているが、本来も20cm程度の浅い溝のようである。

**＜掘立柱建物＞**

**１号掘立柱建物（図14）**

調査区中央に位置する。北壁土層にかかる柱穴痕は、この掘立柱建物を構成する柱穴の一つと考えられる。現況では２間 × ３間であるが、梁・桁とも大きくなる可能性もある。方向は北より22°ほどに西へ傾く。

**（４）出土遺物**

**古代の遺物（図15：１～４）**

本調査区で出土した遺物は砕片が多く、また遺構に伴うものはほとんどない。竪穴住居址の項で述べたように、遺構の検出と確認が困難であったため、竪穴住居址の遺物は一括で取り上げた。遺物は６世紀末・７世紀初～９世紀のものと思われる。

１は15号竪穴住居址出土の丹塗土師坏である。２～８は15号竪穴住居址と16号竪穴住居址を分離する前に出土したもので、遺構がいずれかは不明である。土師器坏・甕の破片、須恵器坏・壺の破片がある。９・10は包含層出土である。９は甑の把手であり、10は縄文土器の底部である。

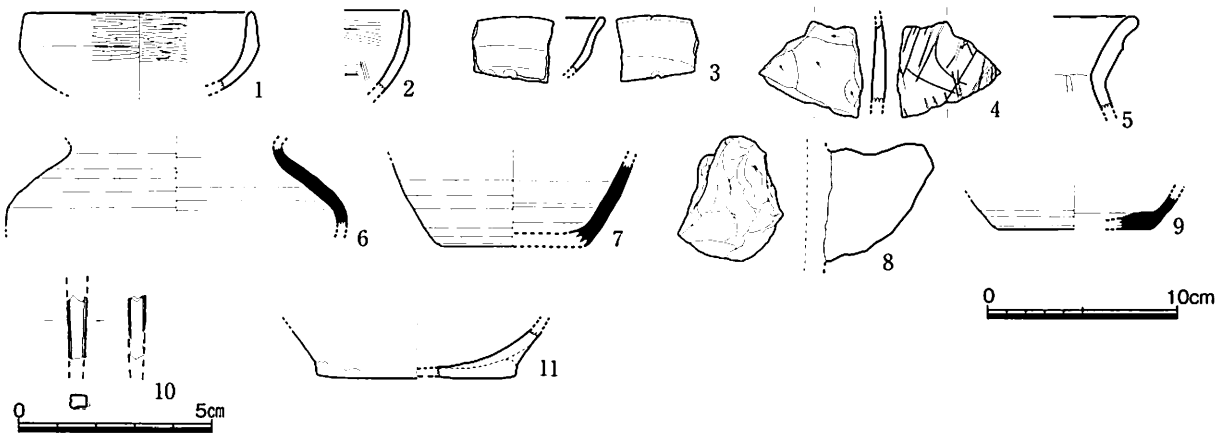



**図15　0513理⑥調査地点出土遺物実測図（1／2・1／4）**

## （5）まとめ

今回の調査では、9811調査地点の集落の続きを確認することができた。遺構は密ではなく、検出した竪穴住居址と思われる遺構も明確ではなかった。しかし、9811調査地点では確認されていない掘立柱建物址が検出されたことは、一つの成果である。9811調査地点では、7世紀後半から8世紀後半を主体とする集落が形成されたのち、9世紀代になると道路の側溝を現すような溝が掘られ、集落構造の変化が指摘されている。掘立柱建物は時期を明確に示す遺物がないが、このような集落の変化に伴って現れた建物であるかもしれない。

**表5　0513理⑥調査地点出土遺物一覧表**

| 図 | 番号 | 遺物 | 種類(器種) | 法量 (cm) | 残存量 | 特　徴 | 色　調 | 出土遺構 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 1 | 土師器 | 坏 | 口径12.0<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：磨き<br>外：削り，磨き | 内：Hue 2.5YR 3／6<br>外：Hue 2.5YR 3／6 | 15号住居址 | 丹塗り |
| | 2 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ハケ目，磨き<br>外：磨き，ヘラ削り，ナデ | 内：Hue 10R 4／6<br>外：Hue 5YR 7／6 | 15・16号住居址 | 丹塗り |
| | 3 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 5YR 6／6<br>外：Hue 2.5YR 6／6 | 15・16号住居址 | 化粧土 |
| | 4 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ヘラ磨き | 内：Hue 7.5YR 7／3<br>外：Hue 10YR 4／6 | 15・16号住居址 | 丹塗り |
| | 5 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ，ヘラ削り<br>外：回転ナデ，ハケ目 | 内：Hue 10YR 8／3<br>外：Hue 10YR 8／3 | 15・16号住居址 | |
| | 6 | 須恵器 | 壺 | 口径<br>底径<br>器高 | 肩部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 2.5Y 4／1<br>外：Hue 2.5Y 4／ | 15・16号住居址 | 外面に自然釉あり |
| | 7 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径6.0<br>器高 | 胴部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 2.5Y 7／1<br>外：Hue 2.5Y 7／1 | 15・16号住居址 | |
| | 8 | 土師器 | 甑 | 口径<br>底径<br>器高 | 把手 | 内：ナデ外： | 内：Hue 2.5YR 7／2<br>外：Hue | 包含層 | |
| | 9 | 須恵器 | 坏 | 口径<br>底径8.0<br>器高 | 底部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 10YR 6／2<br>外：Hue 10YR 7／2 | 包含層 | |
| | 10 | 鉄器 | 刀子 | 長さ1.7<br>幅0.5<br>厚さ0.4 | 両端欠損 | 内：外： | 内：Hue<br>外：Hue | 16号住居址 | 重量1.7g 刀子の茎か？ |
| | 11 | 縄文土器 | 甕形土器 | 口径<br>底径10.4<br>器高 | 底部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ，ハケ目 | 内：Hue 10YR 6／4<br>外：Hue 10YR 6／4 | 包含層 | |

## 8．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0513理⑩調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a．調査地と調査経緯

本工事は、平成17年から３年間にわたり実施された工学部他校舎改修施設整備等事業の一つである。理学部１・２号館の南側校舎の東に排水管を埋設する工事であり、工事立会の指導を受けた。本調査区の北には、1998年度に調査を実施した結果20軒以上の住居址と溝等が検出された集落址（9810調査地点）があり、また、１月前に隣接する地点（0513理⑥）においても遺構を確認した。本調査地点でも遺構が検出される可能性が高く、本調査を行う体制を整え、実施することとなった。

#### b．調査の経過

2006年１月４日　一次掘削
2006年１月６日　作業員を投入し、Ⅰ区の発掘調査開始。住居址２基、大溝等を検出。
2006年１月10日　２号溝完掘、１号住居竈調査。６号住居址・10号住居址検出、掘り下げ。
2006年１月12日　Ⅰ区の北半の全体写真撮影、測量。Ⅱ区・Ⅲ区掘削開始。Ⅳ区立会
2006年１月16日　Ⅰ区の南半の全体写真撮影、測量。Ⅲ区完掘、写真撮影。
2006年１月17日　Ⅰ区の図面、測量。Ⅱ区完掘、全体写真撮影。Ⅲ区測量。Ⅳ区完掘。
2006年１月19日　Ⅰ区残りのピット等の掘削、測量。Ⅱ区測量。Ⅳ区測量。調査終了。

#### c．調査の組織

調　査　員：大坪志子
事 務 担 当：前田知聖
発掘作業員：岡田イツ代・押方富江・小細工洋子・児玉洋平・溜渕俊子・林　毅暢・林田恵子・早田咲百合・堀川貞子・前田日出男
整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・泗水直子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗

### （2）調査区の基本層序

今回の調査地点が位置する熊本大学黒髪南地区は、白川左岸の標高18～19mの地点にあたる。本調査区は工学部２号館北側沿いと東側を、校舎を囲むように掘削した。調査区内には、既設管が数か所に入っており、調査区壁も撹乱で分断される箇所が多い。このため、壁沿いの遺構の土層断面を合わせて実測した。この中で、堆積に乱れがなく、一帯の基本層序を示しているのが次の２か所である。10号住居址東側の調査区壁（東壁）では、１層が現近世耕作土（Hue 10YR ２／２　黒褐色土）である。地表下0.5mで検出される２層（Hue 10YR ２／２　黒褐色土）（厚さ20～30cm）は古代の遺物包含層である。３層（Hue 10YR ２／２　黒褐色土）は基本的に２層と同じ土で、若干地山の土が斑状に混入する。６層以下は、13号ピットの埋土である。10号住居址の埋土である。３号住居址がある調査区西壁では、黒褐色（Hue 10YR ３／２）の混砂土層で近世耕作土である。２層が古代の遺物包含層（Hue10YR ２／１　黒色混砂土）であり、東壁の２層に対応する。３層（Hue 10YR ２／１　黒色土にHue 10YR ６／６　明黄褐色の粒が混入）・４層（Hue 10YR ２／２　黒褐色土にHue 10YR ５／

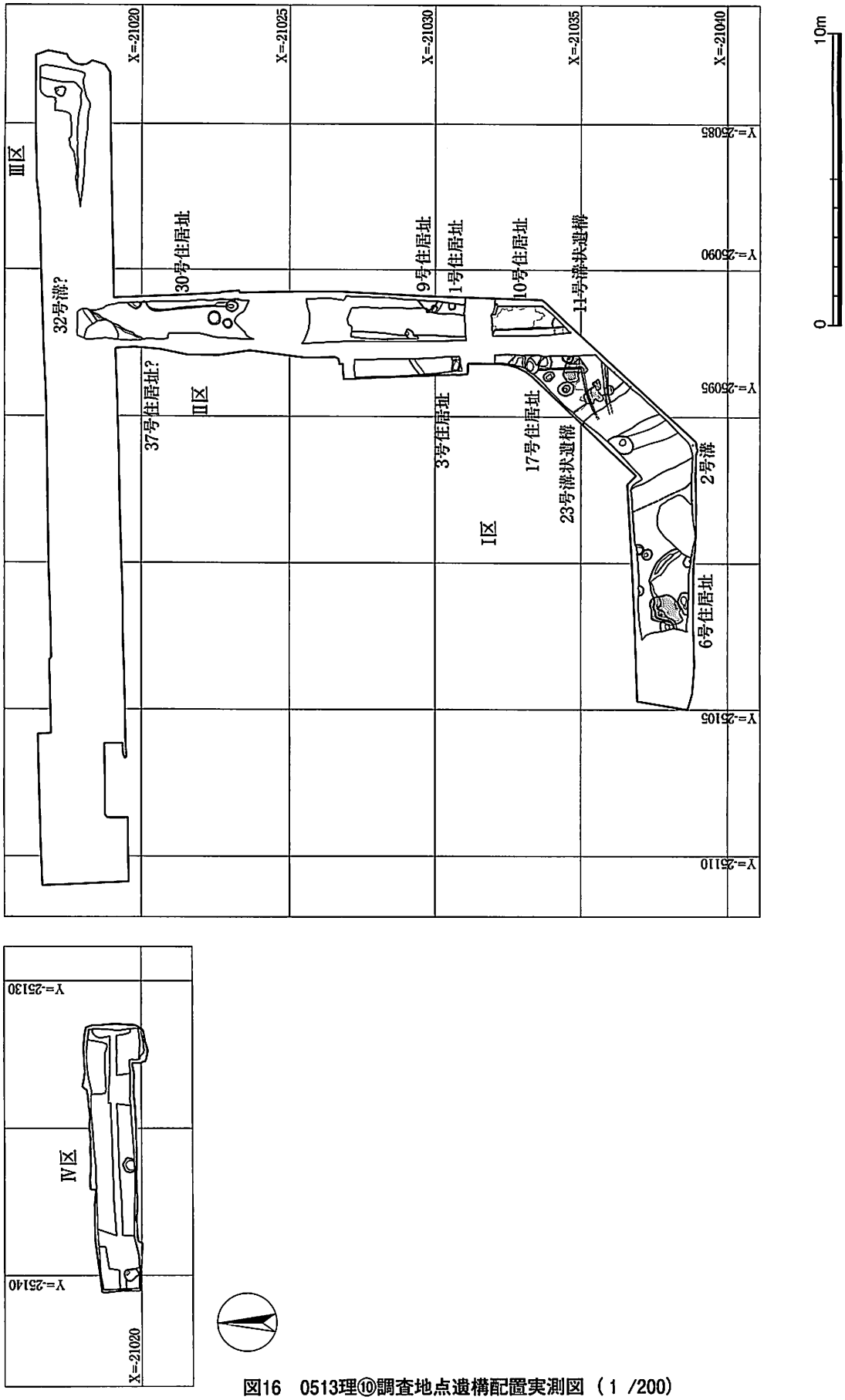
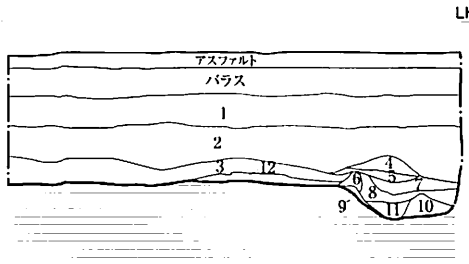


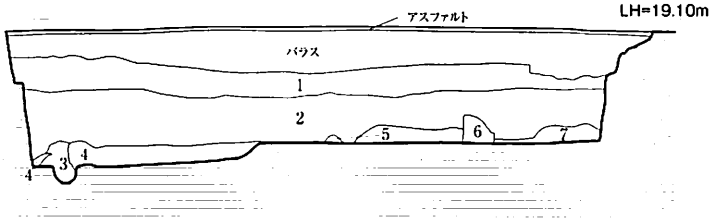

図16　0513理⑩調査地点遺構配置実測図（1 /200）

## 東壁(10号住居址)



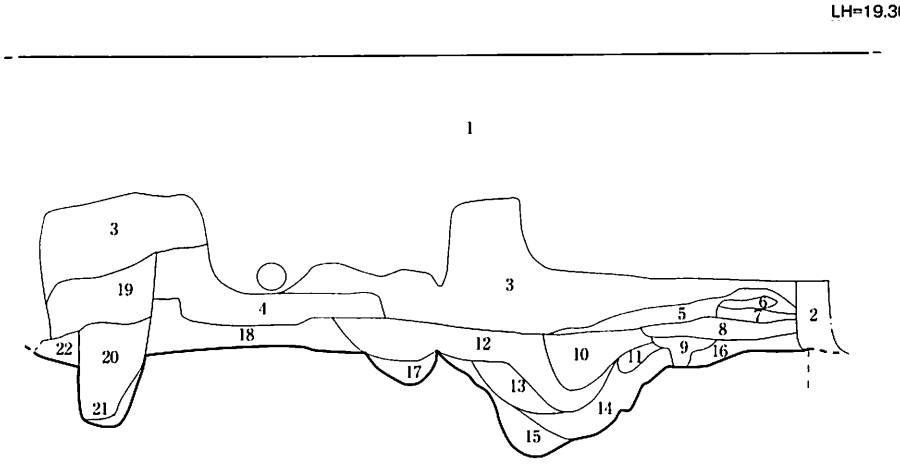

1層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
2層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
3層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
4層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
5層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
6層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
7層：黒褐色土(Hue10YR2/2～2/3)
黒褐色土(Hue10YR2/3)
8層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
9層：褐色土(Hue10YR4/6)
10層：暗褐色土(Hue10YR3/4)
黒褐色土(Hue10YR2/2)
褐色土(Hue10YR4/6)
11層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
12層：黒褐色土(Hue10YR2/3)

## 西壁(3号住居址)



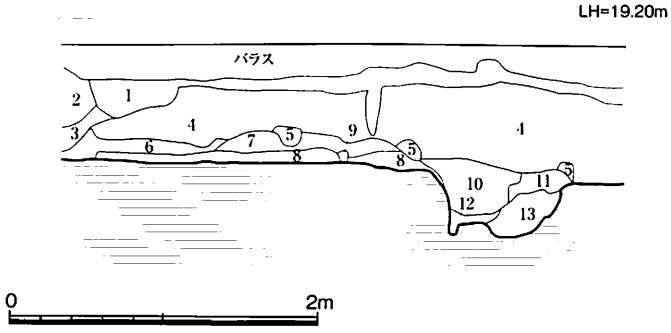

1層：黒褐色土(Hue10YR3/2)
2層：黒色砂質土(Hue10YR2/1)古代
3層：黒色土(Hue10YR2/1)・明黄褐色粒(Hue10YR6/6)
4層：黒褐色土(Hue10YR2/2)・黄褐色ブロック(Hue10YR5/6)
5層：黒褐色混砂土(Hue10YR2/2)・黒褐色土(Hue10YR3/2)・黄褐色粘土
6層：黒色混砂土(Hue10YR2/1)・鈍い黄褐色粘土ブロック(Hue10YR5/4)
7層：黒褐色土(Hue10YR2/2)・鈍い黄褐色粘土ブロック(Hue10YR4/3)

## 南壁(6号住居址)




1層：黒褐色土(Hue10YR2/2)現代埋土
2層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
3層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
4層：黒褐色土(Hue10YR2/2)古代
5層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
6層：褐色土(Hue7.5YR4/4)
7層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
8層：黒色土(Hue10YR1.7/1)
9層：黒色土(Hue10YR1.7/1)
10層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
11層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
12層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
13層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
14層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
15層：黒褐色土(Hue10YR2/2)ピット内
16層：暗褐色土(Hue10YR3/4)
黒褐色土(Hue10YR2/3)
17層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
暗褐色土(Hue10YR3/4)
18層：暗褐色土(Hue10YR3/4)
黒褐色土(Hue10YR2/2)
19層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
20層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
21層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
暗褐色土(Hue10YR3/4)
22層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
暗褐色土(Hue10YR3/4)

## 西壁（17号住居址土層）




1層：黒褐色土(Hue10YR2/2)現代
2層：黒褐色土(Hue10YR2/2)現代
3層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
4層：黒色土(Hue10YR1.7/1)
5層：黒褐色土(Hue10YR2/2)・暗褐色土(Hue10YR4/6)炭
6層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
7層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
8層：黒褐色土(Hue10YR2/2)・暗褐色土(Hue10YR4/6)
9層：暗褐色土(Hue10YR4/6)
10層：黒色土(Hue10YR1.7/1)・暗褐色土(Hue10YR4/6)
11層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
12層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
13層：黒褐色土(Hue10YR2/2)

**図17　0513理⑩調査地点調査区壁土層断面実測図（1 /50)**

6黄褐色のブロック混入）は3号住居址の埋土である。6号住居址付近の南壁では、3層が（Hue 10YR 2／2　黒褐色　オレンジの粒子が混入）近世耕作土であり、4層が古代の遺物包含層（Hue 10YR 2／2　黒褐色）である。18層（Hue 10YR 3／4　暗褐色土にHue 10YR 2／2　黒褐色土混入）が住居址埋土であり、9～17層・19～22層は住居址を切って後に掘り込まれたピット埋土である。17号住居址がある西壁では、1～3層までが現代埋土・近世耕作土であり、4層（Hue 10YR1. 7/1　黒色土）が古代の遺物包含層であり、住居址の埋土である。5層（Hue 10YR 2／2 黒褐色・Hue 10YR 4／6　褐色）は炭の塊と地山の土が混入する土である。6層（Hue 10YR 2／2 黒褐色）・7層（Hue 10YR 2／2　黒褐色）は焼土のオレンジ色の粒子が混入する。8層（Hue 10YR 2／2　黒褐色・Hue 10YR 4／6　褐色）は、硬化した床面である。

**（3）検出遺構**

本調査区での遺構の遺存状況と次のとおりである。理学部号館西側から南にかけてのⅠ・Ⅱ区は、配管が3か所に通っており、Ⅰ・Ⅱ区の間では撹乱により既に破壊された部分もあった。小さな撹乱が部分的に遺構を壊している場合が多かったが、遺存状態は良いほうであった。Ⅲ区が位置する自然科学研究科・理学部研究棟南側は、同建物の建設時の掘り方に当たり、範囲から外れる東端部分のみで、遺構面を確認できた。理学部2号館北側では、建物から2m程度は建物建設時の掘り方内であり、階段を迂回するため校舎から離れたⅣ区部分で遺構面を確認した。

Ⅰ・Ⅱ区では竪穴住居址と考えられる遺構が5基、溝が1条、溝状の遺構1条、不明2基、ピット等を検出した。Ⅲ・Ⅳ区ではピットを検出した。なお、Ⅰ・Ⅱ区間は0513理⑥調査地点の範囲内であるが、当該地区での工事範囲を縮小したため、この区間に存在した障害物（枡）は撤去せず、本調査区の調査時に撤去して調査することとしたため、本調査区内での遺構検出となっている。

**＜竪穴住居址＞（図18）**

**1号（3号）竪穴住居址（図18）**

Ⅰ区のうち、南北に調査区が向く区間の中央付近で検出した。中央部分が撹乱（ガス管）によって失われており、調査区東壁から幅0.6m程度が残っている。北東を向く。撹乱を挟んだ西側で住居址を検出し、3号として掘削をおこなったが、住居址の向きなどから1号住居址と3号住居址は同じ住居址である可能性が高い。東壁沿いに、焼土や竈の部材と思われる砂岩ブロックが検出された。竈の主体となる部分は調査区壁の土層で確認すると調査区外に位置するようである。住居址の南西側の壁は確認できなかった。遺物は砕片のみである。

**9号竪穴住居址（図18）**

1号住居址の北側で検出された。大半が調査区外にあり、また1号住居址によって切られているため、全体は不明であるが、壁の向きからは、1号住居址と同じ方向を向く住居址である。遺物は砕片のみである。

**6号竪穴住居址（図18）**

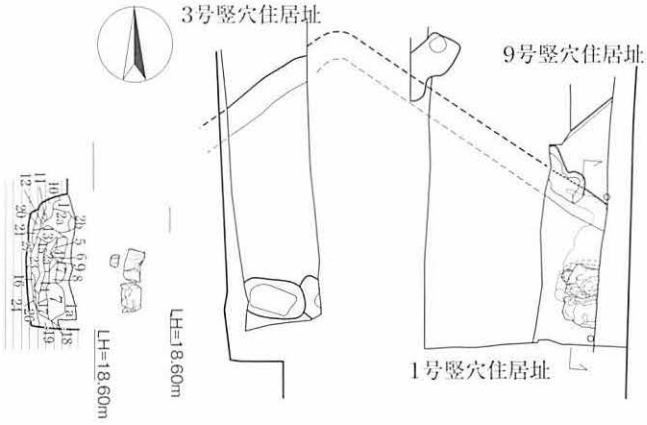
Ⅰ区の西端で検出された。撹乱による削平を受けており、また全体の3／4が調査区外である。北西を向き、北西壁には竈が設けられている。竈部分は破壊されていたが、焼土を下げると支柱と鉢が残っていた。

**10号竪穴住居址（図19）**

Ⅰ区の調査区が南西に折れる角付近で検出された。しっかりとした硬化した床が検出されたため、10号住居址とした。東側にはガス管と、幅0.3mの溝状の11号溝状遺構によって切られている。この

1(3)・9号竪穴住居址

1層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
　　1aはオレンジ・白の細粒を多く含む
2a層：明赤褐色焼土(Hue5YR5/8)
2b層：明赤褐色土(Hue5YR5/8)
　　黒褐色土(Hue10YR2/2)
3層：暗褐色粘土(Hue10YR3/3)
4層：にぶい黄褐色粘土(Hue10YR4/3)
5層：暗褐色粘性土(Hue10YR3/3)
6層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
7層：にぶい黄　砂岩(Hue10YR6/3)
8層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
9層：暗褐色粘性土(Hue10YR3/3)
10層：黒褐色粘性土(Hue10YR2/2)
11層：暗褐色粘性土(Hue10YR3/3)
12層：黒褐色粘性土(Hue10YR2/2)
13層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
14層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
15層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
16層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
17層：暗褐色粘性土(Hue10YR3/3)
18層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
19層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
20層：黒褐色土(Hue10YR2/3)
21層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
22層：暗褐色焼土(Hue10YR3/4)
23層：明褐色土(Hue7.5YR5/6)
24層：黒褐色粘性土(Hue7.5YR2/2)
25層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
26層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
27層：暗褐色土(Hue10YR3/3)




6号竪穴住居址

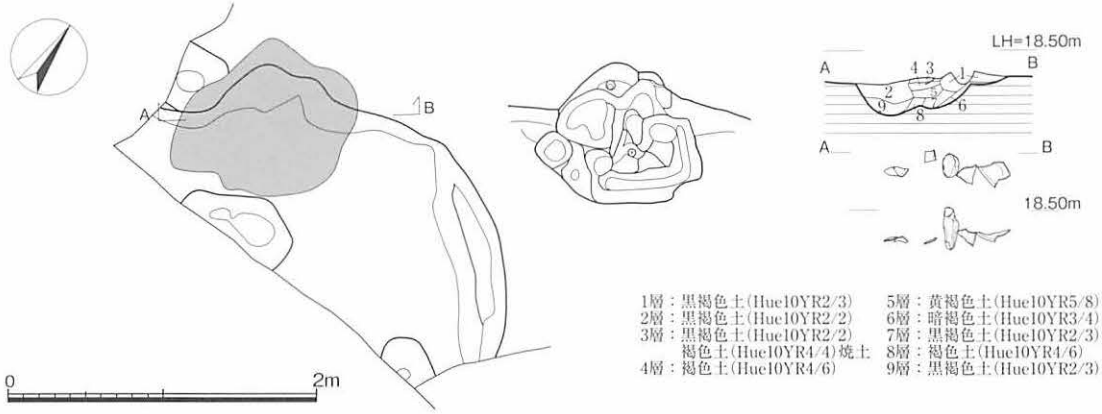



図18　1（3）・9・6号竪穴住居址実測図（1/50）

床面が伴うべき住居址の全体は不明であるが、1号住居址が、9811調査地点において検出されている1辺が5mを測る住居址ならば、1号住居址の硬化面である可能性もある。

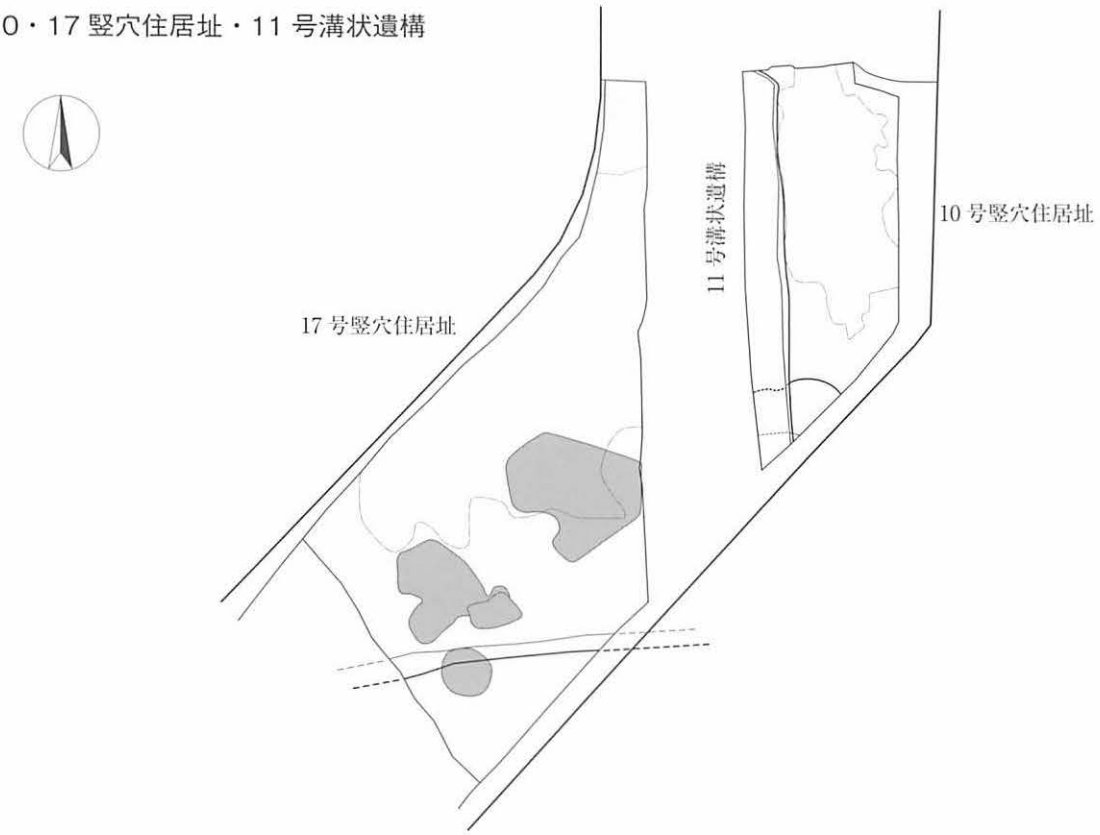
**17号竪穴住居址（図19）**

10号住居址と、撹乱を挟んで西側に位置する。包含層を掘削すると、硬化面が検出されたため17号住居址とした。南側で土が異なるプランがあったため、ここを南壁とした。この南壁からすると、17号住居址は北を向く。10号住居址と同一の住居址か、別の住居址かは確認できなかった。土師器の甕や高坏が出土しているが、ほかは砕片が多い。

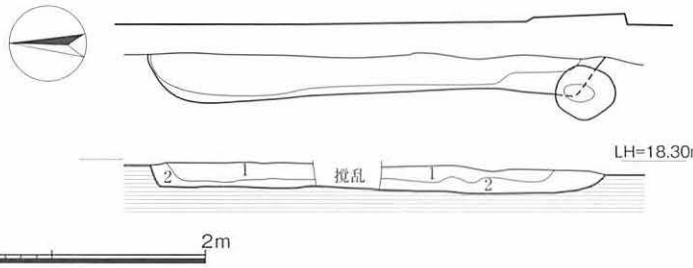
**30号竪穴住居址（図19）**

Ⅱ区の東壁沿いに検出された。確認できる幅は住居址の西側0.3m程度であり、大半は調査区外である。現状からは、一辺が約3m程度の住居址と思われ、北を向く。

10・17 竪穴住居址・11 号溝状遺構

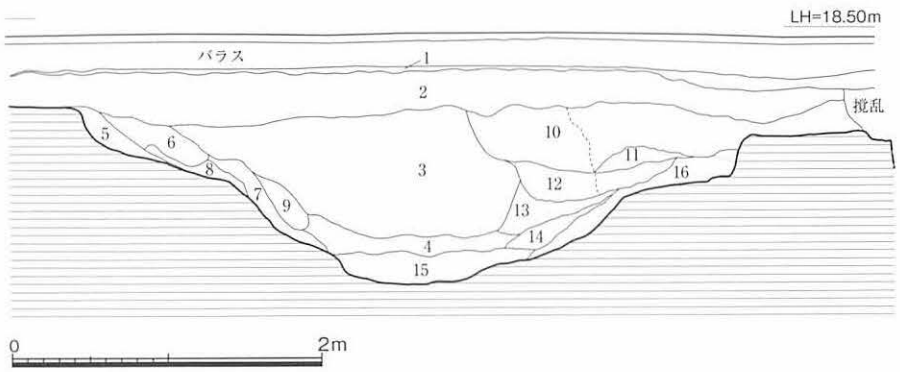



30 号竪穴住居址




1層：黒褐色土（Hue10YR2/2）
2層：黒褐色土（Hue10YR2/2～2/3）

2 号溝




1層：黒褐色土（Hue10YR2/2）
2層：黒褐色土（Hue10YR3/2）
3層：黒褐色土（Hue10YR3/2）
4層：黒褐色土（Hue10YR3/2）
5層：黒褐色土（Hue10YR3/3）
6層：黒褐色土（Hue10YR2/3）
7層：黒褐色土（Hue10YR3/2）
・褐色粘土（Hue10YR4/4）
8層：黒褐色土（Hue10YR3/2）
・褐色粘土（Hue10YR4/4）
9層：黒褐色土（Hue10YR2/3）
10層：黒褐色土（Hue10YR3/2）
11層：黒褐色土（Hue10YR2/2）
12層：黒褐色土（Hue10YR2/3）
13層：黒褐色土（Hue10YR2/3）
14層：黒褐色土（Hue10YR2/3）
15層：黒色粘土（Hue10YR2/1）
16層：黒褐色土（Hue10YR3/2）

図19　10・11・17・30号竪穴住居址実測図・2号溝土層断面実測図（1 /50）

＜溝＞

**2号溝（図19）**

調査区が、南西から西へと曲がる角に位置する。幅約4.5m、深さ約1.1mの大溝である。北北西－南南東に走り、調査区を横断する。この溝は、9811調査地点で1号溝とされた溝の続きである。中世末期の溝と考えられる。

**11号溝状遺構（図19）**

10号住居址の西側を、撹乱に沿って南北に走る。撹乱の西側では対応する西側の立ち上がりを確認できなかった。西側の立ち上がりは、調査が行えなかった撹乱の下に位置する可能性もある。また、北側でも撹乱のため続きを確認することはできなかったが、北端で西へ曲がるようで、実際は北に延びていなかった可能性がある。現況では、幅約0.3m、深さは10cm足らずで非常に浅い。

**23号溝状遺構**

17号住居址の床を掘り下げたところ、検出された。幅1.9m、深さ約0.2mで、直角に西に曲がる。北側はピットによって切られ、西側は1号溝によって切られている。11号住居址が、17号住居址と同じレベルの10号住居址を切っているのに対し、23号溝状遺構は17号住居址の下から検出されたため、別の遺構とした。ただし、向きなどは対応しているように見え、17号住居址の範囲次第でもある。

**＜その他の遺構＞**

Ⅱ区の北端では、32号・37号の不明遺構がある。いずれも部分的な検出で、全体は不明である。住居址か溝の可能性がある。その他、各調査区でピットが検出された。その他、各区でピットが検出された。

**（4）出土遺物**

**古代の遺物（図20：1～27）**

本調査区で出土した遺物は砕片が多く、図化したものは少ない。1～7は2号溝から出土した陶器・土師器・須恵器である。1は近世のものと思われる台付の燈明皿であり、2号溝からは磁器片も出土している。2号溝の続きは9811調査地点では中世末とされており、古代の遺物は、流れ込みと思われる。8は、6号竪穴住居址の竈から出土した土師器の鉢である。9は7号ピットから出土した須恵器坏である。10・11は17号竪穴住居址から出土した土師器の高坏脚部と甕口縁部である。12～27は包含層から出土した。12は1・9号竪穴住居址付近で出土の土師器の高坏脚部である。13・14は17号竪穴住居址付近出土の土師器碗である。15は甑の把手である。16は3号竪穴住居址（1号西側）付近出土の須恵器蓋である。17は1号竪穴住居址付近出土の須恵器坏（碗）の底部である。18は17号竪穴住居址付近出土の須恵器碗である。19は1号竪穴住居址付近で出土した須恵器坏、20は10号住居址付近出土の須恵器壷の頸部である。21は須恵器お長頸壷の頸部、22は6号住居址付近出土の須恵器片、23も須恵器片である。24・25は縄文土器である。26・27はいずれも鉄製刀子と思われる。この他にも、石斧・楔石器など縄文時代の石器も出土している。

**（5）まとめ**

今回の調査地点は、近世以降に削平されたり、工事による破壊を受けていたが、Ⅰ区の南半では比較的遺存状態は良好であった。調査区が狭長で不規則な形をしていたため、遺構についてはその全容を捉え難かったが、9811調査地点において確認した集落の範囲が、本地点まで及ぶことが確認できた。

1（3）号竪穴住居址は、9811調査地点の2・11・200号住居址と同等の規模と方位を持つようで、

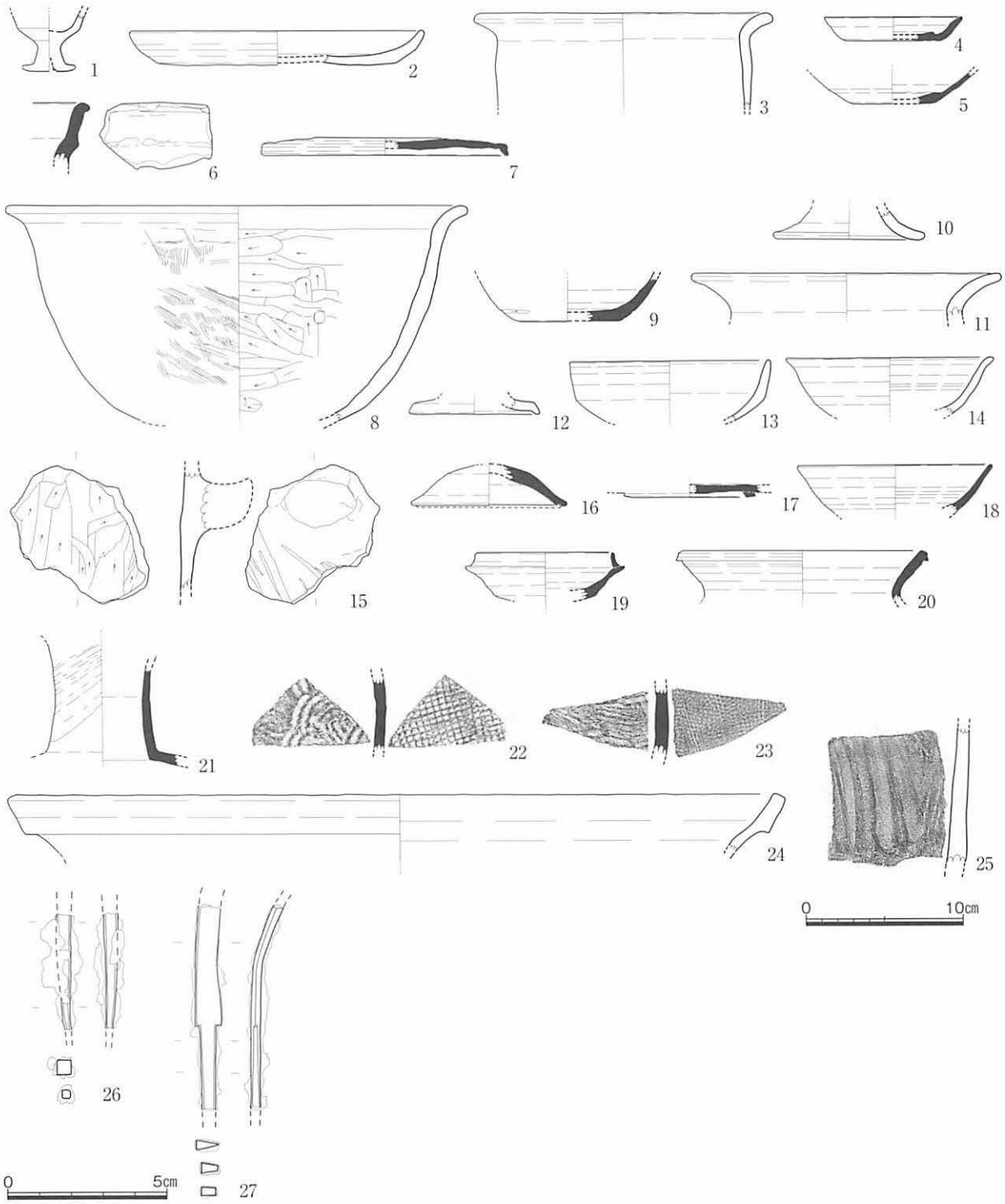



図20　0513理⑩調査地点出土遺物実測図（1／2・1／4）

7世紀末から8世紀前半の、集落の前半グループに属すと思われる。6号・30住居址は9811調査地点の44・5・6号住居址と同等の規模と方位を示しており、8世紀後半を中心とする後半グループに属すると考えられる。9811調査地点から本調査区北半までの間は、0513理⑥地点も含め、撹乱等もあるが、遺構が若干疎になるように思われ、反対に本調査区南半では住居址や溝状遺構、ピットが多数検出される傾向にあった。9811調査地点東半のような遺構（住居址）が密集する地点が、本地点より南

側の、理学部２号館から理学部４号館にかけての一帯に存在する可能性が考えられる。 大学敷地の南西端に近いヘリウム棟周辺でも、溝などの遺構が確認されており、白川沿岸にかなり近い場所まで利用されていたようである。黒髪南地区の東側は、比較的建物が少ない地域であるため遺跡が保存されている可能性が高く、今後の工事においては注意を払うべき区域の一つと言えよう。

**表６　0513理⑩調査地点出土遺物一覧表**

| 図 | 番号 | | 種類(器種) | 法量 (cm) | 残存量 | 特　徴 | 色　調 | 出土遺構 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 1 | 陶器 | 灯明皿 | 口径<br>底径<br>器高 | 1 / 2 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ，指ナデ | 内：Hue 5YR 3 / 1<br>外：Hue 7.5YR 7 / 4<br>釉：Hue 2YR 3 / 1 | ２号溝 | 釉有り底部糸切り痕 |
| | 2 | 土師器 | 皿 | 口径18.3<br>底径15.0<br>器高2.2 | 1 / 4 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ，ヘラ削り | 内：Hue 2.5YR 5 / 8<br>外：Hue 5YR 4 / 6 | ２号溝 | 内外面丹塗り |
| | 3 | 土師器 | 甕 | 口径19.2<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ，ヘラ削り<br>外：回転ナデ，ハケ目 | 内：Hue 10YR 6 / 4<br>外：Hue 10YR 6 / 4 | ２号溝 | |
| | 4 | 土師器 | 小皿 | 口径<br>底径<br>器高 | 1 / 8 | 内：回転ナデ，削り<br>外：回転ナデ | 内：Hue 7.5YR 7 / 6<br>外：Hue 7.5YR 8 / 8 | ２号溝 | 静止糸切り |
| | 5 | 須恵器 | 坏 | 口径<br>底径5.6<br>器高 | 底部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 2.5Y 6 / 2<br>外：Hue 2.5Y 6 / 1 | ２号溝 | |
| | 6 | 須恵器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ，削り<br>外：回転ナデ | 内：Hue 10YR 5 / 2<br>外：Hue 7.5YR 5 / 3 | ２号溝 | |
| | 7 | 須恵器 | 蓋 | 口径15.8<br>底径<br>器高1.1 | 1 / 4 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ，回転ヘラ削り | 内：Hue 2.5Y 5 / 1<br>外：Hue 2.5Y 5 / 2 | ２号溝 | |
| | 8 | 土師器 | 鉢 | 口径33.0<br>底径<br>器高 | 1 / 3 | 内：横ナデ，ヘラ削り<br>外：横ナデ，指ナデ後ハケ調整 | 内：Hue 7.5YR 7 / 6<br>外：Hue 2.5YR 3 / 1 | ６号住居址 | 内面に一部スス付着有りい<br>外面にスス付着，一部コゲ有り |
| | 9 | 須恵器 | 坏 | 口径<br>底径7.3<br>器高 | 底部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 7.5YR 5 / 1<br>外：Hue 7.5YR 5 / 1 | ７号ピット | |
| | 10 | 土師器 | 高坏 | 口径<br>底径9.6<br>器高 | 脚部片 | 内：ヘラ削り，ナデ<br>外：磨き，ナデ | 内：Hue 5YR 6 / 6<br>外：Hue 2.5YR 5 / 6 | 17号住居址 | |
| | 11 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 7.5YR 6 / 4<br>外：Hue 7.5YR 6 / 4 | 17号住居址 | 外面スス付着有り |
| | 12 | 土師器 | 高坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 脚部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 5YR 6 / 6<br>外：Hue 5YR 6 / 6 | 包含層 | |
| | 13 | 土師器 | 坏 | 口径12.8<br>底径<br>器高 | 脚部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 7.5YR 7 / 4<br>外：Hue 7.5YR 7 / 3 | 包含層 | 丹塗り |
| | 14 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 7.5YR 7 / 4<br>外：Hue 10YR 7 / 4 | 包含層 | |
| | 15 | 土師器 | 甑 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片把手部 | 内：ヘラ削り，ヘラ磨き<br>外：ヘラ削り，ヘラ磨き，ナデ | 内：Hue 5YR 4 / 3<br>外：Hue 5YR 7 / 6 | 包含層 | |
| | 16 | 須恵器 | 蓋 | 口径10.0<br>底径<br>器高 | 1 / 4 | 内：回転ナデ<br>外：ヘラ削り，回転ナデ | 内：Hue 5Y 3 / 1<br>外：Hue 5Y 4 / 1 | 包含層 | |
| | 17 | 須恵器 | 甕 | 口径<br>底径4.4<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り，ナデ<br>外：ハケ目，ナデ | 内：Hue 5YR 6 / 1<br>外：Hue 5YR 5 / 1 | 包含層 | |
| | 18 | 須恵器 | 坏 | 口径12.4<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 2.5Y 7 / 2<br>外：Hue 2.5Y 7 / 1 | 包含層 | |
| | 19 | 須恵器 | 坏 | 口径8.8<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ，回転ヘラ削り | 内：Hue 10YR 6 / 3<br>外：Hue 7.5YR 5 / 1 | 包含層 | |
| | 20 | 須恵器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り，回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 7.5Y 4 / 1<br>外：Hue 7.5Y 5 / 1 | 包含層 | |
| | 21 | 須恵器 | 長頸壺 | 口径<br>底径<br>器高 | 頸部片 | 内：回転ナデ，ナデ<br>外：回転ナデ，ナデ | 内：Hue 7.5Y 5 / 1<br>外：Hue N 3 / 0 | 包含層 | 外面に一部自然釉有り |
| | 22 | 須恵器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片 | 内：同心円<br>外：格子叩き | 内：Hue 2.5Y 5 / 1<br>外：Hue 5Y 5 / 1 | 包含層 | |
| | 23 | 須恵器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片 | 内：敲き<br>外：格子叩き、ハケ | 内：Hue 2.5Y 6 / 2<br>外：Hue 2.5Y 5 / 2 | 包含層 | |
| | 24 | 縄文土器 | 深鉢型土器 | 口径49.8<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ，磨き<br>外：ナデ，磨き | 内：Hue 2.5Y 4 / 1<br>外：Hue 5 Y 6 / 1 | 包含層 | |
| | 25 | 縄文土器 | 深鉢型土器 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 4 / 6<br>外：Hue 2.5YR 6 / 4 | ２号溝 | |
| | 26 | 鉄器 | | 長さ3.7<br>幅0.5<br>厚さ0.5 | 両端欠損 | 内：<br>外： | 内：Hue<br>外：Hue | 包含層 | 重量3.9g<br>鉄族の頸部か？ |
| | 27 | 鉄器 | 刀子 | 長さ6.5<br>幅1.0<br>厚さ0.3 | 先端部茎部欠損 | 内：<br>外： | 内：Hue<br>外：Hue | 包含層 | 重量6.7g 両関式<br>茎に目釘らしきもの有り |

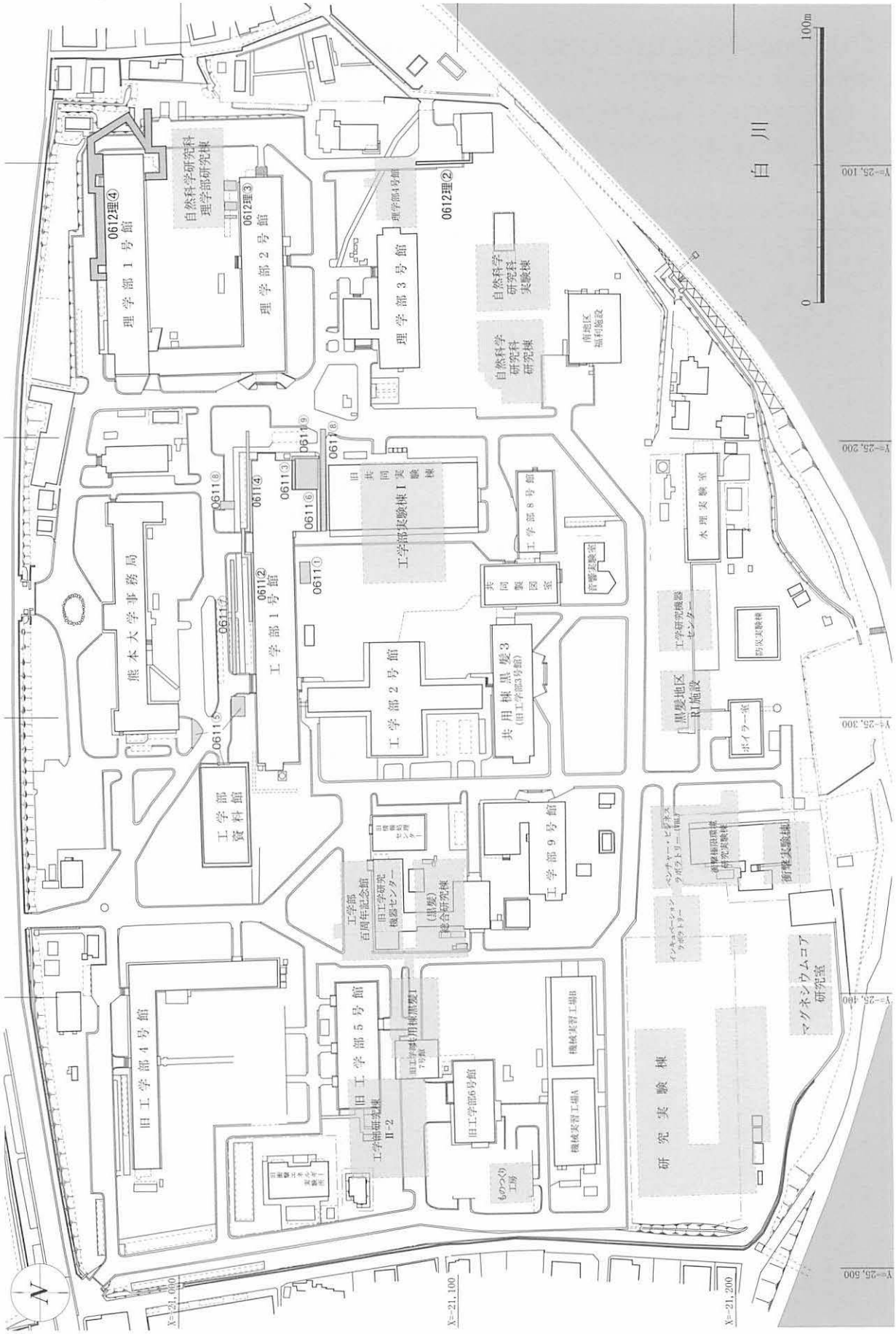



図21　2006年度の調査地点配置図（1 /2000）

## 9．（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0612理②調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a．調査地と調査経緯

本工事は、平成17年から3年間にわたり実施された工学部他校舎改修施設整備等事業の一つである。理学部4号館から、校舎の南東部に位置するヘリウム棟にヘリウム回収管を配管する工事である。立会調査を実施した結果、遺物包含層を確認したため、発掘調査に切り替えた。

#### b．調査の経過

2006年5月22日　一次掘削

2006年5月24日　作業員を投入し、発掘調査開始。ピット・溝を検出、掘削。全体写真を撮影し、測量を行う。発掘調査終了

#### c．調査の組織

調　査　員：小畑弘己・大坪志子・檀佳克

事 務 担 当：中川木綿子

発掘作業員：大成建設作業員4名

整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・泗水直子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山寄早苗

### （2）調査区の基本層序

今回の調査地点が位置する熊本大学黒髪南地区は、白川左岸の標高18～19mの地点にあたる。理学部4号館南側の東端から南東に位置するヘリウム棟までの配管であるが、4号北側で同様に配管工事を行った際（0537調査地点）には、アスファルトと砕石を除くと遺物包含層が検出されたため、本調調査区も包含層及び遺構面の検出は浅いと考えられた。掘削の結果、0537調査地点と同様の深さで包含層が確認された。1層（黒褐色 Hue 10YR 2 / 3）の地表下0.4mまでは砂利・炭などが多量に入る現代埋土であり、2層（黒褐色 Hue 10YR 2 / 3）が古代の遺物包含層である。

### （3）検出遺構

本調査区では、近現代の工事による削平・破壊が著しく、遺物包含層・遺構面は島状に遺存していた。検出した遺構は、溝1条、ピットである。いずれも古代の遺構と思われる。

**＜溝＞**

**6号溝（図22）**

調査区中央のやや北よりで検出した。幅約0. 9m、深さ約0. 2mで東西方向を向く。

### （4）出土遺物

**古代の遺物**

本調査区で出土した遺物は砕片が多く、また遺構に伴うものはほとんどない。古代と思われる土師器・須恵器の破片が出土した。

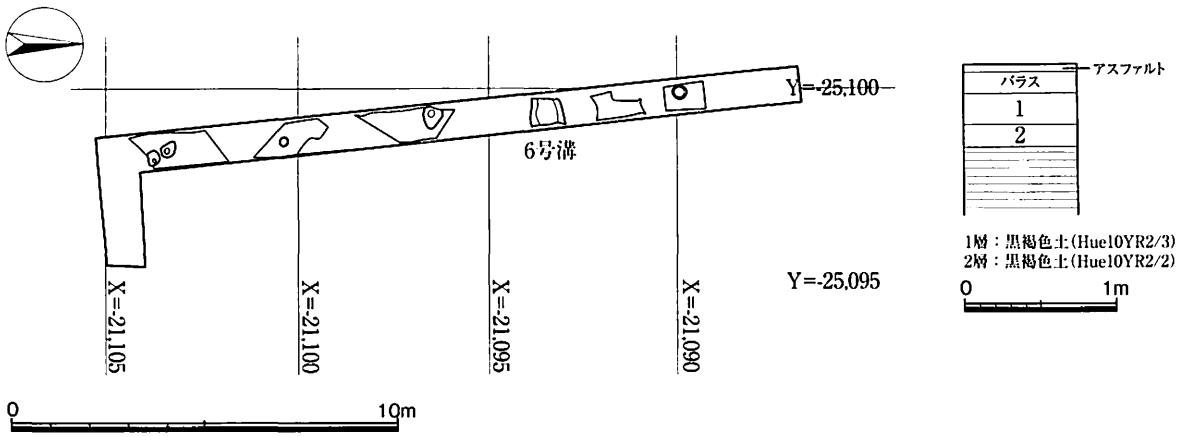



**図22　0612理②調査地点遺構配置実測図・土層柱状図（1 /200）**

### （5）まとめ

本調査区は、黒髪南地区の東南端に位置する。白河の河川敷の幅が狭まり、ヘリウム棟は白川に最も近い建物の一つである。本調査区では、遺構の遺存状態が悪く、遺構も密な様子はなかったが、9811調査地点・0513理⑥・⑩地点において確認された集落が、ここまでは及ぶことが確認できた。本調査区から東へ40mの地点において、水生動物飼育舎新営工事に伴い発掘調査（9911調査地点）を実施したが、そこでは地表下２m以下で遺構面や包含層を検出した。地山が白川に向かって傾斜しており、白川の旧河岸であると思われる。9911調査地点の結果と現況から推測すると、今回の調査地点は、かなり白川に迫るところにまで、集落が立地していたと考えられる。西側のベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、衝撃・極限環境研究センター周辺は、地下２mほどの深さまでは、白川の洪水砂が厚く堆積しており、その下は近世の畑址が検出された。現在の白川の流路からは大分陸地となるが、古代の集落址は確認されていない。既往の調査成果と合わせると、今回の調査地点から南地区福利施設付近までの敷地端は、古代の集落の南端部に位置し、古代の遺物包含層や遺構が存在する可能性がある。これより西側においては、一段低い白川の旧河川敷に相当すると推定される。

このように、黒髪南地区の敷地南端周辺は、地点によってかなり地下の様子が異なり、旧地形は現況からの予想に反する点もあった。本調査地点周辺における掘削は、遺跡の存在の有無が計り難く、今後の留意点として挙げられる。

## 10.（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0612理④調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a．調査地と調査経緯

本件は、平成17年から３年間にわたり実施された工学部他校舎改修施設整備事業の一つであり、理学部１号館の北部から東部をめぐり南側と連接して排水管を配管する工事である。この理学部１号館と理学部２号館の間の中庭東寄りには自然科学研究科理学部研究棟（9810調査地点）があり、この工事に先立ち行った発掘調査では、古代の竪穴住居址や溝、近世の溝などの良好な遺構群が検出されており、この地点も遺構の残りが良いことが予想された。このため、2006年12月15日に実施した立会調査を皮切りに、遺構の残り具合が良好なため、発掘調査に切り替え、翌年の１月９日に調査が終了するまで、数回の立会調査と発掘調査を実施した。

#### b．調査の経過

2006年12月15日　建物南側（１区）の配管部を立ち会ったところ、包含層が確認できたため、発掘調査に切り替えた。
2006年12月18日　建物東側２区の発掘調査を行う。
2006年12月20日　建物南側３区の立会調査を行う。
2006年12月22日　建物南側３・４区の発掘調査を開始。
2007年１月４日　建物北側（５～７区）を発掘調査する。
2007年１月９日　写真撮影を行い、調査を終了する。

#### c．調査の組織

調　査　員：小畑弘己
事 務 担 当：前田知聖
発掘作業員：押方富江・白石美智子・溜渕俊子・前田日出男・松井昭子・松永一代・松本和徳・三好栄太郎・森川征子・森川護・森田登・田上次敏・田上利子
整理作業員：小山正子・古賀敬子・泗水直子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子

### （2）調査区の基本層序

本調査地点は建物南側の既設配管の多い部分では良好な土層を確認できなかった。しかし、隣接する自然科学研究科理学部研究棟（9810調査地点）での基本土層と変化はない。ただし、建物北側は地形が高くなっており、アスファルト10cm、バラス層40～60cmの下は黒褐色の古代遺物包含層がかろうじて確認できるほど削平されていた。この層も５cmほどで、掘り下げるとこの一帯の遺構検出面である黒～暗褐色土となる。遺構はこの面で確認した（図24参照）。

### （3）検出遺構

本調査区では、古代の竪穴住居址５基と溝１条、中世の土坑（溝？）１基、近世の溝１条を検出した。４区においては遺構の切り合いが激しく、しかも旧配管などがあり、調査区も狭く、遺構の前後関係を明確につかむことはできなかった。とくに21号竪穴住居址と23号竪穴住居址、30号溝、43号土

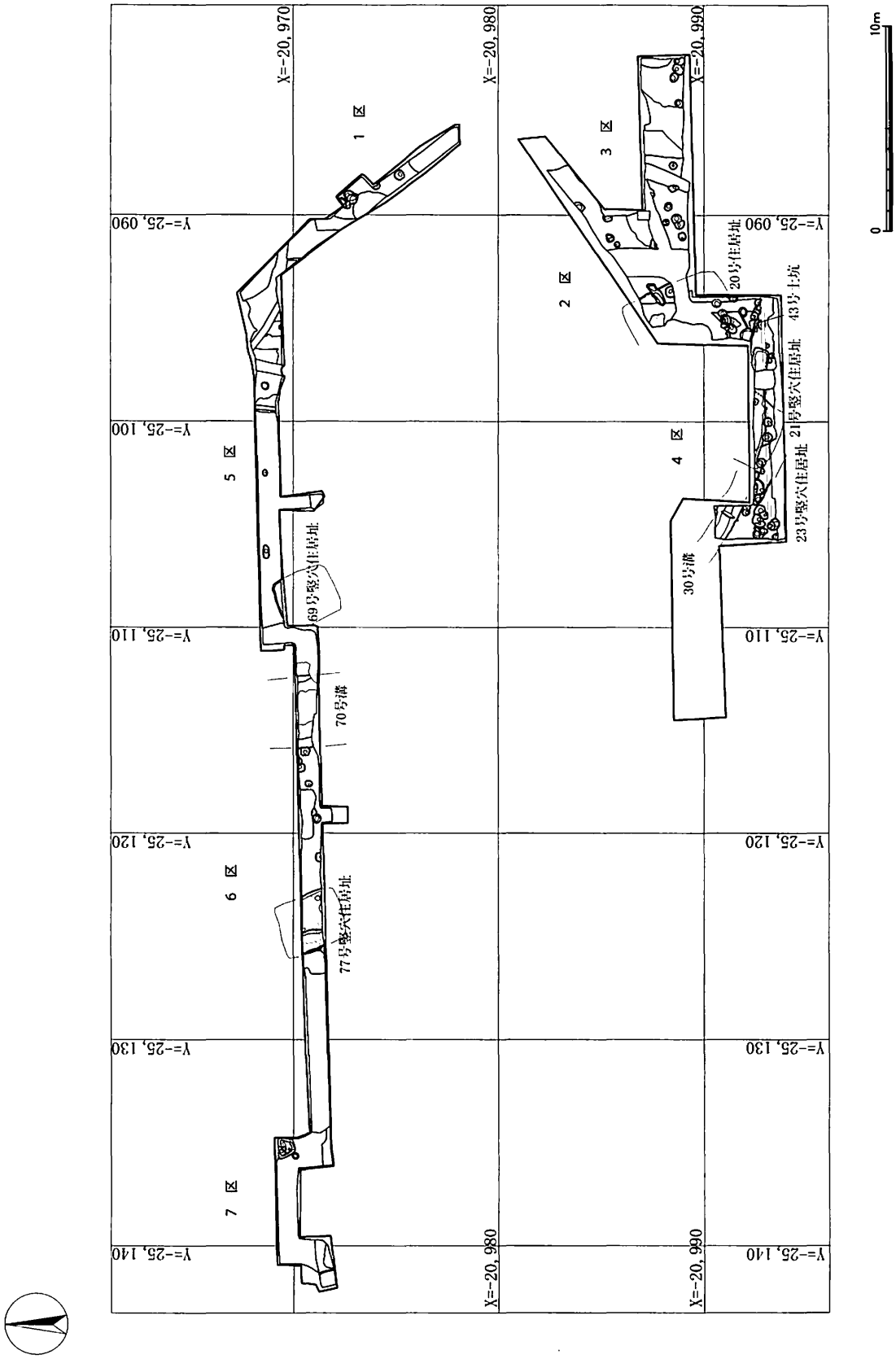



図23　0612理④調査地点遺構配置実測図（1／300）

坑の切り合い関係は明確ではない。

**＜溝＞**

**70号溝（図23・24）**

建物の北側の調査区の中央部（６区）で検出した幅３ｍ、深さ１ｍの大きな溝である。断面形は逆台形を呈する。ほぼ南北方向に走っているが、４区西側では攪乱のため検出されていない。これは9810調査地点の調査区中央部で検出された溝につながるものである。溝内部はレンズ状の層が堆積しており、自然に埋没した状況を示している。目立った遺物は出土していない。

**30号溝**

建物の南側４区の北西部で検出した溝である。幅１ｍ、深さ40cmあまりの溝であり、北西から南東方向へ延びる模様である。断面形はＵ字型である。43号土坑はその延長上にあるが、23号竪穴住居址や21号竪穴住居址との切り合いが明確でなく、43号土坑も溝である可能性もある。そうであれば中世期のものと考えられる。

**＜竪穴住居跡＞**

**20号竪穴住居址（図23）**

４区の東側および２区の西側で検出した竪穴住居跡と思われる区画である。北西方向に軸を取るものと思われるが、竈などは検出していない。推定規模４ × ４ｍほどの方形を呈する。壁の立ち上がりは検出面で５ cmほどである。図26：１の須恵器坏身の底部片が出土している。７世紀代に遡る可能性もある。

**21号竪穴住居址（図23）**

４区中央部で検出した方形を呈すると思われる竪穴住居址である。ピットなどとの遺構の切り合いが激しく、輪郭が明瞭ではないが、20号竪穴住居址よりやや西側に軸がふれる北西方向をとる。竈がなく、調査区が狭いため規模は不明であるが、推定規模は３ × ３ｍであり、20号竪穴住居址に比べてやや小さい。壁の立ち上がりは５ cmほどである。図26：２の須恵器坏の小片が出土している。

**23号竪穴住居址（図23）**

同じく４区で検出した方形をなすと思われる竪穴住居址である。21号竪穴住居址に切られ、南西辺の一部を検出しているに過ぎない。住居址の軸は21号竪穴住居址と平行しており、推定規模もほぼ同じと思われる。小片ではあるが、図26：３～９までの須恵器蓋や土師器の高台付坏、坏、小型甕、手づくね土器などが検出されている。21号竪穴住居址とともに、８世紀後半代のものと思われる。

**69号竪穴住居址（図24）**

建物の北側、５区西端で検出した方形を呈する竪穴住居址である。北東の角部分が検出された。この部分では竈は検出されていない。壁の立ち上がりは30～40cmと深い。時期を示す遺物が出土していないが、周辺の状況から考えて７世紀から８世紀代のものと思われる。

**77号竪穴住居址（図24）**

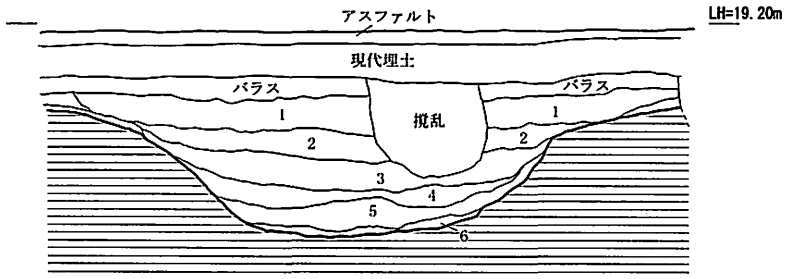
建物の北側、６区中央で検出した竪穴住居址である。東西辺の一部を検出したのみで、竈などは検出できていない。削平を受けているが、壁の立ち上がりは30～35cmと深い。明確な時期を示す遺物が出土していないが、本例も７世紀から８世紀に属する古代の竪穴住居址と考えられる。

**＜土坑＞**

**43号土坑**

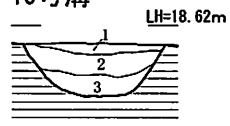
建物の南側、４区で検出したウマもしくはウシの骨を廃棄した土坑である。残存状況は悪いが、四肢骨部分を検出した。その下部10cmほどに半分ほどに割れた長楕円礫（図26：19）があり、その下

## 70号溝



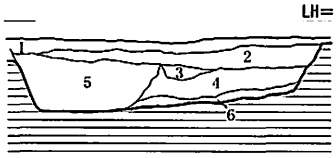

1層：赤黒色土(Hue2.5YR2/1)
2層：黒色土(Hue5YR1.7/1)
3層：暗赤灰色土(Hue2.5YR3/1)
4層：黒褐色土(Hue5YR3/1)
5層：黒褐色土(Hue7.5YR3/1)
6層：赤黒色土(Hue1.7/1)

## 19号溝



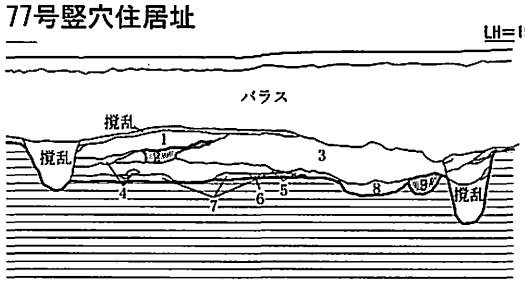

1層：赤黒色土(Hue7.5YR1.7/1)
2層：極暗赤褐色土(Hue2.5YR2/2)
3層：赤黒褐色土(Hue10R1.7/1)

## 69号竪穴住居址




1層：黒褐色土(Hue10YR2/2)
2層：黒褐色土(Hue5YR3/1)
3層：黒褐色土(Hue7.5YR3/1)
4層：黒褐色土(Hue5YR2/1)
5層：黒褐色土(Hue7.5YR3/1)
にぶい黄褐色土(Hue10YR7/4)パシス
6層：極暗赤褐色土(Hue2.5YR2/2)

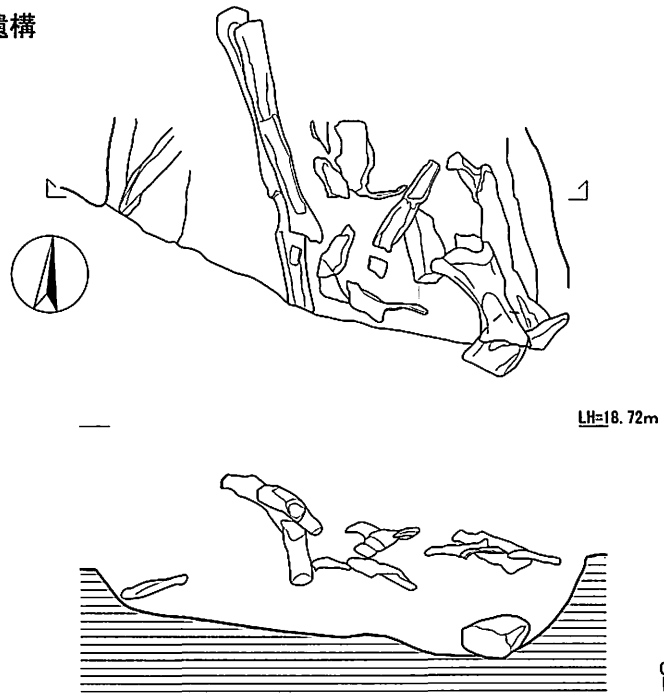
## 77号竪穴住居址




1層：赤黒色土(Hue2.5YR1.7/1)
2層：にぶい赤褐色土(Hue2.5YR5/3)焼土
3層：黒色土(Hue5YR1.7/1)
4層：赤黒色土(Hue10YR1.7/1)
5層：赤黒色土(Hue2.5YR1.7/1)
6層：黒色土(Hue7.5YR1.7/1)
7層：黒色土(Hue10YR1.7/1)
8層：赤黒色土(Hue10R1.7/1)
9層：にぶい赤褐色土(Hue2.5YR5/3)焼土

0　2m

## 43号遺構




0　50cm

図24　19・69・70号溝・77号竪穴住居址土層断面図・43号土坑実測図（1 /50・1 /10）

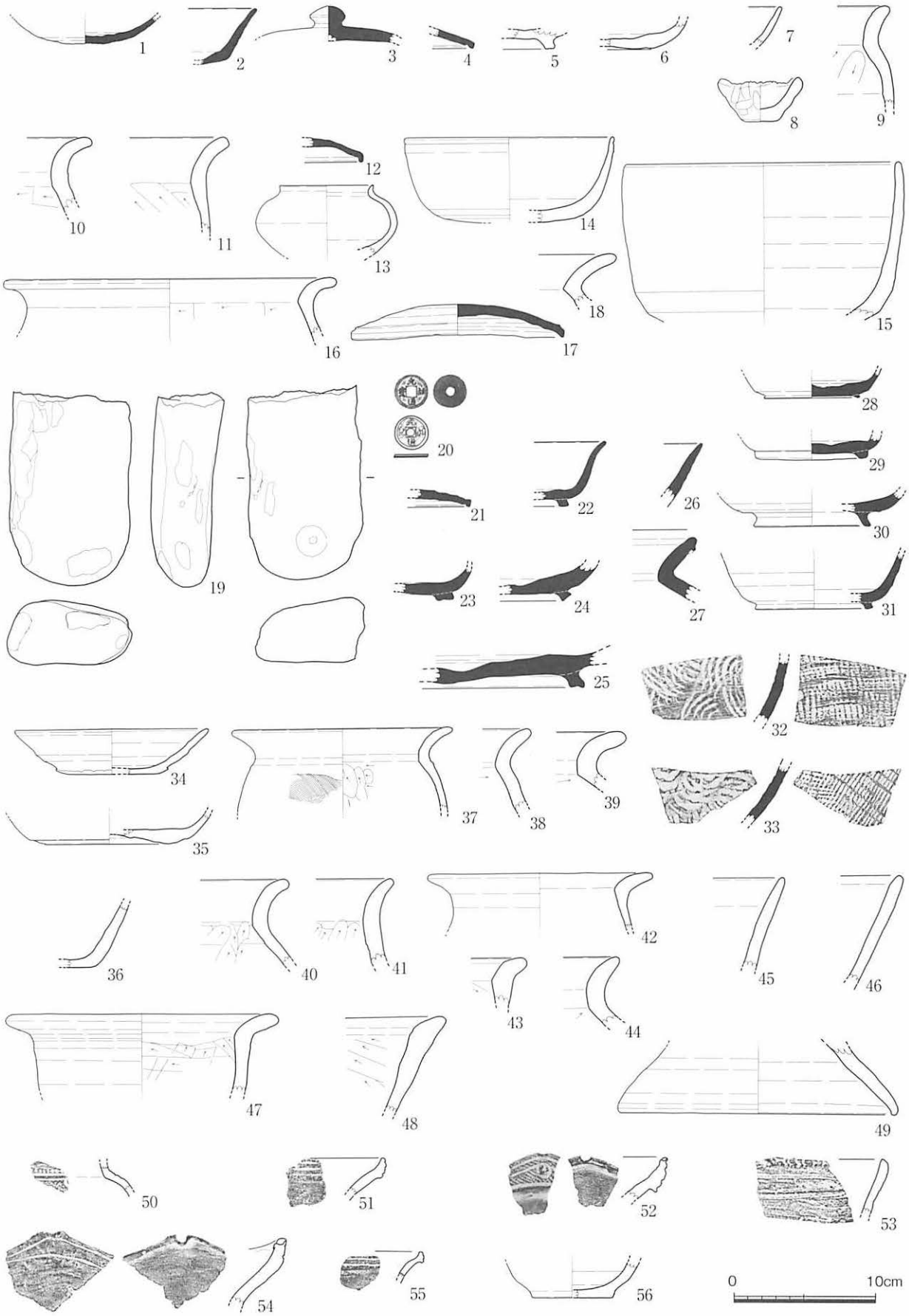



図25　0612理④調査地点出土遺物実測図（1 / 4）

部には北宋銭（元祐通寶）が錆びて付着していた。

### （4）出土遺物（図25）

上記で説明した以外の遺物はそのほとんどが8世紀代を中心とした土師器や須恵器の各種器の破片である。このほか、包含層から縄文時代後期を中心とした深鉢形土器の破片が検出されている（図25：50～56）

### （5）まとめ

本調査地点では、隣接する9810調査地点の成果を裏付けるように、古代の竪穴住居址群が検出された。それとともに、黒髪南地区の北側は地形的に高まり、著しい削平を受けていることが判明した。今は平坦に見える地形も古代においてはより凹凸の激しい地形であったことが予想され、地形に応じた遺構の配置なども今後視野に入れて研究すべきであると考える。また、中世期以降のものと思われる牛馬の処理遺構は、銅銭などの存在から、何等かの祭祀行為を想定させるものであった。

## 表７　0612理④調査地点出土遺物一覧表

| 図 | 番号 | 遺　物 | 種類(器種) | 法量（cm） | 残存量 | 特　徴 | 色　調 | 出土遺構 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 1 | 須恵器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部１／４ | 内：ナデ<br>外：削り，ナデ | 内：Hue 7.5YR 3／1<br>外：Hue 7.5YR 4／1 | 20号竪穴住居址覆土 | |
| | 2 | 須恵器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | １／５破片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 2.5Y 5／2<br>外：Hue 2.5Y 5／2 | 21号竪穴住居址床下 | |
| | 3 | 須恵器 | 蓋 | 口径<br>底径<br>器高 | １／８破片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 2.5YR 6／4<br>外：Hue 2.5YR 5／2 | 23号竪穴住居址覆土 | |
| | 4 | 須恵器 | 蓋 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 2.5YR 6／1<br>外：Hue 2.5YR 6／1 | 23号竪穴住居址覆土 | |
| | 5 | 土師器 | 碗 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 5YR 7／6<br>外：Hue 5YR 6／6 | 23号竪穴住居址覆土 | |
| | 6 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部１／４ | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 5YR 7／6<br>外：Hue 5YR 7／6 | 23号竪穴住居址覆土 | |
| | 7 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 7.5YR 8／4<br>外：Hue 7.5YR 7／6 | 23号竪穴住居址覆土 | |
| | 8 | 土師器 | 手づくね | 口径6.0<br>底径3.0<br>器高3.1 | １／４破片 | 内：指押さえ<br>外：指押さえ | 内：Hue 7.5YR 7／4<br>外：Hue 7.5YR 8／3 | 23号竪穴住居址床下 | |
| | 9 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ハケ目，ナデ | 内：Hue 2.5YR 5／6<br>外：Hue 2.5YR 6／6 | 23号竪穴住居址覆土 | |
| | 10 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ナデ | 内：Hue 5YR 6／6<br>外：Hue 5YR 6／6 | 29号ピット | |
| | 11 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ハケ目 | 内：Hue 10YR 6／4<br>外：Hue 7.5YR 7／4 | 34号ピット | |
| | 12 | 須恵器 | 蓋 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5Y 6／1<br>外：Hue N 7／0 | 40号ピット | |
| | 13 | 土師器 | 壺 | 口径6.6<br>底径<br>器高 | 底部欠損 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 7／4<br>外：Hue 7.5YR 7／4 | 40号ピット | |
| | 14 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | １／３破片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 8／3<br>外：Hue 7.5YR 8／3 | 40号ピット | 赤色化粧土 |
| | 15 | 土師器 | 鉢 | 口径19.6<br>底径<br>器高 | 口縁部１／８ | 内：ナデ<br>外：ハケ目 | 内：Hue 10YR 8／3<br>外：Hue 7.5YR 6／4 | 40号ピット | |
| | 16 | 土師器 | 甕 | 口径23.4<br>底径<br>器高 | 口縁部１／４ | 内：ヘラ削り<br>外：ハケ目 | 内：Hue 10YR 8／3<br>外：Hue 5YR 6／4 | 40号ピット | |
| | 17 | 須恵器 | 蓋 | 口径7.6<br>底径<br>器高2.4 | １／３破片 | 内：ナデ<br>外：ヘラ削り，ナデ | 内：Hue 5Y 7／1<br>外：Hue 10Y 5／1 | 42号ピット | |
| | 18 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 10YR 7／3<br>外：Hue 10YR 7／4 | 42号ピット | |
| | 19 | 礫 | | 長さ13.9<br>幅8.6<br>厚さ4.6 | | | | 43号遺構（30号溝上部） | 裏面に銅銭２枚（20）が付着 |
| | 20 | 銅銭 | 元祐通寶 | 直径2.4<br>方孔長７mm<br>厚さ２mm | | | | 43号遺構（30号溝上部） | ２枚錆着 |
| | 21 | 須恵器 | 蓋 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 5Y 6／1<br>外：Hue 5Y 6／1 | ３区包含層 | |
| | 22 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径<br>器高4.6 | 破片１／８ | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue N 5／0<br>外：Hue 2.5YR 6／2 | ２区包含層 | 外面自然釉 |
| | 23 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 2.5YR 3／3<br>外：Hue 10YR 3／1 | ２区包含層 | |
| | 24 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 5／1<br>外：Hue 7.5YR 5／1 | ３区包含層 | |
| | 25 | 須恵器 | 壺 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部片 | 内：ナデ<br>外：ヘラ削り，ナデ | 内：Hue 2.5Y 5／2<br>外：Hue 10YR 5／2 | ５区包含層 | |
| | 26 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 10YR 7／1<br>外：Hue 10YR 7／1 | ２区東側包含層 | |
| | 27 | 須恵器 | 壺 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 10YR 3／1<br>外：Hue 7.5YR 4／2 | トレンチ・攪乱 | |
| | 28 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径6.7<br>器高 | 底部２／３ | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 10YR 6／1<br>外：Hue 2.5YR 6／1 | ４区包含層 | |
| | 29 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径<br>器高 | 底部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue N 7／0<br>外：Hue N 7／0 | ３区包含層 | |
| | 30 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径8.2<br>器高 | 底部１／４ | 内：ナデ<br>外：ヘラ削り，ナデ | 内：Hue 10Y 7／1<br>外：Hue 7.5Y 7／1 | ６区包含層 | |
| | 31 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径8.4<br>器高 | 底部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ，ヘラ削り | 内：Hue 2.5Y 4／1<br>外：Hue 5Y 5／1 | ４区包含層 | |

| 図 | 番号 | 遺物 | 種類(器種) | 法量 (cm) | 残存量 | 特徴 | 色調 | 出土遺構 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 32 | 須恵器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片 | 内：青海波紋，ナデ<br>外：格子タタキ目 | 内：Hue 7.5YR 6 / 1<br>外：Hue 7.5YR 6 / 1 | トレンチ・撹乱 | |
| | 33 | 須恵器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片 | 内：青海波紋<br>外：格子タタキ目 | 内：Hue N 5 / 0<br>外：Hue 5PB 5 / 1 | 3区包含層 | |
| | 34 | 土師器 | 坏 | 口径13.6<br>底径7.8<br>器高3.2 | 1 / 4 破片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 5YR 5 / 6<br>外：Hue 7.5YR 6 / 4 | 4区西側包含層 | 赤色化粧土 |
| | 35 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径9.0<br>器高 | 底部 1 / 4 | 内：ナデ<br>外：ナデ，ヘラ削り | 内：Hue 7.5YR 8 / 4<br>外：Hue 7.5YR 8 / 4 | 2区包含層 | |
| | 36 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部 1 / 4 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 8 / 4<br>外：Hue 7.5YR 7 / 4 | 5区包含層 | |
| | 37 | 土師器 | 甕 | 口径15.6<br>底径<br>器高 | 口縁部 1 / 3 | 内：ヘラ削り<br>外：ハケ目 | 内：Hue 7.5YR 7 /40<br>外：Hue 5YR 6 / 6 | 3区包含層 | 外面スス付着 |
| | 38 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ナデ | 内：Hue 5TR 6 / 4<br>外：Hue 2.5YR 6 / 6 | 3区東側包含層 | |
| | 39 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 8 / 2<br>外：Hue 2.5YR 3 / 6 | 3区東側包含層 | |
| | 40 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ハケ目 | 内：Hue 7.5YR 5 / 3<br>外：Hue 7.5YR 6 / 4 | 2区東側包含層 | |
| | 41 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ハケ目？ | 内：Hue 5YR 7 / 4<br>外：Hue 5YR 7 / 6 | 3区包含層 | |
| | 42 | 土師器 | 甕 | 口径16.0<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り，ナデ<br>外：ハケ目，ナデ | 内：Hue 5YR 7 / 4<br>外：Hue 2.5YR 6 / 4 | 5区包含層 | |
| | 43 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ナデ | 内：Hue 2.5YR 6 / 6<br>外：Hue 5YR 5 / 4 | 7区包含層 | |
| | 44 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 6 / 4<br>外：Hue 5YR 7 / 4 | 7区包含層 | |
| | 45 | 土師器 | 鉢 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 7 / 6<br>外：Hue 7.5YR 7 / 6 | 5区包含層 | |
| | 46 | 土師器 | 鉢 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り，ナデ<br>外：ハケ目 | 内：Hue 7.5YR 7 / 4<br>外：Hue 10YR 7 / 4 | 5区包含層 | |
| | 47 | 土師器 | 甕 | 口径19.2<br>底径<br>器高 | 口縁部 1 / 4 | 内：ナデ，ヘラ削り<br>外：ナデ | 内：Hue 7.5YR 8 / 2<br>外：Hue 5YR 7 / 4 | 4区包含層 | |
| | 48 | 土師器 | 甑？ | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ヘラ削り，ナデ | 内：Hue 5YR 7 / 6<br>外：Hue 5YR 6 / 6 | 4区西側包含層 | |
| | 49 | 土師器 | 高坏 | 口径19.8<br>底径<br>器高 | 脚部 1 / 6 | 内：ナデ<br>外：ハケ目，ナデ | 内：Hue 5YR 6 / 6<br>外：Hue 2.5YR 6 / 6 | 5区包含層 | |
| | 50 | 縄文土器 | 深鉢形 | 口径<br>底径<br>器高 | 肩部片 | 内：磨き，ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 5YR 4 / 4<br>外：Hue 5YR 5 / 6 | 7区包含層 | 後期中頃 |
| | 51 | 縄文土器 | 深鉢形 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 5YR 5 / 6<br>外：Hue 5YR 5 / 6 | 3区包含層 | 後期中頃 |
| | 52 | 縄文土器 | 深鉢形 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：磨き<br>外：磨き | 内：Hue 7.5YR 4 / 3<br>外：Hue 7.5YR 6 / 4 | 21号竪穴住居址床下 | 後期中頃 |
| | 53 | 縄文土器 | 深鉢形 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：磨き，ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue 10YR 5 / 3<br>外：Hue 7.5YR 6 / 3 | 7区包含層 | 後期後半，口唇部刻目 |
| | 54 | 縄文土器 | 深鉢形 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ<br>外：ナデ | 内：Hue N 5 / 0<br>外：Hue 5PB 5 / 1 | 5区包含層 | 後期後半 |
| | 55 | 縄文土器 | 深鉢形 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ナデ，磨き<br>外：ナデ，磨き | 内：Hue 7.5YR 6 / 6<br>外：Hue 7.5YR 7 / 6 | 3区包含層 | 後期後半 |
| | 56 | 縄文土器 | 鉢形 | 口径<br>底径5.8<br>器高 | 底部 1 / 2 | 内：磨き，ナデ<br>外：磨き，ナデ | 内：Hue 7.5YR 3 / 2<br>外：Hue 7.5YR 4 / 4 | 5区包含層 | 後期 |

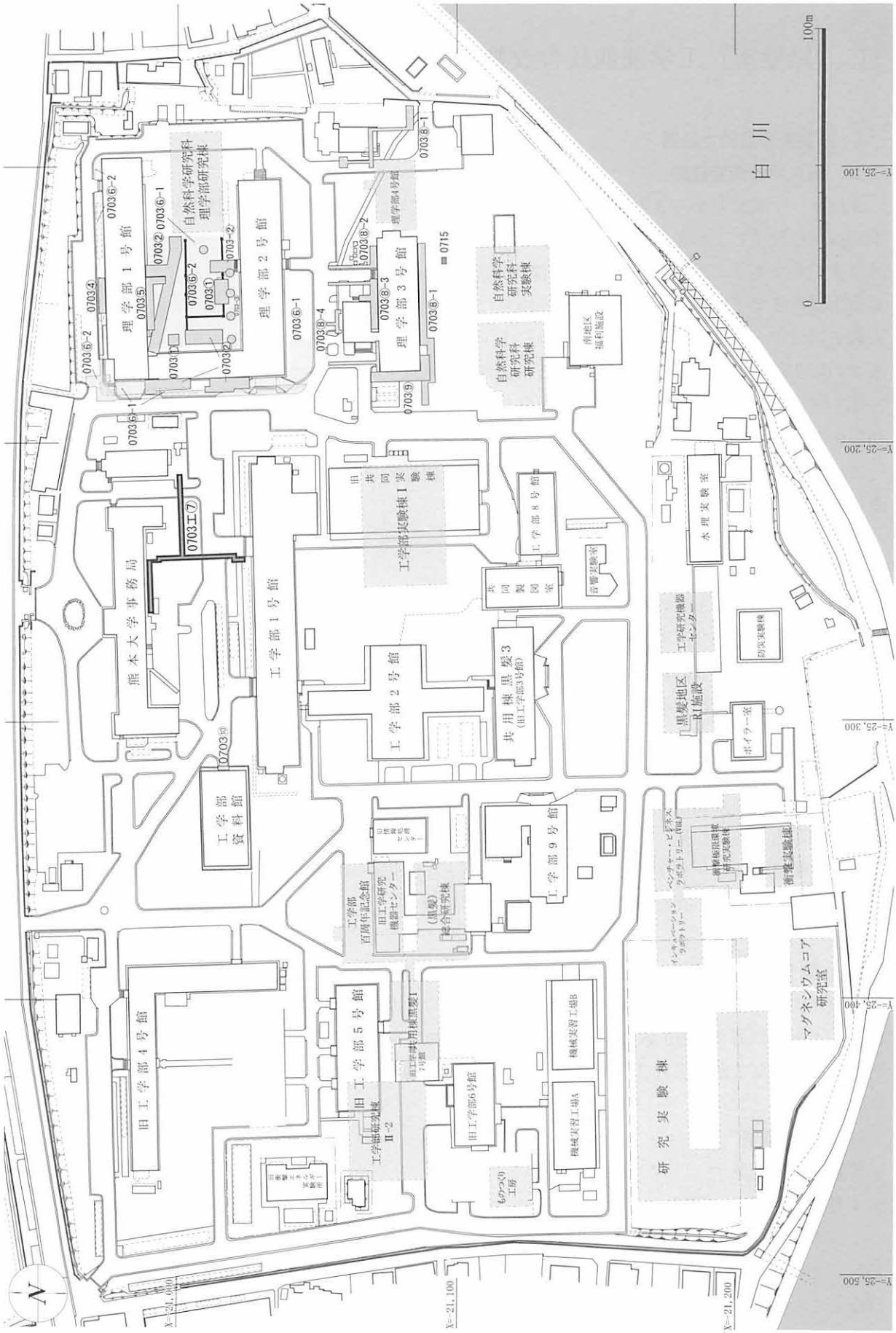



図26　2007年度の調査地点配置図（1 /2000）

## 11.（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査（0703工⑦調査地点）

### （1）調査の目的と経過

#### a．調査地と調査経緯

本件は、平成17年から３年間にわたり実施された工学部他校舎改修施設整備事業の一つであり、事務局南側浄化槽と工学部１号館北側、埋蔵文化財調査室南西側の範囲に配管と枡を設置する工事に伴う立会調査である。大部分が幅70cm、深さ地表下70cmほどの掘削工事であった。このため、基本的に掘削深度まで下げて遺構が妨げになる場合にのみ発掘調査に切り替えて、調査を行った。

調査区は１－３区の３つに分けており、１・２区は工学部１号館玄関前から事務局南側の緑地部分までの舗装部分であり、遺構を確認した状態で、それ以上の掘削がないため、ピットと竪穴住居址の一部を確認したが、現状で保存し、埋め戻している。３区の北側の事務局側と埋蔵文化財調査室の南西側の部分も掘削が深く及ばないため、遺構の掘削は行っていない。

３区の事務局南側緑地の南東側で竈をもつ竪穴住居址のコーナー部分を検出した。そのまま発掘調査に切替え、遺構の調査を行った。

#### b．調査の経過

2007年６月25日　１区の掘削および遺構の確認を行った。

2007年６月26日　２区の掘削および遺構の確認を行った。

2007年６月27日　３区において竪穴住居址を検出、そのまま発掘調査に切り替える。遺構の実測、写真撮影を終え、遺物を取り上げる。調査終了。

#### c．調査の組織

調　査　員：小畑弘己

事 務 担 当：前田知聖

整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗

### （2）調査区の基本層序

緊急の調査のため、土層の十分な記録を取っていないが、周辺での調査状況と同じである。遺構の検出面上面には厚さ30cmあまりの黒褐色の古代遺物包含層が残存している。この黒色土の上面は場所によって異なるが、竪穴住居址を検出した３区（緑地）の場合、地表より60cmほどであった。

### （3）検出遺構

**＜竪穴住居址＞**

**１号竪穴住居址（図28）**

１区のほぼ真ん中に北側の緑地の縁石を間が具部分に南西－北東方向をとる黒色の部分と床面と思われる硬化した部分が観察できた。しかし北側は攪乱のため破壊されている。掘削深度がこれ以上及ばないため、そのまま埋め戻している。

**２号竪穴住居址（図29・30）**

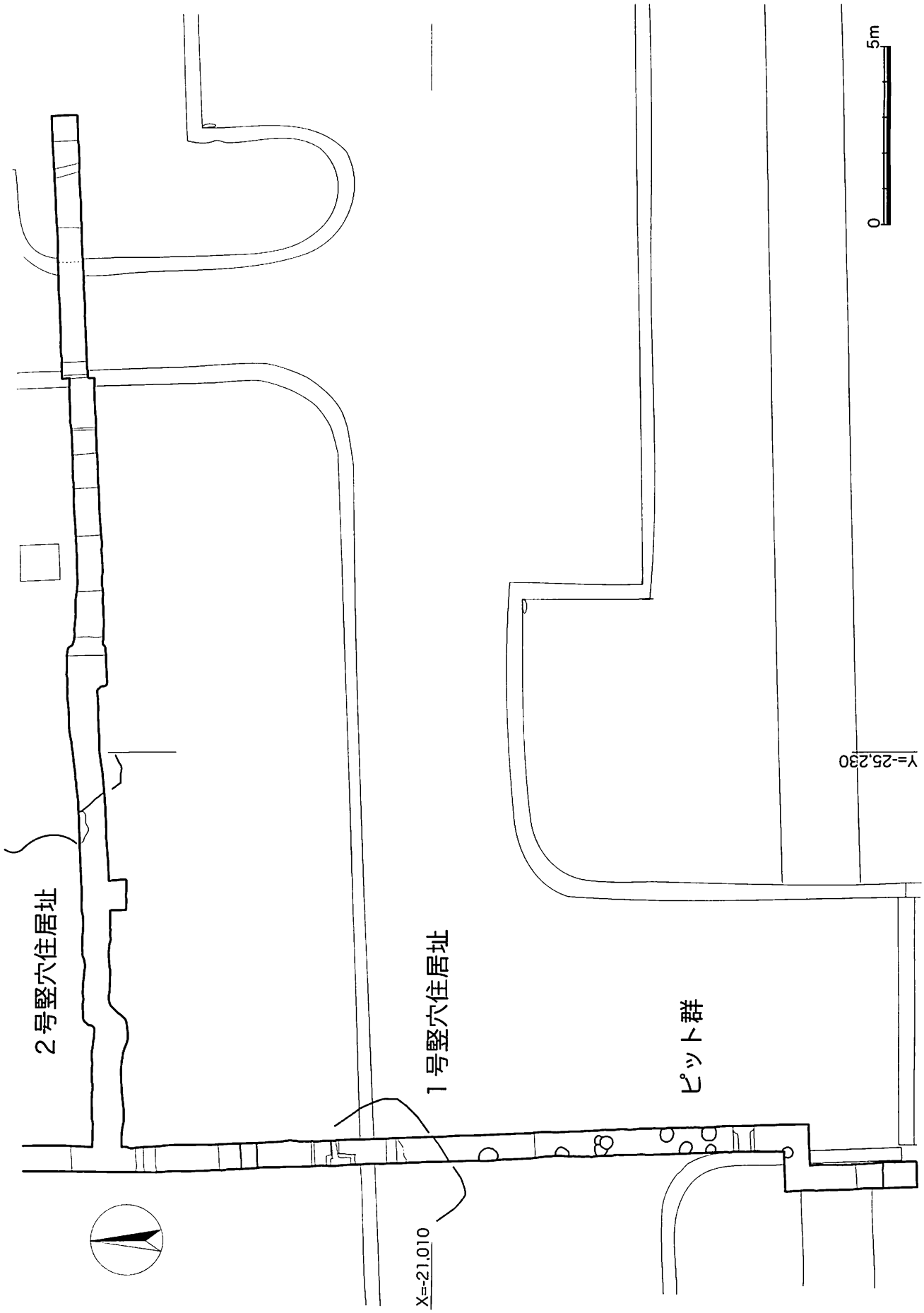



図27　0703工⑦調査地点遺構配置実測図１（１ /150）

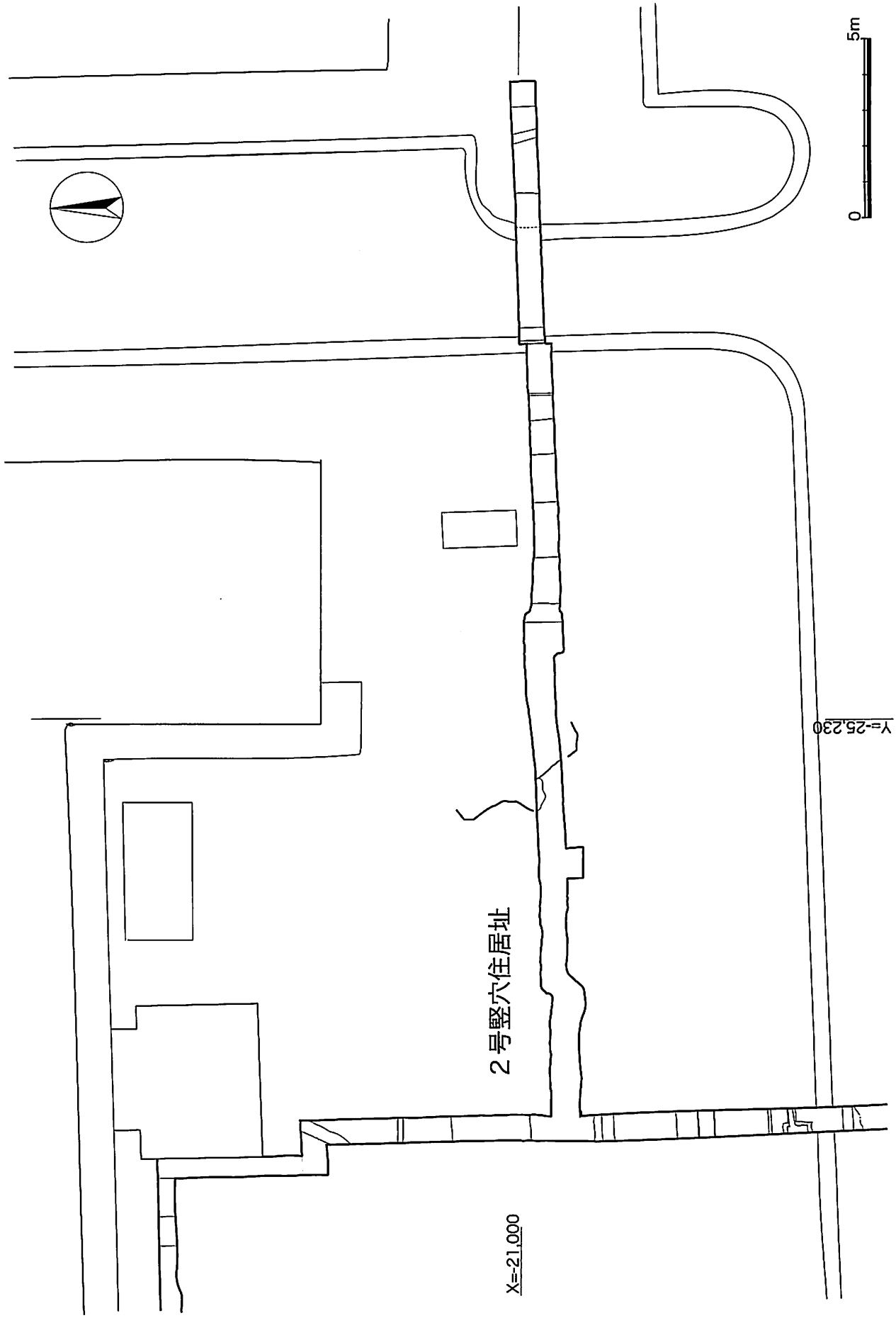



図28　0703工⑦調査地点遺構配置実測図２（１ /150）

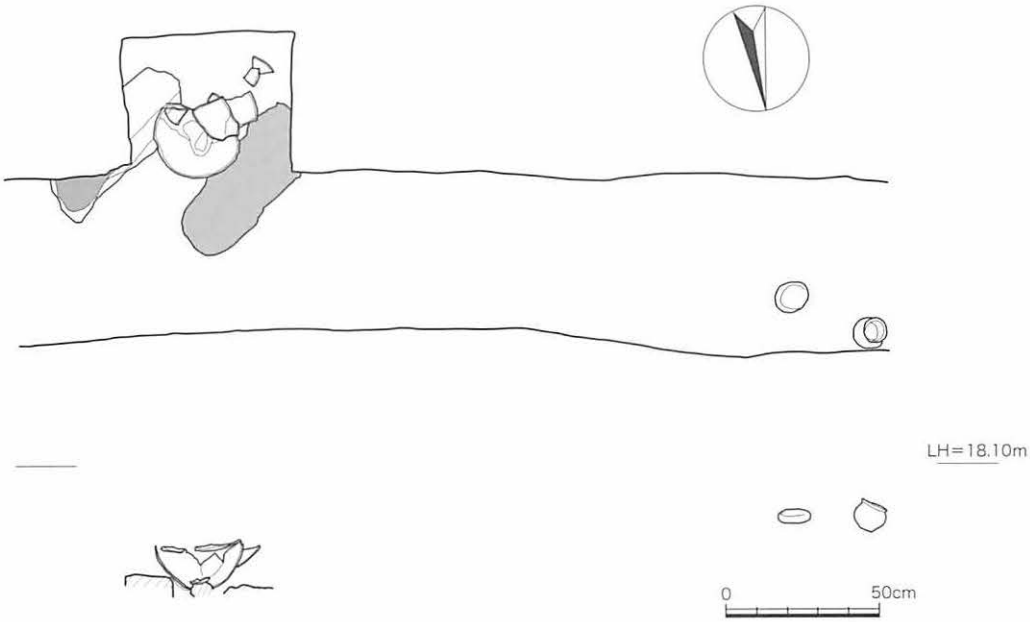



図29　2号竪穴住居址および周辺の遺物出土状況図

3区の中央部で確認した。竪穴住居址自体の輪郭などは把握できていないが、地表から90cmあまりの深さで土師器の甕形土器を検出し、その両側に長方形の灰褐色の粘土帯二列を確認した。土師器甕は上半部が割れており、その下部には砂岩が敷かれていた。この甕形土器（図30：1）は復元すると、底部がなく、支脚として利用されていた可能性もある。竈は北東－南西方向に軸をとり、南西側が深いことから竪穴住居址は南側へ展開し、この竈は北壁に設置されていたものと思われる。移動式竈の小片（図30：2）が1点検出されている。時期は明確ではないが、8世紀代のものと思われる。

また、この竈遺構の西側1.5mほどのところに、扁平な礫1個と関係の須恵器小型壺（図30：3）1個が竈の甕形土器より20cmほど高い位置から検出されている。その他の竪穴住居址や遺構に含まれる可能性が高いが、これらは検出できなかった。

**＜ピット＞（図28）**

1区の南側半分を中心に直径20～30cmの黒褐色の覆土をもつ円形のピット10個ほどを確認した。これ以上の掘削がないため、位置を記録し、そのまま埋め戻している。

### （4）出土遺物（図30）

上記で説明した以外の遺物は各区の包含層から検出され、そのほとんどが8世紀代を中心とした土師器や須恵器の各種器の破片である（図30：3－7）。このほか、包含層から縄文時代晩期前半を中心とした深鉢形土器の破片が2点検出されている（図30：8・9）

### （5）まとめ

本調査地点では、これまで周辺で行われた調査が立会調査を中心とする規模の小さなものであり、遺構の確認も断片的で、情報を総合化するに至っていない。本地点も幅70cmほどの狭い調査区のため、遺構を明確に把握することが困難であった。しかし、この周辺においても古代を中心とした遺構群は確実に存在しており、今後とも黒髪南地区における古代遺構の分布と構造を把握するためにも、このような小規模な調査であっても情報を積み重ねていかねばならないと考える。

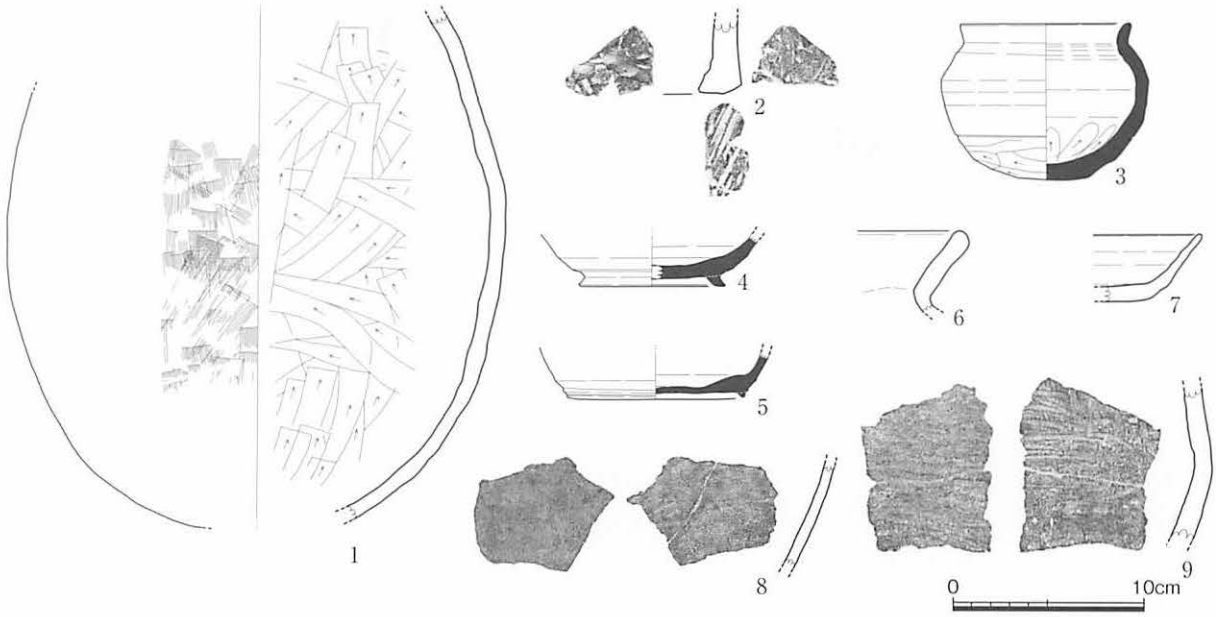



図30　0703工⑦調査地点出土遺物実測図（1 / 4）

表 8　0703工⑦調査地点出土遺物一覧表

| 図 | 番号 | | 種類(器種) | 法量 (cm) | 残存量 | 特　徴 | 色　調 | 出土遺構 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | 1 | 土師器 | 甕 | 胴部最大径25.9 | 胴部片 | 内：ヘラ削り<br>外：ハケ目，ナデ | 内：Hue 7.5YR 7 / 6<br>外：Hue 7.5YR 7 / 4 | 1号竪穴住居址 | 外面に黒斑，スス付着 |
| | 2 | 土師器 | 移動式竈 | 口径<br>底径<br>器高 | 破片 | 内：ナデ<br>外：ハケ目 | 内：Hue 5Y 8 / 4<br>外：Hue 7.5Y 7 / 3 | 1号竪穴住居址 | 底部に太い線状痕 |
| | 3 | 土師器 | 小型壺 | 口径9.0<br>胴部最大径10.9<br>器高8.3 | 完形 | 内：回転ナデ，底部指ナデ<br>外：回転ナデ，底部ヘラ削り | 内：Hue 2.5Y 6 / 3<br>外：Hue 2.5Y 7 / 3 | 2号遺構 | |
| | 4 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径7.8<br>器高 | 底部1 / 2 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ，ヘラ削り | 内：Hue 5Y 5 / 1<br>外：Hue 5Y 6 / 2 | 3区包含層 | 外面に自然釉 |
| | 5 | 須恵器 | 碗 | 口径<br>底径9.4<br>器高 | 底部1 / 2 | 内：回転ナデ<br>外：回転ナデ，ヘラ削り | 内：Hue 2.5Y 7 / 2<br>外：Hue 2.5Y 7 / 3 | 3区包含層 | 外面に自然釉 |
| | 6 | 土師器 | 甕 | 口径<br>底径<br>器高 | 口縁部片 | 内：ヘラ削り，口縁部ナデ<br>外：回転ナデ | 内：Hue 10YR 8 / 3<br>外：Hue 10YR 7 / 4 | 3区包含層 | |
| | 7 | 土師器 | 坏 | 口径<br>底径<br>器高3.5 | 破片1 / 4 | 内：ナデ<br>外：ナデ，底部ヘラ削り | 内：Hue 7.5YR 6 / 4<br>外：Hue 7.5YR 6 / 4 | 1区包含層 | |
| | 8 | 縄文土器 | 深鉢 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片 | 内：磨き<br>外：磨き | 内：Hue 10YR 6 / 3<br>外：Hue 10YR 4 / 1 | 1区包含層 | 晩期前半 |
| | 9 | 縄文土器 | 深鉢 | 口径<br>底径<br>器高 | 胴部片 | 内：ナデ<br>外：磨き | 内：Hue 10YR 8 / 2<br>外：Hue 10YR 7 / 3 | 2区包含層 | 晩期前半 |

# 写 真 図 版

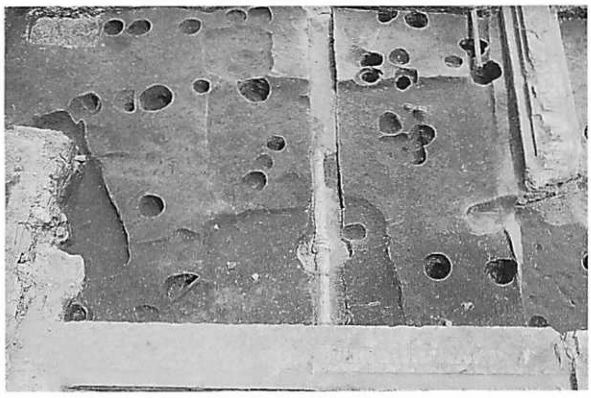


写真１　調査区中央部（西より）

写真２　調査区全景（南より）

写真３　調査区全景（北東より）

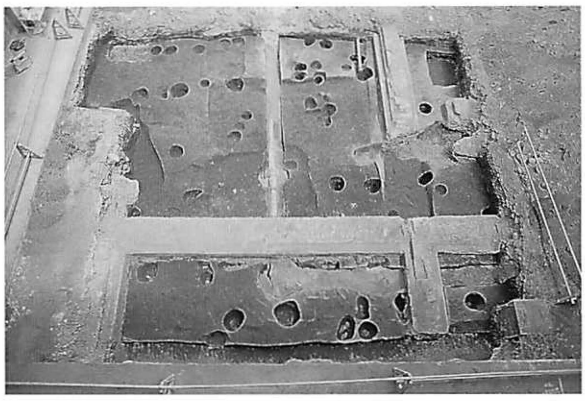


写真４　調査区全景（西より）

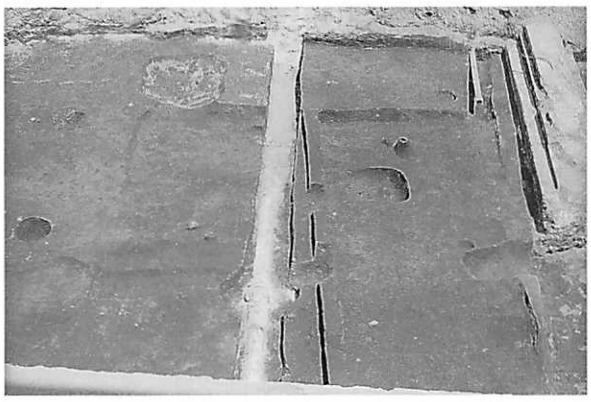


写真５　１・２号竪穴住居址（西より）

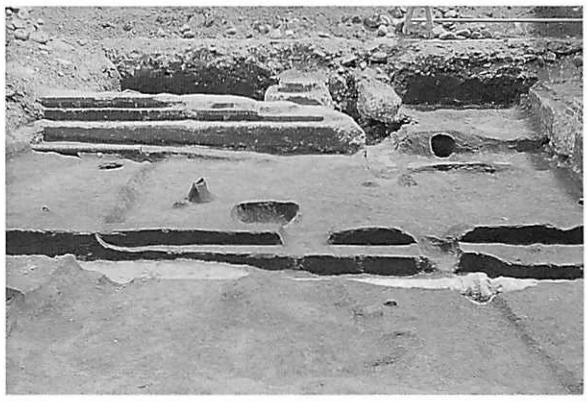


写真６　１・２号竪穴住居址（北より）

写真７　２号竪穴住居址（南より）

写真８　23号竪穴住居址（北東より）

## 図版２　0513工①調査地点

写真９　１号竪穴住居址竈（南より）

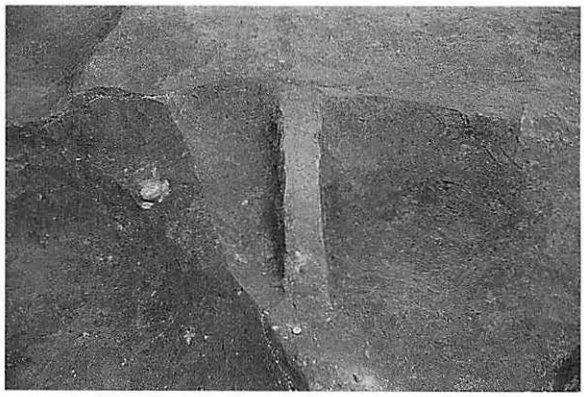


写真10　１号竪穴住居址竈堀上げ状況（西より）

写真11　２号竪穴住居址竈（南より）

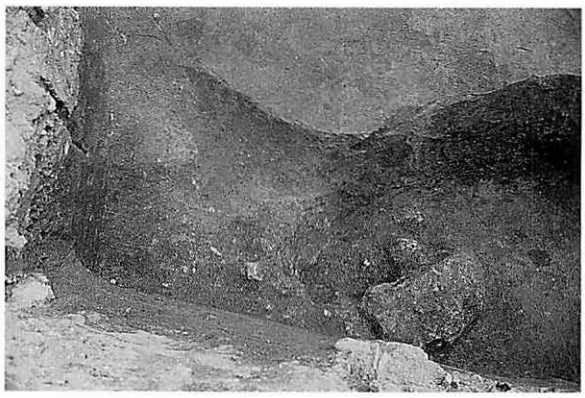
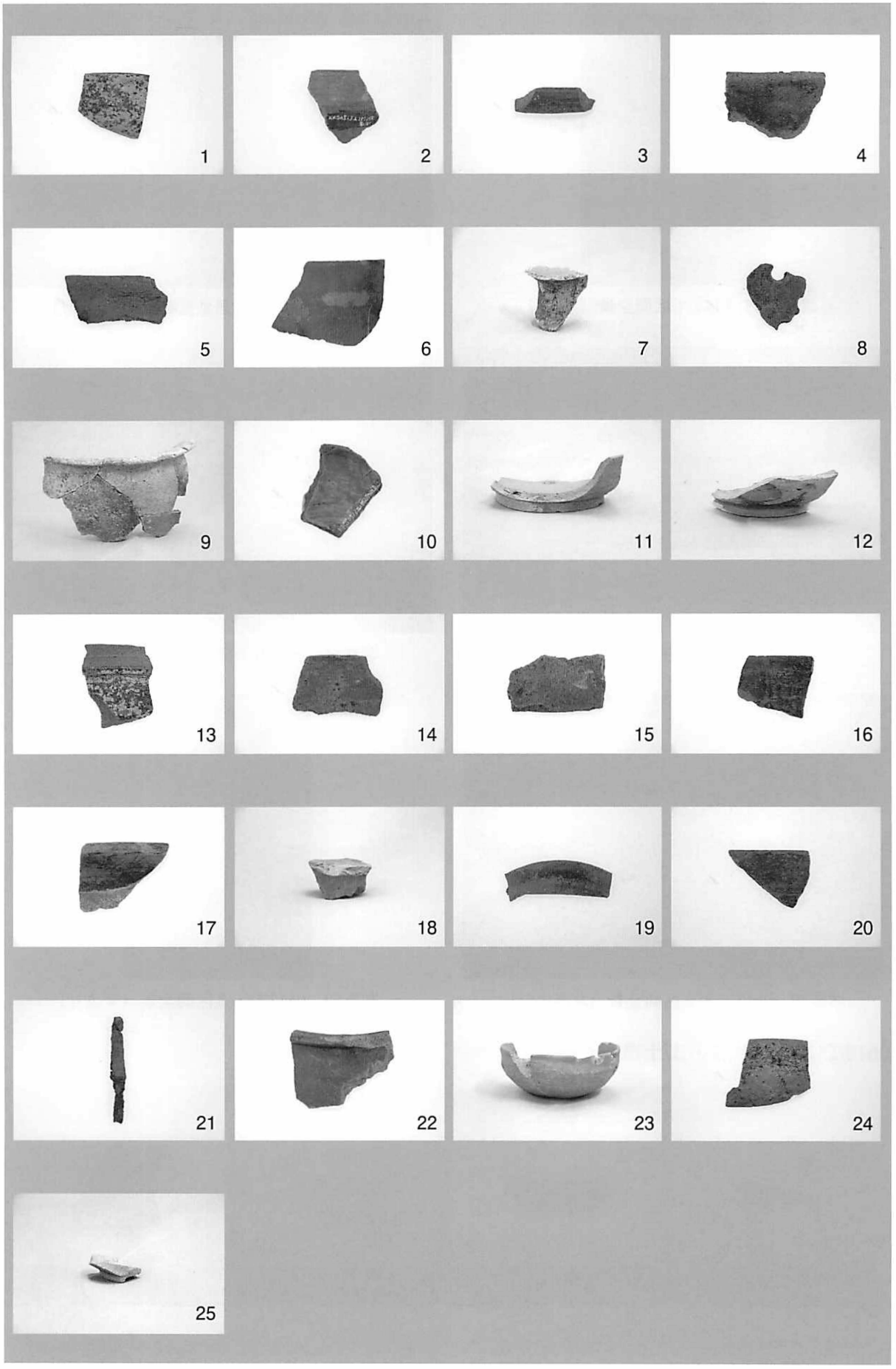


写真12　23号竪穴住居址竈部分（北より）

写真13　発掘調査風景（西より）

図版 3　0513工①調査地点出土遺物



## 図版４　0513工③調査地点・出土遺物

写真14　0513工③１区間全景（東より）

写真15　２号竪穴住居址掘削状況（北より）

写真16　３・４号溝完掘状況（南より）

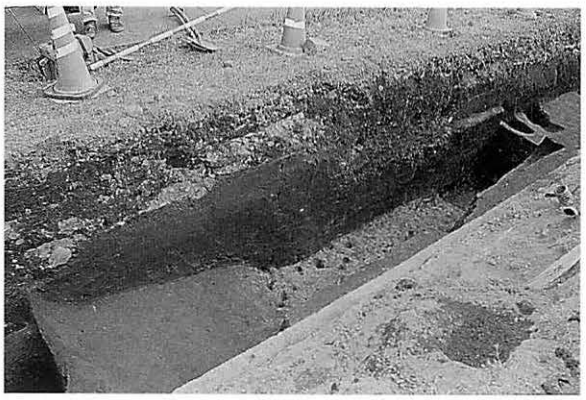


写真17　３・５号溝土層断面（北より）

写真18　0513工③２区間全景（北西より）

写真19　0513工③３区間全景（東より）

## 0513工③調査地点・出土遺物

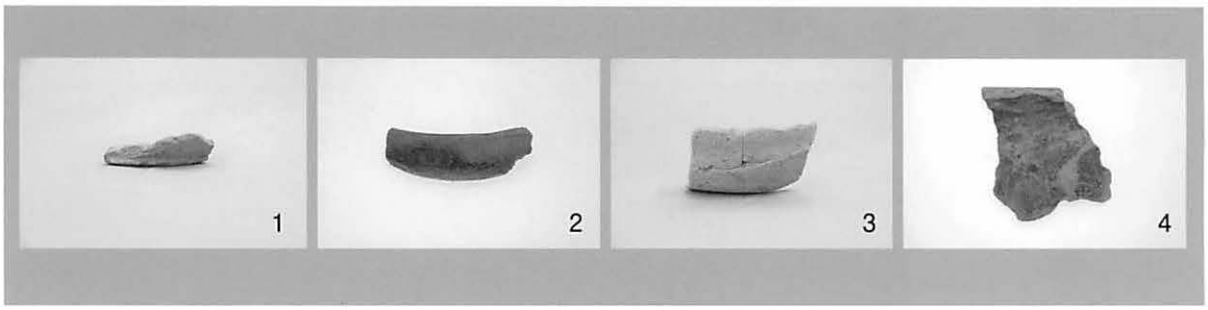


写真20　0513工⑱作業風景（北より）

写真21　外灯基礎②地点掘削状況（西より）

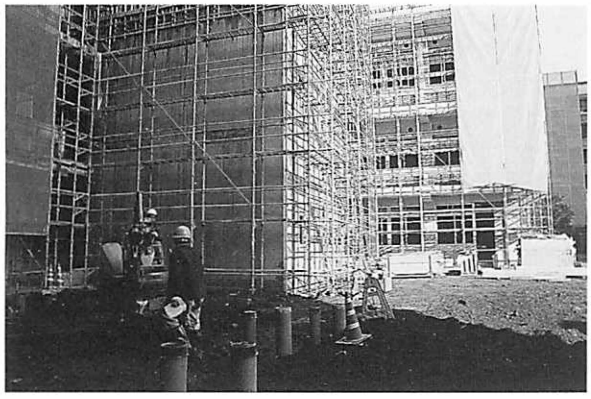


写真22　0513工⑲作業風景（南より）

写真23　外灯基礎掘削状況（南より）

## 図版 6　0513理①・⑤調査地点

写真24　掘削前風景（北より）

写真25　調査区南部包含層検出状況（南より）

写真26　一次掘削風景（南より）

写真27　調査区北端小屋撤去完了状況
（0513理⑤調査地点・南より）

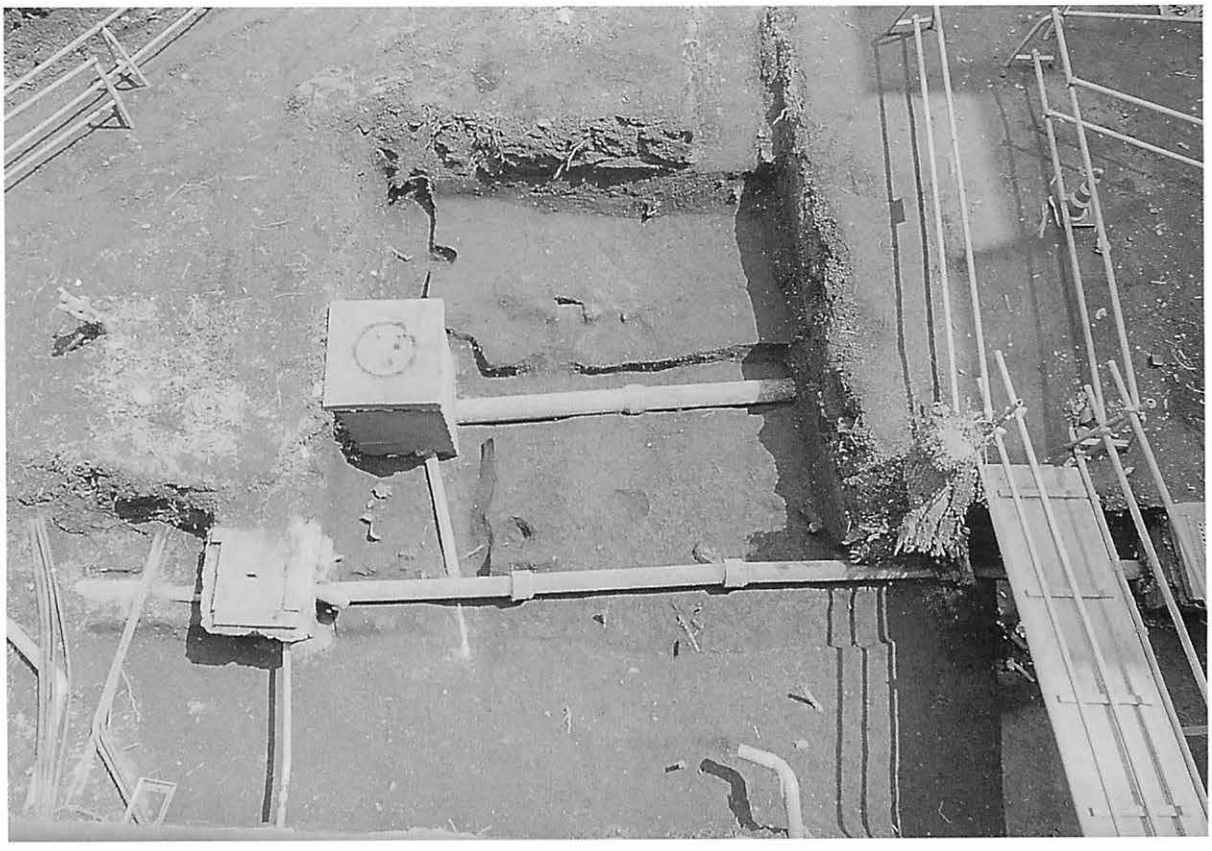


写真28　0513理①調査地点遺構検出状況（東より）

写真29　１号竪穴住居址検出状況と調査区土層（北より）

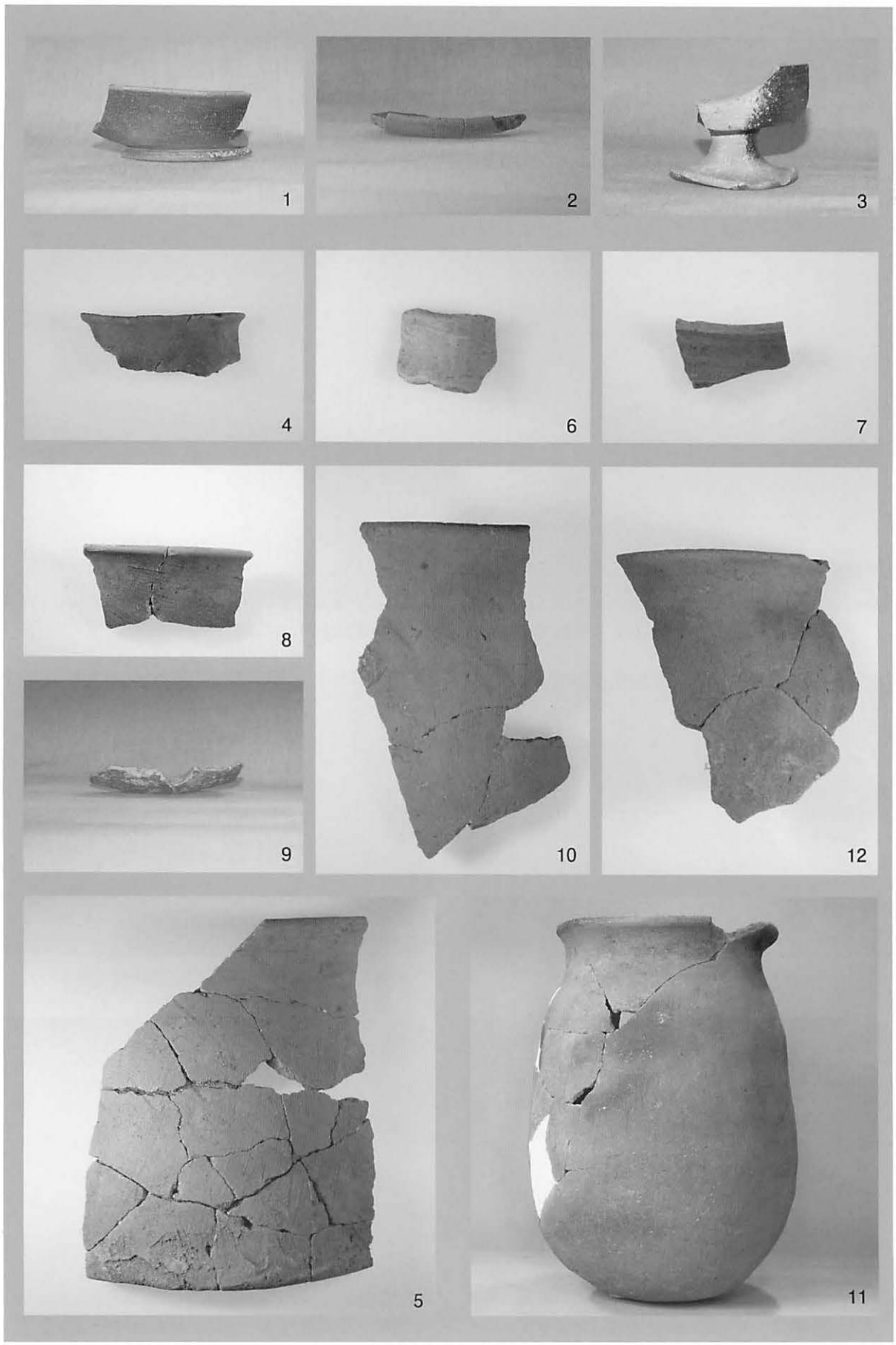
写真30　１号竪穴住居址（南より）

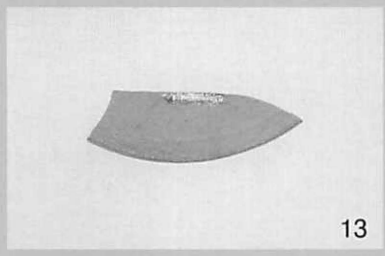
写真31　１号竪穴住居址竈完掘状況（南より）

写真32　３号竪穴住居址竈（南より）

写真33　３号竪穴住居址竈土器出土状況（南より）

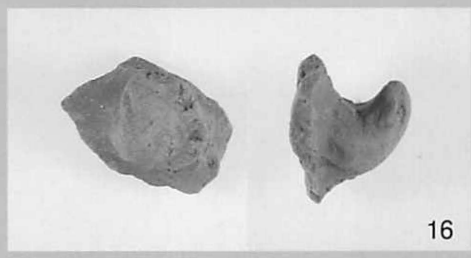
図版 8　0513理①調査地点出土遺物 1

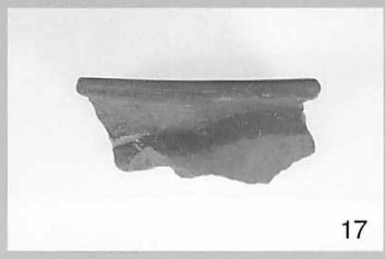


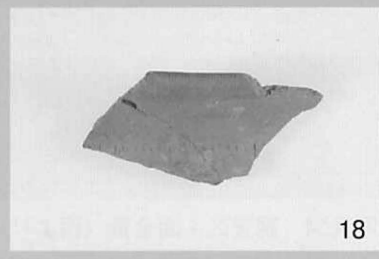

13

14

15


16


17


18

19

20

## 図版10　0513理⑥調査地点

写真34　調査区１面全景（西より）

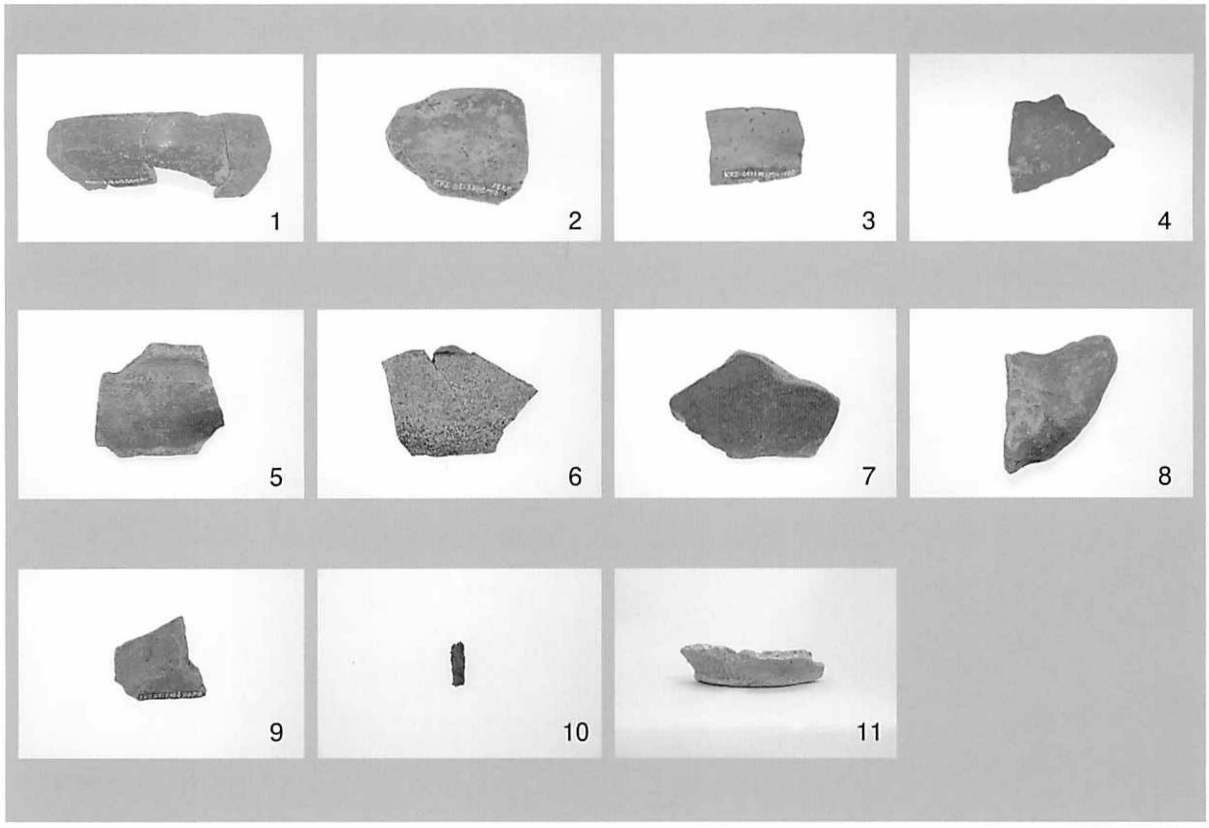
写真35　15・16号竪穴住居址掘削状況（北より）

写真36　調査区２面21号溝完掘状況（北より）

写真37　調査区南壁土層断面（北より）

写真38　調査区北壁土層断面（東より）

図版11　0513理⑥調査地点出土遺物



## 図版12　0513理⑩調査地点

写真39　調査区南半全景（北より）

写真40　Ⅰ区西土層断面（北東より）

写真41　1号竪穴住居址竈検出状況（西より）

写真42　1号竪穴住居址竈土層断面（西より）

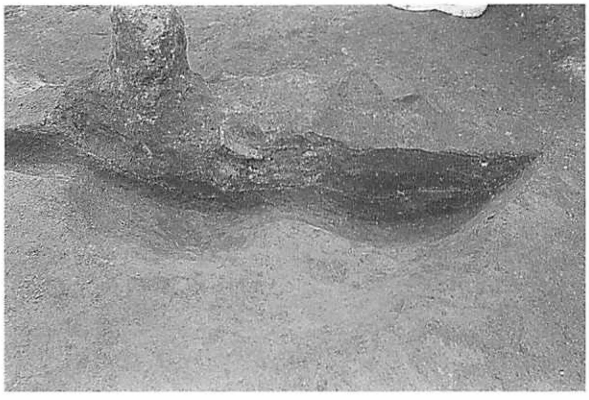


写真43　6号竪穴住居址焼土断面（北より）

写真44　6号竪穴住居址竈付近遺物出土状況（南より）

写真45　6号竪穴住居址完掘状況（南より）

写真46　10号竪穴住居址床検出状況（北より）

写真47　17号竪穴住居址完掘状況（北より）

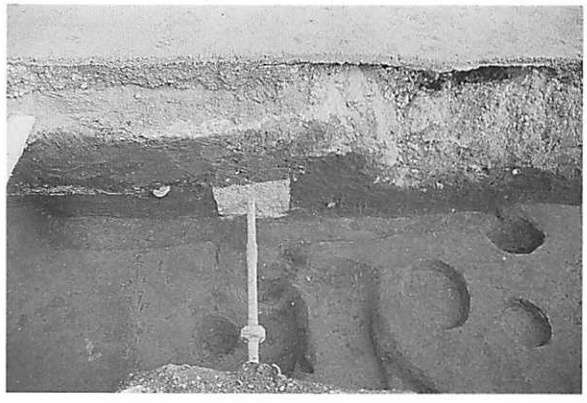


写真48　30号竪穴住居址完掘状況（西より）

## 図版14　0513理⑩調査地点

写真49　2号溝完掘状況（南より）

写真50　2号溝土層断面（北東より）

写真51　23号溝完掘状況（南より）

写真52　Ⅰ区南部完掘状況（西より）

写真53　Ⅱ区完掘状況（北より）

写真54　Ⅲ区全景（東より）

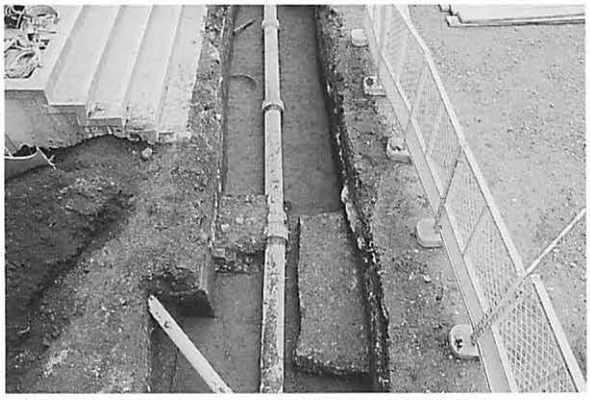
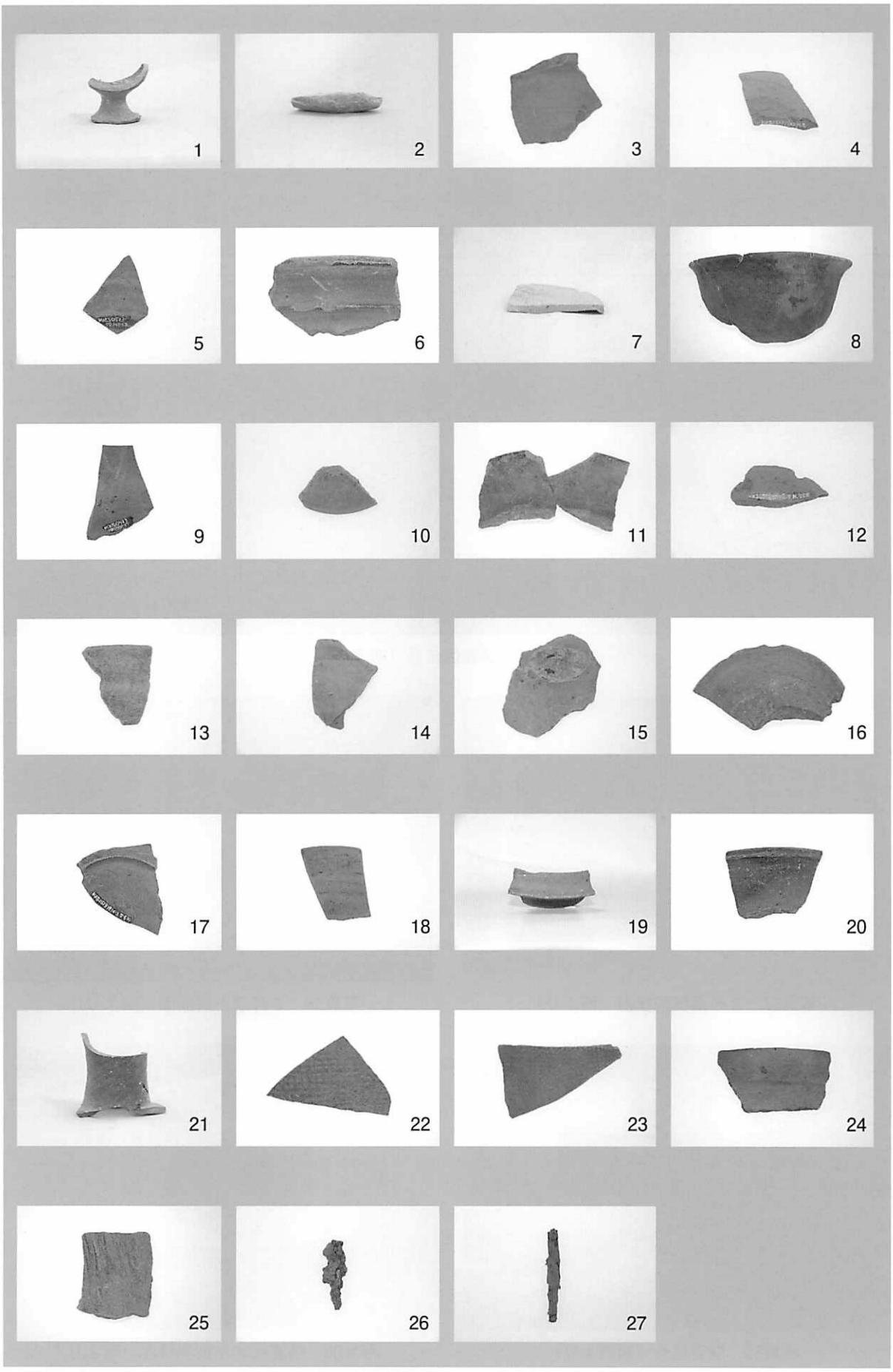


写真55　Ⅳ区完掘状況（東より）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27

## 図版16　0612理②調査地点

写真56　調査区全景（南より）

写真57　6号溝掘削状況（西より）

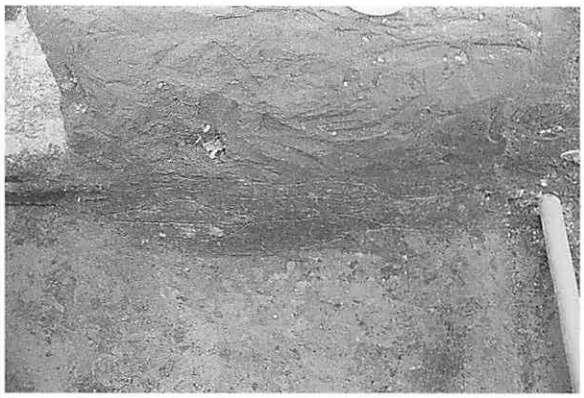


写真58　6号溝土層断面（西より）

写真59　調査風景（南西より）

写真60　調査区北半掘削状況（南より）

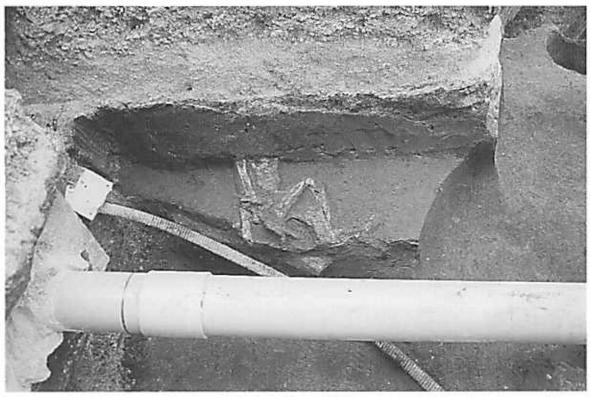


写真61　43号遺構骨出土状況（南より）

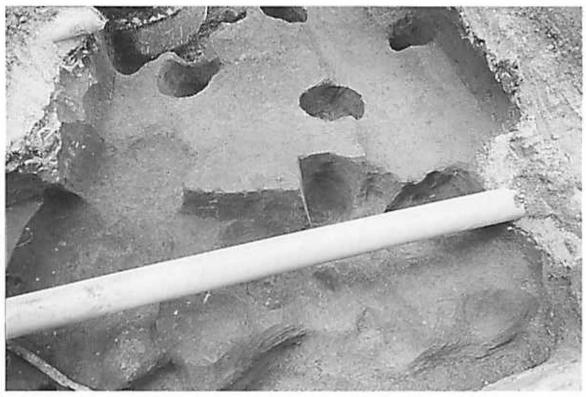


写真62　30号溝（南より）

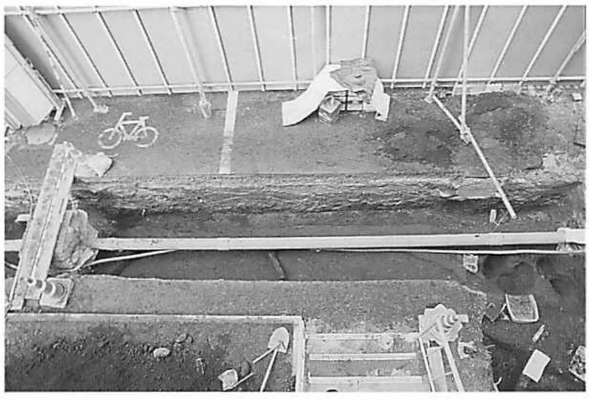


写真63　21号竪穴住居址（北より）

写真64　24号竪穴住居址（東より）

写真65　20号竪穴住居址（南より）

写真66　1・2区全景（西より）

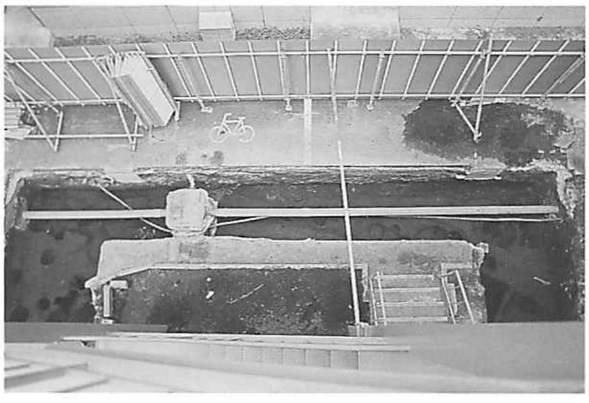


写真67　4区全景（北より）

写真68　4区西部全景（東より）

## 図版18　0612理④調査地点

写真69　4区東隅全景（北西より）

写真70　43号土坑掘り下げ（南より）

写真71　43号土坑礫裏に付着した銅銭

写真72　3区全景（南東より）

写真73　5区全景（西より）

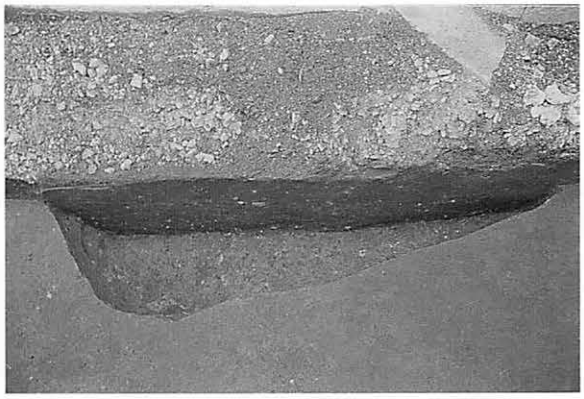


写真74　69号竪穴住居址（北より）

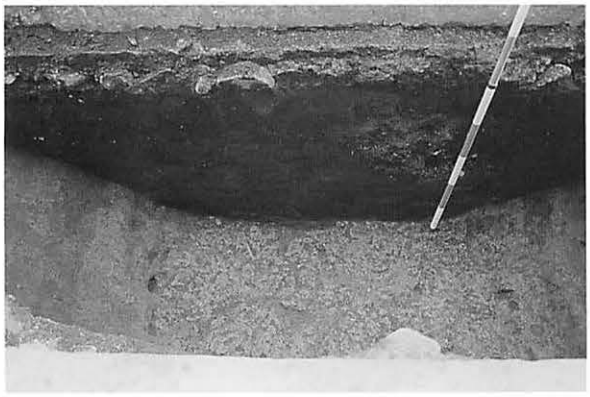
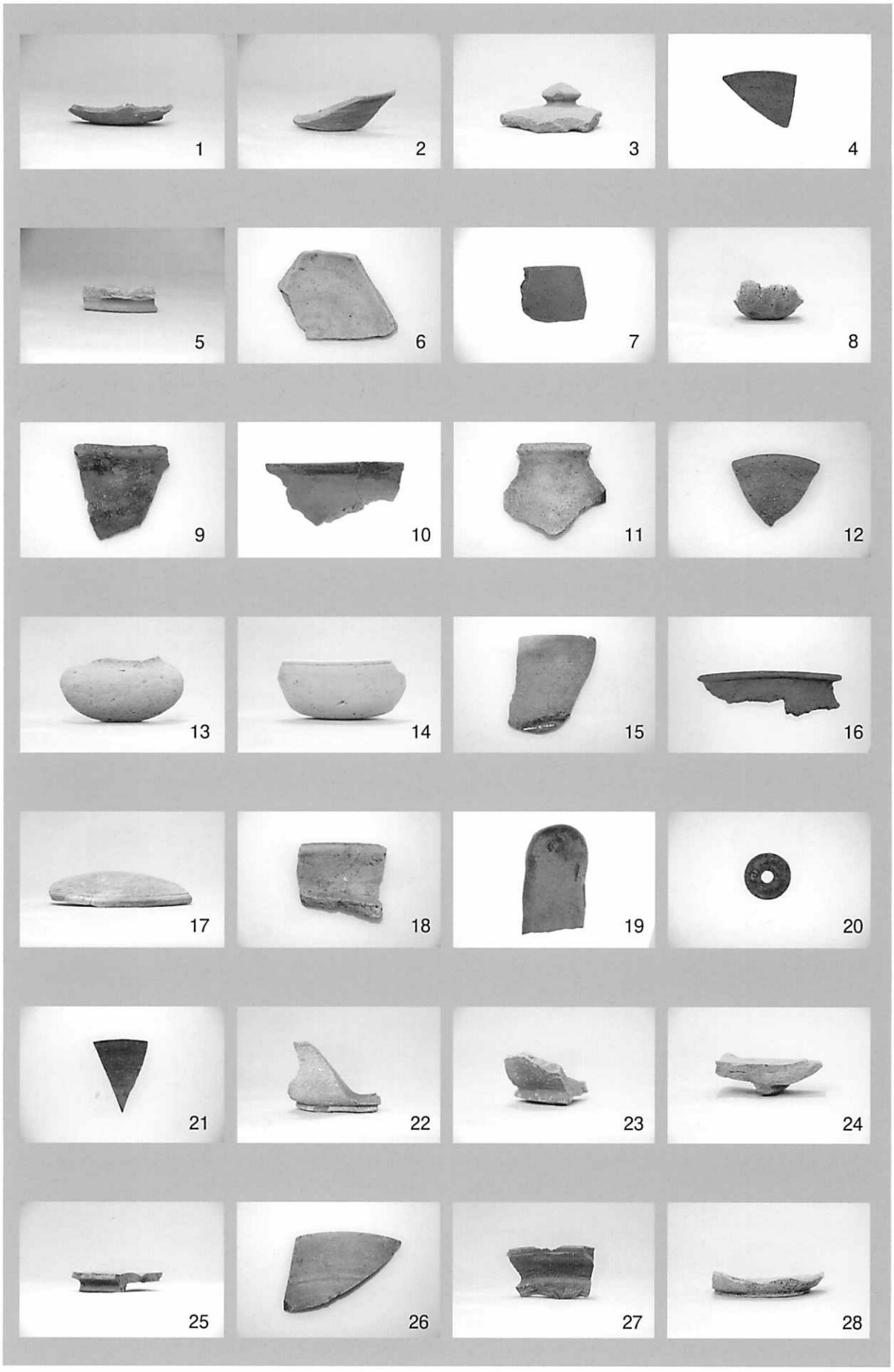


写真75　70号溝（北より）

写真76　77号竪穴住居址（東より）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28

図版20　0612理④調査地点出土遺物２

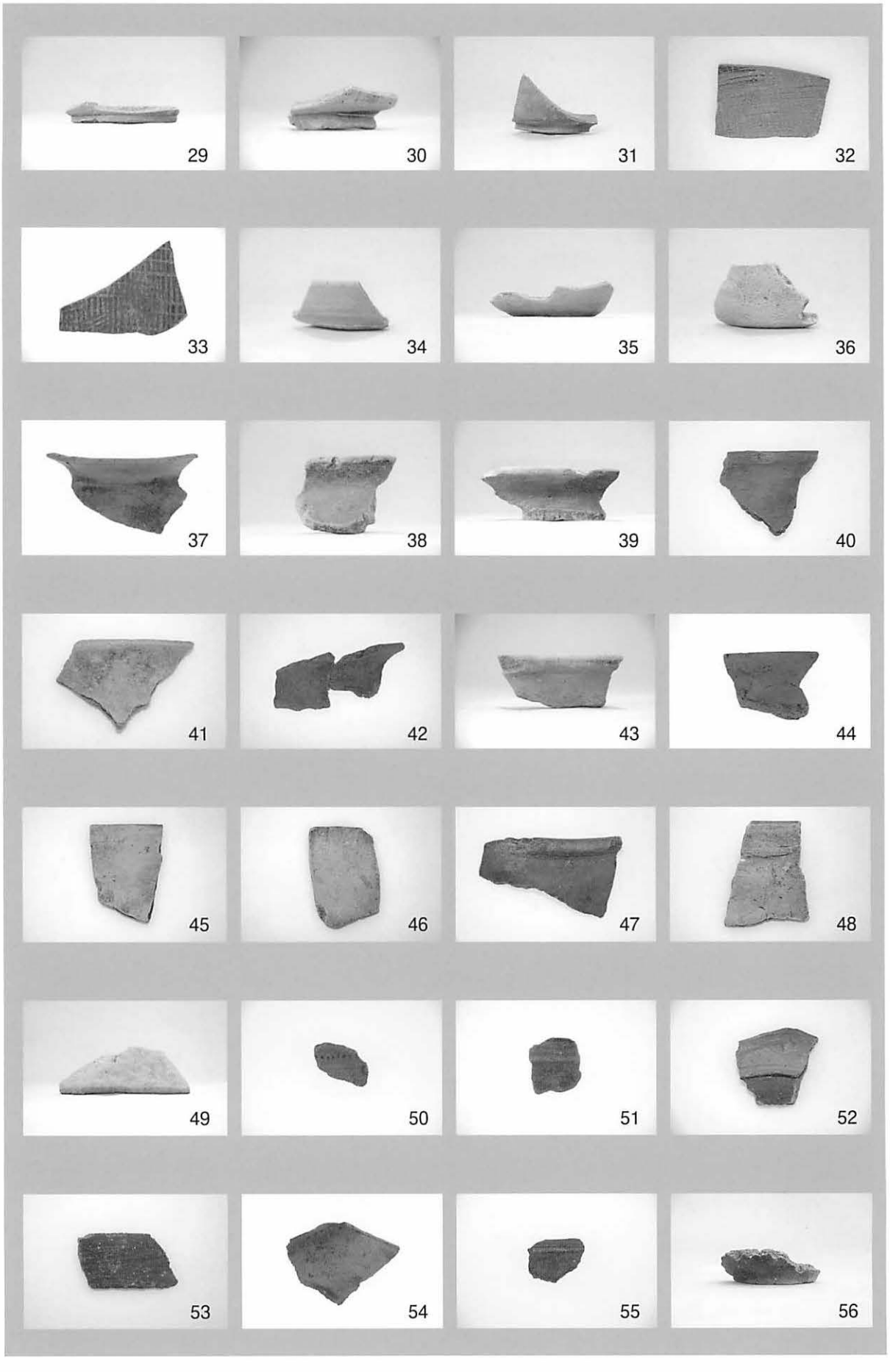


写真77　1号竪穴住居址竈出土土器（北より）

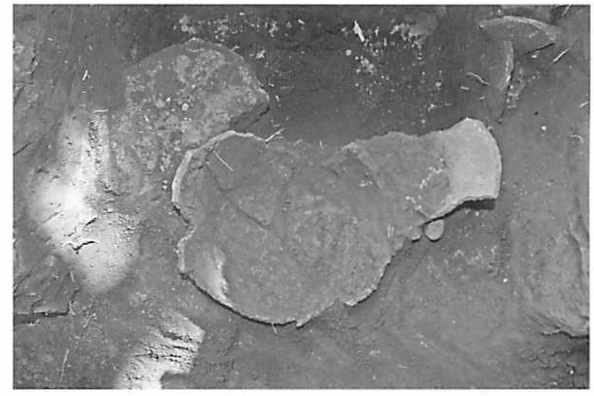


写真78　同上部除去後（北より）

写真79　3区掘削状況（西より）

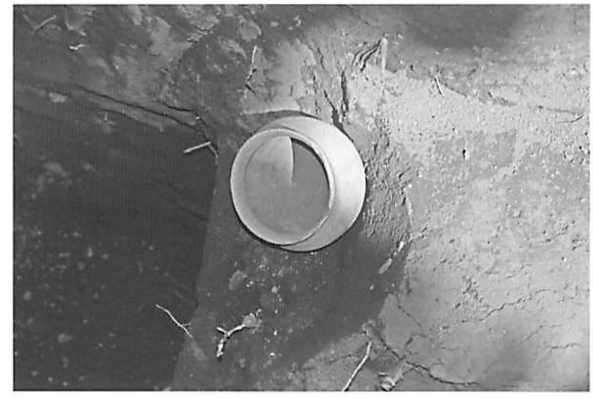
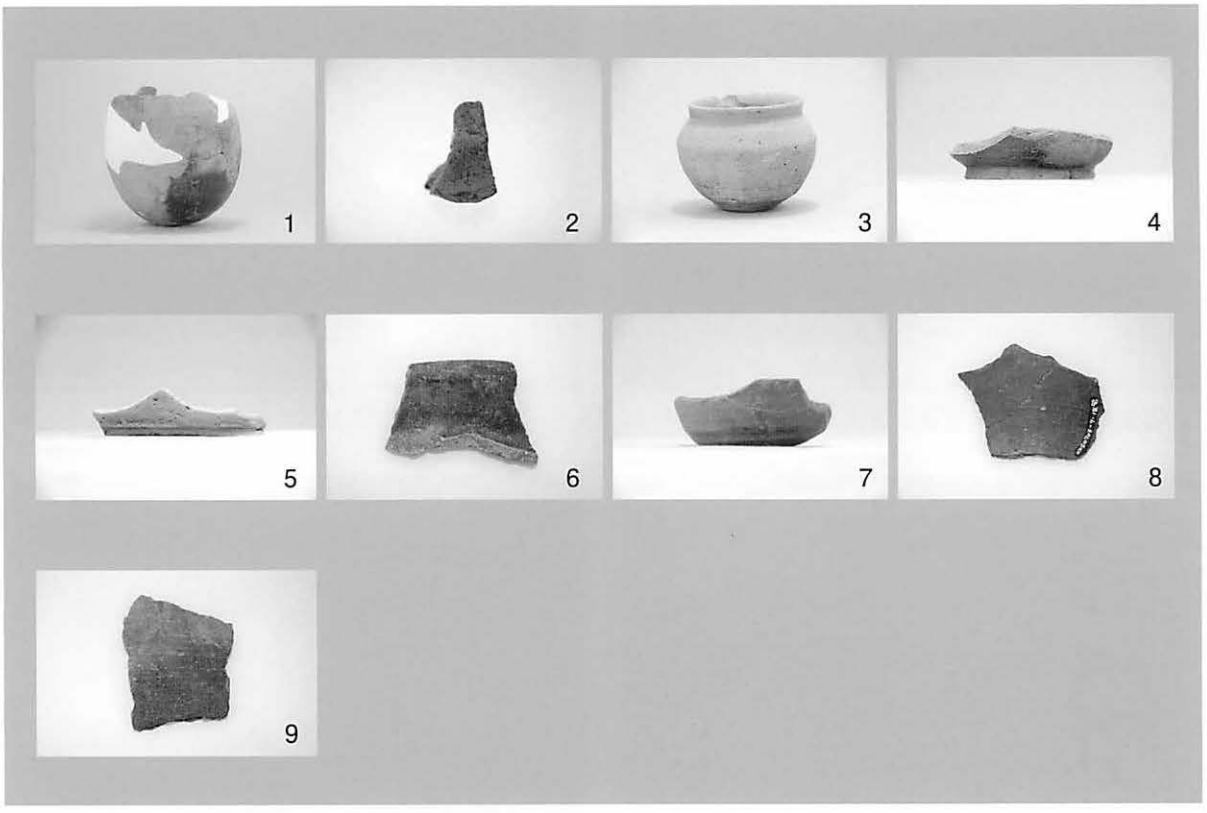


写真80　2号遺構出土小型壺（北より）

写真81　1号竪穴住居址・2号遺構検出状況（西より）

図版22　0703工⑦調査地点出土遺物

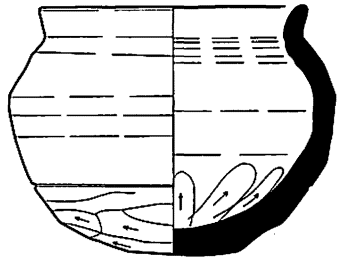


# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | くまもとだいがくこうないいせきはっくつちょうさほうこくⅦ |
| 書名 | 熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅶ |
| 副書名 | 黒髪南地区工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 熊本大学埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ号 | 第7集 |
| 編著者名 | 小畑弘己・大坪志子・檀佳克・村田知聖 |
| 編集機関 | 熊本大学埋蔵文化財調査室 |
| 所在地 | 〒860－8555　熊本県熊本市黒髪2－39－1　TEL.096－342－3832　FAX.096－342－3832 |
| 発行年月日 | 2010年4月30日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード 市町村 | コード 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工①地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'46" | 130°43'39" | 20050808～20050818 | 80.88㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工③地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'47" | 130°43'40" | 20051011～20051101 | 150㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工⑯地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'48" | 130°43'42" | 20051129・20051215 | 48㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工⑱地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'46" | 130°43'41" | 20051207 | 87㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工⑲地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'47" | 130°43'40" | 20051209 | 25㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513理①地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'48" | 130°43'44" | 20050901～20050914 | 67.6㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513理⑥地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'48" | 130°43'46" | 20051129～20051205 | 24㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513理⑩地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'47" | 130°43'46" | 20060104～20060119 | 89㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0612理②地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'47" | 130°43'46" | 20060522～22060524 | 30㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0612理④地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'49" | 130°43'46" | 20061215～20070109 | 162.7㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0703工⑦地点) | 熊本県熊本市黒髪 | 43201 | 278 | 32°48'49" | 130°43'42" | 20070925 20070927～20071002 | 275.5㎡ | 学校敷地内の開発事業に伴う |

| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工①地点) | 集落址 | 古代 | 竪穴住居址 3<br>柱穴 | 古代土師器・須恵器 | |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工③地点) | 集落址 | 古代 | 竪穴住居址・溝・土壙 | 土師器・須恵器 | |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工⑯地点) | 集落址 | 古代 | 竪穴住居址 1<br>柱穴 4 | 土師器・須恵器 | |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工⑱地点) | 集落址 | 古代 | 土壙 1 | 土師器・須恵器 | |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513工⑲地点) | 集落址 | 古代 | 溝状遺構 1<br>土壙 1 | 土師器・須恵器 | |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513理①地点) | 集落址 | 縄文・古代 | 竪穴住居址 3<br>土壙 1 | 縄文土器<br>古代土師器・須恵器 | |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513理⑥地点) | 集落址 | 古代 | 住居址・溝・土壙 | 古代土師器・須恵器 | |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0513理⑩地点) | 集落址 | 古代 | 住居址 5<br>溝 1<br>土壙 | 古代土師器・須恵器<br>陶磁器 | |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0612－④地点) | 集落址 | 古代 | 竪穴住居址・柱穴・溝 | 土師器・須恵器・動物骨 | |
| 黒髪町遺跡(くろかみまち)(0703－⑦地点) | 集落址 | 古代 | 竪穴住居址・土壙 | 土師器・須恵器 | |

熊本大学埋蔵文化財調査報告書　第７集
熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅶ
黒髪南地区工学部他校舎改修施設整備等事業に伴う発掘調査報告書

平成22年４月20日　印刷
平成22年４月30日　発行
編集・発行　熊本大学埋蔵文化財調査室
〒860－8555　熊本市黒髪２丁目39－１
TEL　096(312)1283　　FAX　096(312)1283
印　　刷　シモダ印刷株式会社